

2025年度

近畿大学建築学部 オンライン学士プログラム

シラバス一覧

外国語科目	02
総合科目	07
総合科目(オンデマンド授業)	20
基礎専門科目	52
複合専門科目	95

※シラバスは2024年12月現在の情報であり、今後、修正が出る可能性があります。

2025年4月以降、WEBシラバスに最新情報が掲載されますので、必ず4月以降にWEBシラバスを確認してください。

※英語総合、英語表現、ドイツ語読解、中国語読解、韓国語基礎、韓国語読解、健康スポーツ科学(実技)のシラバスは4月にWEBシラバスで公開されます。



WEBシラバス

外国語科目

科目コード	1509	科目名	ドイツ語基礎	テキスト授業	RE
<p>■ 授業概要・方法等</p> <p>日常のさまざまな場面で使われる会話体のテキストに従って、文法事項の説明、語彙や表現の説明、口頭練習などを段階的、反復的に行ない、ドイツ語の基本的な仕組みを学びます。またテキストの内容に関連して、ドイツ語圏の事情についても紹介します。</p> <p>■ 学習・教育目標及び到達目標</p> <p>ドイツはヨーロッパの中央に位置し、オーストリアやスイスの一部と共にドイツ語圏を形成し、周辺の国々や地域も含めて、約1億人の人たちがドイツ語を話し、EU（欧州連合）の中でドイツ語は最も多く使用されている重要な言語となっています。堅くて難しいというイメージが先行するドイツ語ですが、そのルーツは英語とかなり近い関係にあり、また語順などはむしろ日本語に似ているところもあり、私たち日本人には学びやすい言語だといえます。</p> <p>このテキストで表現されているドイツ語は、日常的に使われているものばかりです。いつかドイツ語圏へ旅行することがあれば、買い物やレストランでの食事の時にここで学ぶドイツ語を片言でも使えたら、いっそう楽しい体験ができるでしょう。</p> <p>ドイツ語を学ぶことを通して生活習慣や文化に触れて、さらに自分の世界を広げていきましょう。</p> <p>この科目の修得は、通信教育学部法律学科の定めるディプロマポリシー1の達成に関与しています。</p> <p>この科目の修得は、短期大学部通信教育部商経科の定めるディプロマポリシー4の達成に関与しています。</p> <p>■ 成績評価方法および基準</p> <p>レポートと科目終末試験の合格 100%</p> <p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法</p> <p>レポートについては、記述内容に講評を行い返却します。</p> <p>■ 授業時間外に必要な学修</p> <p>初めて学ぶ言語なので、毎日コツコツと勉強を続けることが大切です。分からない単語は前もって調べ、辞書を引く習慣をつけましょう。</p> <p>■ 教科書</p> <p>通信授業科目用テキスト『ドイツ語基礎』</p> <p>■ 参考文献</p> <p>(辞書)</p> <p>[ISBN] 9784261073065 『新キャンパス独和辞典』（在間 進, 郁文堂：2011）</p> <p>[ISBN] 9784810200065 『アポロン独和辞典（第3版）』（根本 道也, 同学社：2010）</p> <p>[ISBN] 9784384012347 『アクセス独和辞典（第3版）』（在間 進, 三修社：2010）</p> <p>(参考書)</p> <p>[ISBN] 9784810200058 『やさしい！ドイツ語の学習辞典』（根本 道也, 同学社：2005）</p> <p>[ISBN] 9784384053708 『ドイツ語のスタートライン』（在間 進, 三修社：2006）</p> <p>[ISBN] 9784384044201 『ドイツ文法の要点』（本郷 建治, 三修社：2011）</p> <p>[ISBN] 9784560086568 『ドイツ語のしくみ（新版）』（清野 智昭, 白水社：2014）</p> <p>■ 授業計画の項目・内容</p> <p>ドイツ語のポイントは動詞の変化と位置、そして名詞、代名詞の格変化です。特にこの二点に着目してドイツ語を学んでいくと、ドイツ語の仕組みがよく分かります。レポート及び科目終末試験でもここに重点を置いています。</p>					

科目コード	1513	科目名	中国語基礎	テキスト授業	RE
<p>■ 授業概要・方法等</p> <p>中国語は世界において使用人口の最も多い言葉であり、日本人にとっても親しみやすい言葉だと思います。中国は日本の26倍の広さを持って、また14億の人口があり、56の民族を有する多民族国家です。もちろん、言葉の種類も非常に多いです。約7つの方言—北方語、呉語（江蘇、浙江）、湘語（湖南）、贛語（江西）、客家語（広東、広西から福建の一部にまたがる）、閩語（福建）、粵語（広東）があります。これらの方言は外国語のようにまったく通じないほど違います。しかし、この7つの方言の中では、全人口の約70%の人が北方語を使っていると言われていて、この北方語の語彙を基礎とし、北京語の発音を標準音として、また文法は現代口語文で書かれた代表的著作を標準と定めたのが全国共通の「普通話」です。つまり、北京の発音で北方の言葉話すということです。この「普通話」が言わば標準語にあたります。</p> <p>中国語も日本語も漢字を用いて表記されるので、日本人にとって、中国語は他の外国語よりわかりやすいと考えられます。日本人の漢字に対する知識は中国語を学ぶうえで大きな手助けとなることは事実ですが、一方、それが落とし穴になることもあります。つまり、日本語と同じ漢字でも意味が違うものもありますので、中国の歴史、社会、風俗、習慣、衣食住などよく理解し、中国と日本の違いを把握することが中国語学習の基本です。中国語の特徴は大きく分けると、3つあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 一つの音節の中に必ず母音があります。また、母音を単独で使うことができます。 2. 一つの音節は、一つの漢字で表します。どの音節にも声調符号がついていて、声調が違えば意味も異なります。 3. 文法は語順と虚詞（実際上の意味を持たずに、文を構成するために用いられる品詞のこと）とを主要な手段としているため、語の順序を変えると意味が異なります。 <p>中国の文字については、かつて中国では「繁体字」（画数の多い複雑な字体）を使用（台湾・香港はいまも）していましたが、現在では「簡体字」（簡略化した字体）を正式に使用しています。「簡体字」は一部の日本語の略字と同じですが、大いに異なっていますので注意を要します。</p> <p>中国語は面倒な活用を覚えることがありませんので、入門しやすい言葉です。ただ、漢字になれているため、音声を軽視しがちになるので、この点に注意しなければなりません。また、中国語は声調が語の意味を決める重要な働きをしていますので、大切なポイントとなります。</p> <p>■ 学習・教育目標及び到達目標</p> <p>中国語の学習には、文法の理解は比較的に難しくありませんが、初心者にとって発音と声調という高低のアクセント（四声）の理解は決して容易ではありません。したがって、テキストを通して、現代中国語および現代中国の事情を理解して、「聞く」「話す」「読む」「書く」のため、正確な発音、基本的な語彙・文法などを身につけることを目標とします。</p> <p>この科目の修得は、通信教育学部法律学科の定めるディプロマポリシー1の達成に關与しています。 この科目の修得は、短期大学部通信教育部商経科の定めるディプロマポリシー4の達成に關与しています。</p> <p>■ 成績評価方法および基準</p> <p>レポートと科目終末試験の合格 100%</p> <p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法</p> <p>レポートについては、記述内容に講評を行い返却します。</p> <p>■ 授業時間外に必要な学修</p> <p>テキストや参考書などを何度も熟読し、すべての問題について自分で整理して、わからない語彙や文法など辞典で調べておけば、それほど解けない問題ではありません。ただし、基礎文法や慣用表現などをよく理解してから解答をしてください。</p> <p>■ 教科書</p> <p>通信授業科目用テキスト『中国語基礎』</p> <p>■ 授業計画の項目・内容</p> <p>外国語を学習する上での一番基本となる参考書は、何といたっても辞書に他なりません。最初から語彙の多い大型辞書を買うよりも、分かりやすい日中・中日辞書から勉強を始めるのがいいでしょう。</p> <p>また、試験やレポートについてはあくまでも自分なりに整理や作成し、他人が書いたものをそのまま写さないように注意してください。</p>					

科目コード	7701	科目名	英語読解	テキスト授業	RE
<p>■ 授業概要・方法等</p> <p>テキストは三つのグループに分かれています。第1のグループは、ユニット1から4までです。様式はいわゆる総合英語の様式で、異文化理解がテーマです。第2のグループは、ユニット5から12までで、いわゆる教養英語の様式で、異文化理解がテーマです。第3のグループは、ユニット13から20までで、教養英語の様式で国際問題がテーマです。第2、3グループは比較的難しい英語で書かれていますが、文法中心の注釈がついているので、注釈を参照しながら学習してください。レポートは、2000字レベルの記述問題で、終末試験は内容把握、文法説明、読解（日本語訳）問題で構成されます。</p> <p>■ 学習・教育目標及び到達目標</p> <p>大学生、社会人としての英語読解力を身につけることが目標です。テキストの注釈を頼りに精読することが求められます。辞書、文法書を用意して読み進めることが求められます。</p> <p>この科目の修得は、通信教育学部法律学科の定めるディプロマポリシー1の達成に關与しています。</p> <p>この科目の修得は、短期大学部通信教育部商経科の定めるディプロマポリシー4の達成に關与しています。</p> <p>■ 成績評価方法および基準</p> <p>レポートと科目終末試験の合格 100%</p> <p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法</p> <p>レポートについては、記述内容に講評を行い返却します。</p> <p>■ 教科書</p> <p>通信授業科目用テキスト『英語読解』</p> <p>■ 授業計画の項目・内容</p> <p>外国語に強くなるには、とにかくたくさんやる以外に方法はありません。読めるようになるにはたくさん読むこと、聞き取れるようになるにはたくさん聞くことです。そのためには労を惜しまず、少しの時間でも毎日かけるしかありません。それが努力というものでしょう。</p> <p>“There is no royal road to learning.”</p>					

科目コード	1501	科目名	英語特修 (A)	テキスト授業	RE
<p>■ 授業概要・方法等 この科目では、Anthony Sellick & James Buryの両氏によるエッセイ、Grand Tour-Seeing the World-『新たな時代への扉』を精読する。本文の英語は比較的平易で読みやすいので、巻末の「注釈」を活用し、また、しっかりと辞書を引きながら読みこなして欲しい。「注釈」を参考にし、文法書で文法項目などを確認しながら読み進めることにより、着実に英文の読解力は身につくはずである。(どうしても理解できない場合は、質問を「学習質疑」として事務局まで送ってください。)</p>					
<p>■ 学習・教育目標及び到達目標 英文を丁寧に読み、語彙力・文法力・読解力を養成することを目標とする。「なんとなく意味がわかれば良い」という心構えではなく、英語と日本語の構造的な違いにも注意を払いながら、「こなれた」日本語に訳せる力を身につけてもらいたい。本書には、様々な分野において現代の潮流となっている現象や問題となっている事象が取り上げられている。しっかりとした英語力を身につけると同時に、そうした現象・事象を多角的な視点から、詳細に見ることにより、幅広い見識を養ってください。 この科目の修得は、通信教育学部法律学科の定めるディプロマポリシー1, 2の達成に關与している。 この科目の修得は、短期大学部通信教育部商経科の定めるディプロマポリシー1, 2, 3, 4の達成に關与している。</p>					
<p>■ 成績評価方法および基準 レポートあるいは科目終末試験 100%</p>					
<p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法 レポートについては、記述内容に評価・講評を付けて返却します。</p>					
<p>■ 教科書 通信授業科目用テキスト『英語特修 (A)』</p>					
<p>■ 参考文献 [ISBN] 9784760820092 『英文法解説』(江川泰一郎 著, 金子書房:1991) [ISBN] 9784523251644 『英文法 ビフォー&アフター』(豊永 彰 著, 南雲堂:2023)</p>					
<p>■ 授業計画の項目・内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Chapter1 I Don't Know What to Believe 2. Chapter2 It's a Hikikomori World 3. Chapter3 Not just for Fun 4. Chapter4 See It While You Can 5. Chapter5 The World's Greatest Gamers 6. Chapter6 3-D Printed Limbs and Robot Doctors 7. Chapter7 Fake Burgers and Electric Gum 8. Chapter8 The Sports Space Race 9. Chapter9 Turn out the Lights 10. Chapter10 It's Good to Be Grumpy 11. Chapter11 A Full Working Week 12. Chapter12 Waste not, Want Not 13. Chapter13 Try This 14. Chapter14 Selling Sports 15. Chapter15 Paying for Information 					

総合科目

科目コード	1101	科目名	文化交流論（歴史）	テキスト授業	RE
<p>■ 授業概要・方法等 試験・レポートともに、テキスト・参考書の理解、独自の観点など総合的に評価する。自分の言葉で、論理的に叙述することが基本であり、テキスト・参考文献の丸写しは評価できない。独創的なものをうちだそうとする意欲の感じられる答案・レポートを歓迎したい。</p> <p>■ 学習・教育目標及び到達目標 文化交流論（歴史）では、まず学問としての「歴史」がもつ特徴を整理し、人類の歴史を時系列にそって概説しながら、近代以降についてはフランスを中心としたヨーロッパ史がはらむ問題点を整理し考察する。歴史学が直面した方法的問題や代表的学説にも言及していく。最終的には東アジアの片隅に生きる現在の我々自身を相対化する視座を構築し、文化的な意味で個性ある社交的能力に長けた人間の実現を目指したい。 とりわけ現在の我々はまさに歴史的な意味で大きな変化の段階を経験していると言っていいだろう。「パンデミック」「ポピュリズム」、そしてさらに問題を広げれば「国家」とは、「民族」とは、「民主主義」とは、そして「戦争」等々。このような本質的問題に向き合う格好のチャンスを生きているともいえる。この講座でもこうした問題を意識しよう。そしてもう一つ、この講座の表題には文化「交流」と書かれている。ここでは幅広く、異文化同士の「接触」、「対立」、「越境」、「浸透」といったことも意識して積極的に取り上げていきたい。</p> <p>■ 成績評価方法および基準 レポートと科目終末試験の合格 100%</p> <p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法 レポートについては、記述内容に講評を行い返却します。</p> <p>■ 授業時間外に必要な学修 テキストは、西欧の通史の部分はかなり要約したものになっているが、辞典・用語集などを利用して積極的に知識の確認を日常的に続けていただきたい。また、テキストの各章末に参考文献をあげておいたが、これもごく限られたものにすぎない。レポートの作成、終末試験の準備にあたっては、それ以外の文献もどんどん利用し、さらに映画・音楽・絵画・文学など様々なジャンルで歴史経験を積み、それが感じられる答案・レポートを高く評価したい。</p> <p>■ 教科書 通信授業科目用テキスト『文化交流論（歴史）』</p> <p>■ 授業計画の項目・内容 レポート同様、テキストをしっかりと読み込んでおくこと。さらに参考文献も含め他の書物にあたり、あらかじめ自分なりの答案を作成してみるといいだろう。終末試験当日はそれをしっかりと覚えて試験にのぞむことである。 テキストの「ワンポイント・レッスン」を勉強のきっかけにしてもらいたい。</p>					

科目コード	1104	科目名	日本文化論 (文学)	テキスト授業	RE								
<p>■ 授業概要・方法等</p> <p>我々の祖先が築いてきた日本文化のひとつに「文学」があります。日本という国の文化的背景から国文学がどのように発生し、時代の流れと共に国文学がどのように推移してきたのか、それぞれの時代を反映した言葉で綴られた国文学を概観します。</p> <p>グローバル社会を迎えた現代だからこそ、改めて自国の文化のひとつである国文学への理解を深めていただきたいと願っています。日本文学の特徴を知ることにより、日本という国の奥深さを世界に広めることができるでしょう。常にグローバルの視点を忘れずに、自国の文学を読み解いていきましょう。</p>													
<p>■ 学習・教育目標及び到達目標</p> <p>日本文化のひとつである「文学」の流れを知り、それぞれの時代を反映した「国文学の特色」が整理できることを学習・教育の目標としています。また、古代・中古・中世・近世・近代・現代へと繋がる「国文学の流れ」が理解できることを到達目標としています。</p> <p>読書することにより、深い知識が身につきます。興味のある書物を多読してください。多読することにより、語彙数も増え、表現も豊かになります。テキストに書かれていることを丸暗記するのではなく、内容を理解した上で独自の表現（自分の言葉）でまとめることが大切です。テキストを熟読した上で、出題されたレポート設題に対する解答を自らの文章で作成してください。</p>													
<p>■ 成績評価方法および基準</p> <p>レポートと科目終末試験の合格 100%</p>													
<p>■ 授業時間外に必要な学修</p> <p>まず、テキストを熟読してください。次に、他の書物（参考文献）に目を通します。参考文献は、ひとつのレポートに対して2冊以上読んでください。（作成の際には、レポートの最後に書名、著者、発行年、発行所を明記しましょう。）</p> <p>レポートは、自分の言葉でまとめましょう。テキストや参考文献をそのまま書き写すものではありません。テキストや参考文献から引用する際には、必ず引用記号（「 」）を用いて明記してください。</p>													
<p>■ 教科書</p> <p>通信授業科目用テキスト『国語表現法』</p>													
<p>■ 参考文献</p> <p>[ISBN] 9784883672219 『日本語表現法（「書く・話す・伝える」ための技法）』（西尾宣明 編著，樹村房：2013）</p>													
<p>■ 関連科目</p> <p>国語表現法</p>													
<p>■ 授業計画の項目・内容</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 日本文学の発生と特色</td> <td>2. 古代の文学</td> <td>3. 中古の文学</td> <td>4. 中世の文学</td> </tr> <tr> <td>5. 近世の文学</td> <td>6. 近代の文学</td> <td>7. 現代の文学</td> <td></td> </tr> </table>						1. 日本文学の発生と特色	2. 古代の文学	3. 中古の文学	4. 中世の文学	5. 近世の文学	6. 近代の文学	7. 現代の文学	
1. 日本文学の発生と特色	2. 古代の文学	3. 中古の文学	4. 中世の文学										
5. 近世の文学	6. 近代の文学	7. 現代の文学											

科目コード	1105	科目名	人間論 (心理学)	テキスト授業	RE
<p>■ 授業概要・方法等 心理学の知識は私たち自身を振り返る視点を提供してくれる。まずは様々な心理学の理論を正しく理解したい。そうすればその理論を通して私たちは自分の行動や思考を理解することができ、それらをコントロールし、よりよく生きていくことができると考えている。ただ課題をこなすだけでなく、自分の身に寄せて理解をすることで、より使える知識として身につけてほしい。</p> <p>■ 学習・教育目標及び到達目標 心理学の様々な知識を正しく理解することをまずは学習目標とする。これまで心理学は様々な研究や実験をおこない、人間の心や行動を説明する理論を構築してきた。それらの理論は、相互に矛盾するものもあるが、それぞれ心理学者の考えや実験、実践をもとにして客観的に示されたものであり、私たちの心や行動を理解するために役立つものである。 この人間論 (心理学) では、これらの心理学の理論についてまずは正しく理解し、続いてそれらの理論を通して自分の心や行動を理解し、よりよく生きていくために使える知識とすることを目指している。 テキストのみならず、引用文献や参考文献、さらにはインターネットなども利用して、それぞれの理論の内容についてしっかりと消化して理解し、表現することを求めたい。なお、chatGPTなど、AIによる文章作成記述が向上しているが、それらを利用して記述をすることは本授業の目標に合致しないこと、AIによる記述は著作権侵害の可能性があることなどの問題がある。内容の理解のために参照することは認めるが、記述は自らの文章と参考文献の引用によって行うこと。そのため、参考文献、引用文献の明示 (インターネットの文章を参照した場合はそのURLアドレスの明示) が必須である。 この科目の修得は、通信教育学部法律学科の定めるディプロマポリシー1の達成に参与しています。 この科目の修得は、短期大学部通信教育部商経科の定めるディプロマポリシー4の達成に参与しています。</p> <p>■ 成績評価方法および基準 レポートと科目終末試験の合格 100%</p> <p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法 レポートについては、記述内容に講評を行い返却します。</p> <p>■ 授業時間外に必要な学修 テキストだけで十分に理解できない内容については、ぜひ他の資料、引用文献や参考文献、インターネットや他の心理学テキストで補完をして確実に理解してほしい。レポートにせよ、科目終末試験にせよ、教科書や文献の丸写しでなく、しっかり自分で理解して回答してこそ、本当の使える知識になると考えている。</p> <p>■ 教科書 通信授業科目用テキスト『人間論 (心理学)』</p> <p>■ 授業計画の項目・内容 自分がどう考えるかという感想のような自分の意見を述べるのではなく、まずはきちんと理論や説を理解し、様々な現象を説明することが大切である。テキストを熟読し、十分に理解できない内容については、引用文献やインターネットなどを利用して正しく理解すること。どうしても自分の考えを述べたい場合は、正しい理論の説明を行った後に、その理論について自分の意見を述べること。</p>					

科目コード	1301	科目名	日本社会システム論（法学）	テキスト授業	RE
<p>■ 授業概要・方法等</p> <p>人間が社会生活を営む上でのルール、その一つである法について、法とは何か、法にはどのような種類があるか、法を解釈するとはどういうことか等を、考察する学問です。</p> <p>また、法的な考え方、すなわち、日常生活で起こりうる問題を、権利・義務の関係で、捉える力を養う学問でもあります。</p> <p>さらに、法律は、条文が大事です。面倒くさがらずに、六法で、条文を見るということを習慣づけるようにしてください。</p>					
<p>■ 学習・教育目標及び到達目標</p> <p>この科目の学習では、社会規範全般について検討したうえで、私たちの身近な生活の中で生じる問題を取り上げて、それらについて考えることを通じて、法的思考力の基礎の習得を目指します。</p> <p>この科目の修得は、通信教育学部法律学科の定めるディプロマポリシー2の達成に関与しています。</p> <p>この科目の修得は、短期大学部通信教育部商経科の定めるディプロマポリシー1の達成に関与しています。</p>					
<p>■ 成績評価方法および基準</p> <p>レポートと科目終末試験の合格 100%</p>					
<p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法</p> <p>レポートについては、記述内容に講評を行い返却します。</p>					
<p>■ 教科書</p> <p>[ISBN] 9784641222120 『法の世界へ（第9版）』（池田真朗 他著，有斐閣：2023）</p>					
<p>■ 参考文献</p> <p>[ISBN] 9784335001550 『プレステップ法学（第5版）：（プレステップシリーズ02）』（池田真朗 編，弘文堂：2023）</p> <p>[ISBN] 9784589039620 『18歳から考える家族と法』（二宮周平，法律文化社：2018）</p> <p>[ISBN] 9784641000292 『法律学小辞典（第5版）』（高橋和之 他編，有斐閣：2016）</p>					
<p>■ 関連科目</p> <p>私法入門Ⅰ（財産法）をはじめとする民事法関連科目</p>					
<p>■ 授業計画の項目・内容</p> <p>試験については、「説明しなさい」という設問に対して、使用テキスト『法の世界へ（第9版）』の内容を参考に明確に記述してください。使用テキストはもちろん、参考文献や法律用語辞典等も参照しながら学習してください。論作文レポートの書き方は、『通信授業科目レポート設題集』の中にある「レポートの書き方」「表現上の諸注意」に必ず目を通し、その内容を基準としてください。</p>					

科目コード	1302	科目名	国際社会システム論（社会学）	テキスト授業	RE
<p>■ 授業概要・方法等</p> <p>現代では、国民国家のボーダーを越境して、ヒト・モノ・カネ、情報が移動する「グローバリズム」がキーワードになりつつある。政治、経済、文化のグローバル化はますます進み、既存の価値体系が新たな枠組みに置き換えられようとしている。例えば経済の分野では、市場経済が世界的規模で拡大し、地域に固有な伝統的システムを改変しつつある。今や世界中のどのような地域においても、モノやサービスの交換や流通は、市場や貨幣を媒介してなされている。あるいは文化に関しては、特定の地域や国の名称を冠した「文化本質論」的な観点からではなく、人や情報の移動に伴ってハイブリッド化された「文化の混淆」の観点から分析されることが必要になっている。また、日本国内に目を転じれば、グローバリズムと経済発展により、少子高齢化や核家族化、過疎や過密、SNSによるいじめやサブカルチャーといった、従来とは異なる新たな論点が重要性を増してきている。</p> <p>この科目を通して、現代の国際社会および日本社会を構成している諸要素の成り立ちと、それらの背景、および問題点について、理解をさらに深めるとともに、批判的な視点をもてるようになってもらいたい。</p> <p>■ 学習・教育目標及び到達目標</p> <p>本科目の到達目標は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①現代社会の問題を理解し、多角的な視野で理解することができるようになる。 ②経済発展は豊かな生活の実現に寄与するだけでなく、人びとの価値観を変革し、社会システムを変容させることを知る。 ③グローバリゼーションの中で生起する「差異」が多層化を生み出す過程についての知識を得られるようにする。 <p>この科目の修得は、通信教育学部法律学科の定めるディプロマポリシー2の達成に参与しています。 この科目の修得は、短期大学部通信教育部商経科の定めるディプロマポリシー1, 2, 3, 4の達成に参与しています。</p> <p>■ 成績評価方法および基準</p> <p>レポートと科目終末試験の合格 100%</p> <p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法</p> <p>レポートについては、記述内容に講評を行い返却します。</p> <p>■ 授業時間外に必要な学修</p> <p>普段からグローバル化や国内問題についてのニュースや新聞記事に触れ、現代社会の理解に役立てること。</p> <p>■ 教科書</p> <p>通信授業科目用テキスト『国際社会システム論（グローバリゼーションの中で）』</p> <p>■ 授業計画の項目・内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書をよく読むこと。また必要文献を適宜探して自学すること。 2. レポートや試験では、「客観的事実」と「自分の意見」とを分けること。 3. 段落を分けて書くこと。字数の条件を守ること（条件を満たさぬものは不可）。 4. 読めない字は採点対象外。 5. また「丸写し」答案およびそれに準じるものは、レポートは何度でも再提出、試験は不合格とする。 					

科目コード	1303	科目名	国際社会システム論（政治学）	テキスト授業	RE
<p>■ 授業概要・方法等</p> <p>この科目は政治学における概念と理論を、その歴史的な発展と関連づけて学習し、現代の政治制度および政治過程についての知識を修得することを内容とする。テキストの学習を通じて現実の政治現象の枠組みをとらえることを目標としたい。</p> <p>■ 学習・教育目標及び到達目標</p> <p>毎日起きている様々な政治の世界の出来事は、一見ばらばらでつながりがないように見えても、①誰が、②何のために、③どのような場所で、④どのようなルールに従って活動しているのかを考えることができる。そうすることで、より立体的、体系的に理解することができる。政治学で学ぶのはそのような見方を身につけるための知識である。</p> <p>この科目の修得は、通信教育法学部法律学科の定めるディプロマポリシー2の達成に参与しています。</p> <p>この科目の修得は、短期大学部通信教育部商経科の定めるディプロマポリシー1, 2, 3, 4の達成に参与しています。</p> <p>■ 成績評価方法および基準</p> <p>レポートと科目終末試験の合格 100%</p> <p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法</p> <p>レポートについては、記述内容に講評を行い返却します。</p> <p>■ 教科書</p> <p>通信授業科目用テキスト『国際社会システム論（政治学）』</p> <p>■ 授業計画の項目・内容</p> <p>テキストを学習する際、重要事項については、その予備的な記述、本体部分、細かい説明、というように分かれて記述されています。自分が読んでいるのがどの部分に当たるのかを意識して読んでください。それから試験やレポートの際、テキストとは関係なく、自分が政治について思うことを書いてくる人がいます。政治について意見を持つことは必要ですが、一方で政治・スポーツ・教育というのは素人でも好き勝手に評価できる分野だともいわれています。100%自分の意見だけでは学習しているかどうかの判断ができないので、テキストの内容にもとづいて記述するようにしてください。</p>					

科目コード	1304	科目名	日本社会システム論（経済学）	テキスト授業	RE
<p>■ 授業概要・方法等 経済学は、国の舵取りなどに必要不可欠な重要な学問ですが、そのような大きな問題だけでなく、人間の意思決定や行動に絡む様々な現象（喫煙や肥満、恋愛も対象になります）を解き明かし、純粋に知的好奇心を満足させてくれる非常に面白い科学でもあります。ただ、経済学の「考え方」には相当に「癖」がありますので、それなりに勉強が必要になります。この科目では、経済学特有の「考え方」を中心に学びます。</p>					
<p>■ 学習・教育目標及び到達目標 経済学特有の「考え方」を身につけて、世の中の様々な現象を読み解くことができるようになることを目標とします。 この科目の修得は、通信教育学部法律学科の定めるディプロマポリシー2の達成に關与しています。 この科目の修得は、短期大学部通信教育部商経科の定めるディプロマポリシー1の達成に關与しています。</p>					
<p>■ 成績評価方法および基準 レポートと科目終末試験の合格 100%</p>					
<p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法 レポートについては、記述内容に講評を行い返却します。</p>					
<p>■ 授業時間外に必要な学修 世の中の様々な事柄に興味を持つようにしてください。そのために、新聞を出来るだけ読むことを推奨しますが、経済記事以外の記事にも目を通してください（芸能欄も含めて経済学のネタはあちらこちらに転がっています）。 また、教科書で書かれていることがしっかりと理解できるまで復習をしてください。教科書だけでは理解できないところは、関連文献などで調べて理解するようにしてください。教科書を理解できるまで読み込むと、相手にとって分かり易い文章作成や会話の能力が格段に上昇します。時間がかかりますが、是非頑張ってください。教科書の復習をしましょう。</p>					
<p>■ 教科書 通信授業科目用テキスト『日本社会システム論（経済学）』</p>					
<p>■ 参考文献 上記テキストに、文献案内が掲載されています。</p>					
<p>■ 関連科目 ミクロ経済学、マクロ経済学、財政学</p>					
<p>■ 授業計画の項目・内容 指定された教科書をまずは読み（最初は小説を読むつもりで楽しみながらざらりと、2回目以降は教科書の内容を鵜呑みにせずに、時には引っかかりながら）、次に教科書の中で出題される演習問題を解いてみてください。演習問題を解けなかった箇所を中心に、再度教科書を読んで思考の弱点を克服してください。また、演習問題を解いた後で、今度は自分で問題を作って（題材は私たちの身の回りにあふれています）解いてみる（自問自答する）ことをお勧めします。おそらく、より一層学習効果が高まるでしょう。</p>					

科目コード	1401	科目名	情報リテラシー論 (数学)	テキスト授業	RE
<p>■ 授業概要・方法等</p> <p>「線形代数」と「微分積分」を知っていれば、世界に通用する数学を身につけたことになる。これは、データ分析、コンピュータによる数値計算等が理解できるというだけではない。数学的な物の見方、考え方はあらゆる社会、経済生活に関わってくる。数学の「理論の証明」を読み、「具体的な計算例」の追試をすることで、論理的な思考力を鍛練することもできる。</p> <p>そこで、本科目では「線形代数学」「微分積分学」の基礎を学習していく。</p> <p>■ 学習・教育目標及び到達目標</p> <p>「線形代数学」の基礎として、1. 行列の定義を理解して基本操作ができるようになる、2. 行列を使って連立1次方程式を解ける、3. 行列式を様々な計算に活用できる、4. ベクトル空間について理解する、5. 線形写像について理解することを目標にする。</p> <p>また、「微分積分学」の基礎として、1. 関数と極限について理解する、2. 簡単な関数の微分をできる、3. 微分を応用して様々な計算ができる、4. 簡単な関数に対する不定積分、定積分を求められる、5. 定積分を応用して面積や体積を求められる、6. 簡単な微分方程式を解けることを目標とする。</p> <p>■ 成績評価方法および基準</p> <p>レポートと科目終末試験の合格 100%</p> <p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法</p> <p>レポートについては、記述内容に講評を行い返却します。</p> <p>■ 授業時間外に必要な学修</p> <p>例題、基本例題、重要例題の解答をしっかりと読み、その後にある問、演習問題を自力で解いてみる。分からないときは、巻末にある解答を参考にする。問、演習問題が十分でない場合は、参考書から問題を拾って補うこと。</p> <p>■ 教科書</p> <p>通信授業科目用テキスト『情報リテラシー論 (数学)』</p> <p>■ 参考文献</p> <p>[ISBN] 9784320016835 『やさしく学べる基礎数学—線形代数・微分積分—』(石村園子, 共立出版: 2001)</p> <p>[ISBN] 9784764905856 『基礎からスッキリわかる微分積分』(皆本晃弥, 近代科学社: 2019)</p> <p>[ISBN] 9784764905863 『基礎からスッキリわかる線形代数』(皆本晃弥, 近代科学社: 2019)</p> <p>■ 授業計画の項目・内容</p> <p>教科書に従って、線形代数学の行列、連立1次方程式、行列式、ベクトル空間、線形写像、および微分積分学の関数と極限、微分、微分の応用、不定積分、定積分、定積分の応用、微分方程式について学習する。</p>					

科目コード	1402	科目名	生命現象論 (生物学)	テキスト授業	RE
<p>■ 授業概要・方法等 生物学で学ぶ内容は、私たちもヒトという生物である以上、生きていく上で知っておかなければならないことです。また、地球上に生息する多種多様な生物の生命現象を理解することは、きっとあなたの生活で役にたつことだと考えています。一つ一つの生命現象を理解し、それがあなたの周囲の環境や日常生活とどう関わっているかを考え、知識として身につけてください。</p>					
<p>■ 学習・教育目標及び到達目標 生命の基本的な性質を理解し、形や性質が異なる多種多様な生物の生命現象に共通するものがあることを知ってもらいたい。さらに、生命の本質を自分なりに探究してもらいたい。それによって生命の尊さを感じ取れることが最終的な目標です。また、学習を通して新型コロナウイルスやワクチンなどのニュースを正しく評価できるリテラシーを身に付けることも目標の1つです。 この科目の修得は、通信教育学部法律学科の定めるディプロマ・ポリシー1の達成に關与しています。 この科目の修得は、短期大学部通信教育部商経科の定めるディプロマ・ポリシー4の達成に關与しています。</p>					
<p>■ 成績評価方法および基準 レポートと科目終末試験の合格 100%</p>					
<p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法 レポートについては、記述内容に講評を行い返却します。</p>					
<p>■ 授業時間外に必要な学修 他の資料や新聞、ニュースさらにインターネットを使ってテキストを補完し、確実に理解して欲しい。自分で理解してレポートを作成することが大切です。また、近年はips細胞や新型コロナウイルスの研究など、新たな成果が活発に発信されています。メディアで取り上げられる生物学に関する話題に興味を持ち、参考文献などで積極的に調べることを推奨します。 予習内容：各項目の理解 復習内容：内容の修得</p>					
<p>■ 教科書 通信授業科目用テキスト 『生命現象論 (生物学)』</p>					
<p>■ 参考文献 [ISBN] 9784274207440 『ベーシックマスター細胞生物学』(尾張部克志, 神谷 律 著, オーム社: 2009) [ISBN] 9784254171624 『分子細胞生物学 (第2版)』(多賀谷光男 著, 朝倉書店: 2016) [ISBN] 9784621302767 『キャンベル生物学 原書11版』(池内昌彦, 伊藤元己, 箸本春樹, 道上達男 訳, 丸善出版: 2018) ※高価なので図書館での利用を勧めます。</p>					
<p>■ 関連科目 生物学</p>					
<p>■ 授業計画の項目・内容 テキストを熟読し、図も含め、各項目の内容を理解すること。テキストの各章末の研究課題について考えることも理解の助けとなります。十分に理解できない時は、必ず参考文献やインターネット等を利用して正しく理解するように努めてください。内容によっては、まず箇条書きにして自分の考えをまとめ、それから文章を起こしていくのもよいでしょう。また、近年の生物学は分子生物学が主流となっていますが、分子生物学についてはテキストのみの学習では不十分な面があります。生物の根幹をなす「セントラルドグマ」についてなど、参考文献等を活用し、十分な学習を目指してください。 なお、レポートは調べた内容を応用して、論理的に考える経験を積んでもらうことを目的としています。自分自身の考えを持つことが大切です。</p>					

科目コード	1403	科目名	科学方法論（化学）	テキスト授業	RE
<p>■ 授業概要・方法等 化学とは、我々の身の回りに存在する物質のみならず、宇宙を構成する全ての物質の構造、性質、および物質の反応を対象とする学問である。化学に関する理解は、単に物質を科学的に理解するだけでなく、地球環境や生命などを正確に理解する上でも必要な知識である。この科目では教科書「科学方法論（化学）」を用いて、化学の基礎について学びます。</p> <p>■ 学習・教育目標及び到達目標 宇宙、そして地球上に存在するすべての物質は元素によって構成されている。元素は様々な結合形態により物質を作り出す。化学とは物質の構造、性質そして変化を取り扱う学問である。この科目では物質を構成する元素（原子）の構造と周期性、物質を形成する際のルール（化学結合）、物質の取りうる状態、化学反応など基本を理解した上で、物質の合成方法、エネルギー問題、環境問題、生体構成物質の役割を理解する。</p> <p>■ 成績評価方法および基準 レポートと科目終末試験の合格 100%</p> <p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法 レポートについては、記述内容に講評を行い返却します。</p> <p>■ 授業時間外に必要な学修 テキストだけで理解できない内容については、参考文献やインターネットにより補完して学習目標を完全に理解してください。</p> <p>■ 教科書 通信授業科目用テキスト『科学方法論（化学）』</p> <p>■ 参考文献 [ISBN] 9784785330675 『標準基礎化学』（梅本喜三郎 著、裳華房：2002） [ISBN] 9784320043770 『大学生のための例題で学ぶ化学入門』（大野公一、村田 滋、錦織紳一 著、共立出版：2005） [ISBN] 9784407319880 『Primary 大学テキスト これだけはおさえない化学』（井口洋夫、木下 寛、齋藤幸一 他著、実教出版：2010）</p>					

科目コード	1404	科目名	自然環境論（地理学）	テキスト授業	RE
<p>■ 授業概要・方法等 古代ギリシアで「土地を記述する学」として発達した地理学であったが、21世紀固有の地理学が求められている。その理由は①私たちが住む地球を取り巻く環境を学習し、災害の予知や防災、地球規模の環境問題を解決する学問である。②地球上に住む様々な人びとの生活様式を理解し、「異文化」へのやさしいまなざしを学ぶ学問であり、世界中の人びとと仲良くなれる。③地理学を学ぶことにより多くの知識を得て、私たちの人生はより楽しく豊かなものとなる。①は「役に立つ地理学」、②は「平和の地理学」、③は「知の地理学」といえよう。考古学が遺物を、歴史学が史料や文書を大切にするように、地理学では地図が重要である。また、地理学は「生きた学問」であり、分析に必要なデータ類は変化するので、常日頃から新聞、テレビなどの報道、インターネット情報などには注意し、手元に世界地図帳や世界統計などがあることが望ましい。</p>					
<p>■ 学習・教育目標及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地理学の二大分野である自然地理学的事象と人文地理学的事象の基礎事項を理解すること。 2. 日本各地、世界各地の地誌についての理解を深めること。 3. 統計資料と各種地図の内容を把握し、自ら主題図が作成できるようになること。 <p>この科目の修得は、通信教育学部法律学科の定めるディプロマポリシー1の達成に関与しています。 この科目の修得は、短期大学部通信教育部商経科の定めるディプロマポリシー4の達成に関与しています。</p>					
<p>■ 成績評価方法および基準 レポートと科目終末試験の合格 100%</p>					
<p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法 レポートについては、記述内容に講評を行い返却します。</p>					
<p>■ 教科書 通信授業科目用テキスト『自然環境論（地理学）』</p>					
<p>■ 参考文献 テキストの最後に列記</p>					
<p>■ 授業計画の項目・内容 レポートも試験もエッセイではなく、科学的根拠に基づいた科学性をもつものでなければならない。そのためには多くの文献を読み、分析力や思考力を身につける必要がある。教科書からは基礎的な事項を学び、そこから多様な文献や情報へむすびつけ、多面的・多角的な学修を展開させる必要がある。とくに、レポート作成ではこのような視点に立ったものでなければならない。学修の方法としては、まず選択する設題内容を理解し、そのなかで主要な項目（テーマ）について学ぶことが重要で、この学修は設題で求められる範囲を超えたものでなければ、学修効果は小さい。例えば、「10」の内容を事前に学んだとすれば、レポート作成に直接使われるのはせいぜい「2～3」程度とみるのがよいと思われる。つまり、レポートに直接反映されないことがらを理解することで、レポートで使用する内容が充実してくる。このプロセスがたいへん重要である。また、レポート作成段階には教科書や各種文献から文章群や内容そのものを引用したり、レポートの一部として、それらの内容が盛り込まれる場合をよくみかける。しかし、それらの著者は設題内容を説明するために記述しているわけではなく、別の目的をもっていることが多い。こういった点を認識したうえで、目的をはっきりとって作文したい。なおインターネット情報は活用すべきであるが、誤った情報も多いので利用にあたっては十分に精査する必要がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 参考文献などからの文章を引用、または引用に近い文章構成などとする場合、参考文献の著者は設題に答えることを「目的」に文章を作成していないため、自分のレポートの目的に応じて作文しなおさねばならない。そのため、原文そのものの引用は、避けるほうが好ましい。 (2) 添付する図表は「何でも適当なもの」を用意すればよいわけではありません。当然、本文の解説や分析に必要なものを厳選すべきである（複数になっても可）。ここでも既成の図表を引用してもよいが、自分の説明したい図表が見つからないときは、既成の図表に加筆修正を行ったり、オリジナルな図表を作成するなど、工夫が必要となる。 (3) レポート構成の様式、あるいは図表や参考文献の様式は教科書や地理学の文献を参照し、学修するようにしてください（必ずしも、完全な統一様式はありませんが、いくつかの基本形にしたがって作成してください）。 (4) 通信教育の宿命であるが、設題のキーワードや主要なテーマなどについて、教科書のほか、高校の検定教科書、各種の地理学の文献を活用し、独学でそれらを理解する必要がある。そのうえで、収集した情報をもとに作文（解答）してゆく方法が効果的である。このことが上記（1）を実践する場合に、大きな力ギとなってくる。 					

科目コード	1601	科目名	健康スポーツ科学	テキスト授業	RE
<p>※1602 健康スポーツ科学（実技）のシラバスは、4月以降WEBシラバスに掲載されます。</p>					
<p>■ 授業概要・方法等</p> <p>生涯にわたり健康で豊かな生活を送るために必要な知識や技能を学ぶ健康スポーツ科学は、現代社会の中で活動しながら大学課程を修めている通信教育部の学生諸君にとって、年齢、専門に関わりなく、必須の教養であると考えます。</p> <p>健康スポーツ科学理論は、生活における健康と運動の意義、運動とからだや心の健康の関係、健康な生活を送るための運動を科学的に理解し、生活に応用する能力を身につけてもらうようテキストや参考書によって学習します。</p> <p>広大な学問領域ですから、領域を適当にしぼり出題します。</p> <p>(ご参考)</p> <p>健康スポーツ科学実技は、近畿大学の教員が担当して面接（実技・実習）授業を行います。体力の回復・増進・維持においてライフスタイルの重要性が強調され、一要素として運動が重視されています。</p> <p>屋内でおこなう競技は、バドミントン、バレーボール、ソフトバレーボール、ビーチボールバレー、ピククルボール、フライングディスク、卓球、フットサル、キックベースボール、ゴルフなどから、毎時限2～4種目が教材として利用できますが、学生数に応じて設定できる種目を検討します。</p>					
<p>■ 学習・教育目標及び到達目標</p> <p>学習の目標を達成するためには、学生が自己の身体運動を理論的に解明し、それぞれが身体的・精神的・社会的健康の意義を踏まえて学習してください。身体運動を体験することで「型」の再認識と、その結果もたらされる社会規範の復活が健康スポーツ科学に課せられたもう一つの役割です。</p> <p>この科目の修得は、通信教育学部法律学科の定めるディプロマポリシー1の達成に関与しています。</p> <p>この科目の修得は、短期大学部通信教育部商経科の定めるディプロマポリシー4の達成に関与しています。</p>					
<p>■ 成績評価方法および基準</p> <p>レポートと科目終末試験の合格 100%</p>					
<p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法</p> <p>レポートについては、記述内容に必要ながあれば講評を行い返却します。</p>					
<p>■ 教科書</p> <p>通信授業科目用テキスト『健康スポーツ科学』大島 寛</p>					
<p>■ 参考文献</p> <p>『健康 厚生労働省』 https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/index.html (2024)</p>					
<p>■ 関連科目</p> <p>健康スポーツ科学（実技）</p>					
<p>■ 授業計画の項目・内容</p> <p>テキストを熟読し参考書などを利用し、すべての問題について自分の言葉でまとめること。その際、出題で問われている事柄や、ポイントを的確に押さえ学習すること。</p>					

総合科目

(オンデマンド授業)

※総合科目のオンデマンド授業は出願時に履修登録をおこないます。

※1728 暮らしのなかの起業入門
1741 データリテラシー入門
は、授業独自のルールがありますので
ご注意ください。
履修登録前に必ずシラバスを確認して
ください。

科目コード	1701	科目名	環境と社会	オンデマンド 授業	ME
<p>■ 授業概要</p> <p>地球上において生物は、環境からの影響を受けながら、お互いの相互作用の中で生命活動を営んでいる。この生態系の中であって、現代では人間社会の活動が環境に悪影響を及ぼすようになってきた。大気・土壌・水質汚染の問題、衣食住、社会環境の変化など（様々な要因）がこれまで動植物の生命、健康に影響を与えてきた。さらに産業の発展や我々の生活環境の変化は地球温暖化に確実に影響を与えている。2015年9月世界中の政府が合意した国連のSustainable Development Goals（SDGs；持続可能な開発目標）として17のゴールを掲げ、2030年の目標達成に向け動き出している。本講義ではこれら多岐にわたる環境と社会問題を取り上げ、特に最近の社会の環境変化がどのように影響を与えているのかを学び、サイエンスとして幅広い視野でそれらについて学び、持続可能な社会形成に向けた取り組みの在り方や問題意識をもって解決策を学習する。この授業はコンテンツ作成者の井田民男が作成したコンテンツを用い、担当教員が授業を実施します。</p>					
<p>■ 学習・教育目標及び到達目標</p> <p>地球環境の成り立ちや生態系の基礎知識を学びつつ、人間活動がもたらした環境問題を理解する。さらに、人間が生み出した科学技術が社会や環境に及ぼした影響を理解する。将来に向けて問題意識を持ち、理工学的な視点からの解決策を導くための基盤を作ること为目标とする。さらに、人の健康、生命の尊さを重んじ、理工の視点から課題の原因と現状について理解を深め、将来に向けて問題意識をもって解決策を提案・発信できるようになることを目標とする</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 地球規模の課題として、大気汚染、水質、化学物質、最近問題のプラスチックごみの海洋生物への影響などの把握、さらに地球温暖化に伴う気候変動対策の現状や世界の取り組みについて学ぶ。 2) 人を取り巻く社会環境の問題として、都市への人口の集中化、職場環境、危険薬物、衣食住の視点より健康の問題やその改善の取り組みの現状を理解する。 3) 日常生活の中で耳にする機会の多い環境問題についての概要を正しく理解し、自分なりの「持続可能な社会」に対する考えを持つ。 <p>この科目は、SDGsの主にNo. 2、4、7、8、9、11、12、13、14、15、16、17の成長目標の達成に 関与しています。 この科目の修得は、近畿大学の教養教育の目的1の達成に関与しています。</p>					
<p>■ 成績評価方法および基準</p> <p>単位修了試験 100%</p>					
<p>■ 教科書</p> <p>[ISBN] 9784339066609 『環境と社会－人類が自然と共生していくために－』（井田 民男，川村 淳浩，杉浦 公彦，コロナ社：2022）</p>					
<p>■ 参考文献</p> <p>[ISBN] 9784339066616 『バイオコークス－再生可能エネルギー社会の礎となる新しい固体バイオエネルギー－』（井田 民男，コロナ社：2022）</p> <p>[ISBN] 9784121026040 『SDGs（持続可能な開発目標）（中公新書）』（蟹江 憲史，中央公論新社：2020）</p> <p>[ISBN] 9784759819403 『環境科学入門 第2版：地球と人類の未来のために』（川合真一郎，化学同人：2018）</p> <p>[ISBN] 9784782707791 『エネルギーの科学－人類の未来にむけて』（安井伸郎，三共出版：2018）</p> <p>[ISBN] 9784759815320 『環境倫理入門－地球環境と科学技術の未来を考えるために』（近畿化学協会化学教育研究会，化学同人：2012）</p>					
<p>■ 関連科目</p> <p>資源とエネルギー、技術と倫理、科学的問題解決法、バイオエネルギー工学、熱力学の基礎、熱力学、鑄造工学、熱流体工学、エネルギー物質科学、水素エネルギー工学、太陽エネルギー工学、バイオエネルギー工学</p>					
<p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間</p> <p>この講義を履修することにより、人の活動と環境のかかわりを理解する。そして、将来社会人として地球規模の環境から身近で発生する人を取り巻く環境を含め、地球上の動植物の生存に向け多種多様な環境問題について学び、その指標であるSDGsを達成するため世界中の情報の共有化やそれらの改善に取り組む姿勢を養うことを目的としているため、ニュース、新聞等の最新情報をその原因は何かを考え、科学的な解決策を考えながら読んだり、聞いたりしながら社会を学習する。また、この科目は、資源とエネルギー、技術者倫理と大きく</p>					

関わっているので、その関連性も考えて学習すること。

第1回 環境と社会を巡って～その1～（授業形式：講義および演習）

概要 環境と社会に関する諸問題の解決を目指す科学の講義として位置付ける。世界的な取り組みである「持続可能な開発目標SDGs」を規範として、幅広い視野でそれらの現状の理解と改善策に向けた科学の在り方を学習する。

セクション1 環境と社会の目指すところ セクション概要環境と社会に関連した授業目標、達成目標を理解する。

セクション2 SDGs セクション概要SDGsに関する環境と社会に関する項目を理解する。

セクション3 科学と文化セクション概要科学・文化の始まりについて理解し、持続可能な社会の在り方について理解する。

第2回 環境と社会を巡って～その2～（授業形式：講義および演習）

概要 環境と社会はエネルギー基盤の上で食糧、人口、経済が入り組んだ複雑な問題を抱えている。特に、人口動態がその鍵を握っている。ここでは、人口動態予測とエネルギーと環境の同時解決を図ったCO2リサイクルシステム社会、さらに技術の中立性について学習する。

セクション1 人口増加とその予測 セクション概要 世界の人口増加の要因とその予測分析を理解する。

セクション2 CO2リサイクルシステム セクション概要 エネルギーと環境を同時に解決するアイデアと技術開発について学習する。

セクション3 科学と社会 セクション概要 中立な技術開発とその在り方について学習する。

第3回 地球システムを巡って（授業形式：講義および演習）

概要 サイエンスにおける環境と社会を理解するための地球システムについて学習する。

セクション1 持続可能な再生可能エネルギー セクション概要 持続可能なエネルギーの科学について学習する。

セクション2 再生可能エネルギーの科学1 セクション概要再生可能エネルギーの科学について学習する。

セクション3 再生可能エネルギーの科学2 セクション概要エネルギー転換、エクセルギーについて学習する。

第4回 自然に影響を及ぼしている環境問題と社会を巡って（授業形式：講義および演習）

概要 自然に影響を及ぼしているエネルギー開発が及ぼす環境への影響と社会について学習する。

セクション1 エネルギーと社会のゆくえセクション概要地球の有限性とその行方について学習する。

セクション2 再生可能エネルギーによる自然環境への影響1 セクション概要 風力・洋上エネルギーによる自然環境の現状と課題を学習する。

セクション3 再生可能エネルギーによる自然環境への影響2 セクション概要 バイオエネルギーによる自然環境への現状と課題を学習する。

第5回 生体に影響を及ぼしている環境問題と社会を巡って（授業形式：講義および演習）

概要 技術開発が生体に影響を及ぼしている環境問題と社会について学習する。

セクション1 沈黙の春から学ぶセクション概要化学物質の自然環境への影響と社会の変貌について学習する。

セクション2 海洋汚染と保全工学 セクション概要 海洋プラスチック、海洋汚染について学習する。

セクション3 放射能汚染と保全工学 セクション概要 放射能汚染と環境保全について学習する。

第6回 地球環境保全に向けた環境と社会を巡って（授業形式：講義および演習）

概要 地球環境保全に向けた環境と社会について学習する。

セクション1 マテリアル循環とエネルギー セクション概要 プラスチック製品等のマテリアル循環とエネルギーについて学習する。

セクション2 環境保全とISO セクション概要 環境保全とISOの意義について学習する。

セクション3 法工学 セクション概要 法工学の必要性和意義について学習する。

第7回 エネルギー資源を取り巻く環境と社会を巡って（授業形式：講義および演習）

概要 エネルギー資源を取り巻く環境と社会について学習する。

セクション1 エネルギー備蓄 セクション概要 持続可能な社会を支えるエネルギー備蓄について学習する。

セクション2 バイオエネルギーセクション概要持続可能なバイオエネルギーの基礎特性について学習する。

セクション3 核融合エネルギーセクション概要持続可能な核融合エネルギーの基礎特性について学習する。

第8回 技術開発を取り巻く環境と社会を巡って（授業形式：講義および演習）

概要 技術開発を取り巻く環境と社会について学習する。

セクション1 科学とは セクション概要 科学を根幹から見つめ直し、その必要性和独創性について学習する。

セクション2 地球規模課題対応国際科学技術協力セクション概要我が国が取り組むSATREPSを基に科学技術について学習する。

セクション3 ムーンショット型研究開発セクション概要我が国が取り組むムーンショットを基に科学技術について学習する。

第9回 環境倫理と技術開発（授業形式：講義および演習）

概要 環境倫理と技術開発の在り方について学習する。

セクション1 環境哲学セクション概要環境哲学の理念とい学問を学習する。

セクション2 環境倫理セクション概要環境哲学の理念と学問を学習する。

セクション3 環境倫理と技術開発 セクション概要 環境倫理と技術開発の学問を学習する。

第10回 共生の生態学（授業形式：講義および演習）

概要 社会が向かうべき共生の生態学について学習する。

セクション1 共生の生態学とはセクション概要共生の生態学の基礎を学習する。

セクション2 共生システム セクション概要 共生システムの基礎を学習する。

セクション3 共生へ向かって セクション概要 共生の在り方、特に障害者教育について学習する。

第11回 環境保全に向けた社会の在り方（授業形式：講義および演習）

概要 エネルギーと環境を取り巻く社会が向かうべく未来の像について学習する。

セクション1 持続可能なエネルギー セクション概要 化石エネルギーからバイオエネルギーへのシフトについて学習する。

セクション2 炭素循環セクション概要地球システムが有する炭素循環に組み込まれるカーボンニュートラルの概念を学習する。

セクション3 未来自動車 セクション概要 スターリングエンジンについて学習する。

第12回 持続可能な社会形成に向けた取り組み（廃棄物と社会）（授業形式：講義および演習）

概要 日常生活、社会活動において廃棄を資源化することは、重要な課題である。その取り組みについて学習する。

セクション1 廃棄物 セクション概要 廃棄物の現状と課題について学習する。

セクション2 廃棄物処理 セクション概要 廃棄物処理の現状と課題について学習する。

セクション3 廃棄物資源化 セクション概要 廃棄物の資源化の基礎について学習する。特に、食品ロスと汚泥資源の有効活用の取り組みについて学習する。

第13回 持続可能な社会形成に向けた取り組み（水素と社会）（授業形式：講義および演習）

概要 水素社会の到来は、世界の祈願であり、目指すべく究極の社会基盤であり、その科学について学習する。

セクション1 水素エネルギー セクション概要 水素エネルギーの基礎を学習する。

セクション2 従来型燃料電池 セクション概要 従来型燃料電池の基礎を学習する。

セクション3 新型燃料電池 セクション概要 新型燃料電池の基礎を学習する。

第14回 持続可能な社会形成に向けた取り組み（農業と社会）（授業形式：講義および演習）

概要 食糧確保は、世界の最大の課題である。食を科学し、その解決策について学習する。

セクション1 農業と気象 セクション概要 農業と気象について学習する。

セクション2 生物環境と農業 セクション概要 温室や植物工場について学習する。

セクション3 農業とエネルギーセクション概要農業とエネルギーについて学習する。

第15回 持続可能な社会形成に向けた取り組み（バイオエネルギーと社会）（授業形式：講義および演習）

概要 持続可能かつ再生可能なエネルギーである次世代固形バイオ燃料であるバイオコークスについて学習する。

セクション1 次世代固体バイオ燃料:バイオコークス セクション概要 次世代固体バイオ燃料:バイオコークスについて学習する。

セクション2 実用化に向けたバイオコークス セクション概要 実用化に向けたバイオコークスについて学習する。

セクション3 長期備蓄型再生可能エネルギー セクション概要 持続可能な長期備蓄型再生可能エネルギーについて学習する。

科目コード	1711	科目名	国際化と異文化理解	オンデマンド 授業	ME
<p>■ 授業概要</p> <p>この講義では中国・韓国・ドイツ・フランスの文化についての学びを通じ、国際社会の中で他者とともに生きるための方法を見出すことを目的とします。21世紀を生きる我々は、グローバル化の中で多様な価値観に触れています。その一方で各国のローカルな価値観に違和感を覚えたり、異文化圏との積極的な交流に不満を覚えたりする声が目につくようになりました。私たちは「国際化」と「異文化」という大きなテーマを改めて考え直す段階に来ているのではないのでしょうか。そこで本講義では中国・韓国・ドイツ・フランスを専門とする四名の教員が、各国の文化の特徴や問題を解説します。文化を「生きるための工夫」と見なし、他国の日常生活や民族間の摩擦の事例を読み解き、日本文化との共通点や差異を議論することで、国際社会を生きる我々の課題が浮き彫りになるはずでです。講義を通じて国際社会を他者とともに生きるための基礎的な能力を獲得しましょう。</p> <p>この授業はコンテンツ作成者が作成したコンテンツを用い、担当教員が授業を実施します。各回の作成者は授業計画の内容に記載のとおりです。</p>					
<p>■ 学習・教育目標及び到達目標</p> <p>この講義を受講することで、履修者は、</p> <ol style="list-style-type: none"> ①自分と他者、あるいは自文化と異文化を比較し、違いや共通点を見出す能力が身につく。 ②各回の課題やアクティビティを通じて自分の考えをしっかりとした言葉で伝えられるようになる。 ③各国文化（中国・韓国・ドイツ・フランス）について基礎的な知識を得ることができる。 					
<p>■ 成績評価方法および基準</p> <p>単位修了試験 100%</p>					
<p>■ 教科書</p> <p>教科書は使用しません。</p>					
<p>■ 参考文献</p> <p>[ISBN] 4130322028 『国際文化論』（平野 健一郎，東京大学出版会：2000）</p> <p>[ISBN] 4795402310 『国際文化学への第一歩』（静岡文化芸術大学文化政策学部国際文化学科，すずさわ書店：2013）</p> <p>[ISBN] 9784469212709 『カルチュラル・スタディーズへの招待』（本橋 哲也，大修館書店：2002）</p>					
<p>■ 関連科目</p> <p>すべての外国語科目、国際化と異文化理解</p>					
<p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間</p> <p>第1回 イン트로ダクション ～文化とは何か～（担当：高橋梓）（授業形式：講義および演習）</p> <p>第1回は文化とは何かという点について、先行研究に基づき概念を確認するとともに、本講義の全体像について概要を説明します。</p> <p>第2回 国際文化学とは何か（担当：高橋梓）（授業形式：講義および演習）</p> <p>第2回は本講義が立脚する国際文化学について説明します。国際関係を文化で見る試みを具体的にどのように進めるべきか確認しましょう。</p> <p>第3回 中国の基礎知識・言語（担当：阿部慎太郎）（授業形式：講義および演習）</p> <p>第3回目からは本講義の第一部「生きるための工夫（アジア編）」となります。</p> <p>第3、4回は中国の文化について考えていきます。</p> <p>第3回は、中国の基礎知識（人口、民族、言語、地域、通貨など）について紹介します。</p> <p>第4回 中国の食文化（担当：阿部慎太郎）（授業形式：講義および演習）</p> <p>第3、4回は中国の文化について考えていきます。</p> <p>第4回は、中国の食文化（中華料理、円卓、習慣など）について紹介します。</p> <p>第5回 韓国の基礎知識・食文化（担当：小島大輝）（授業形式：講義および演習）</p> <p>第5、6回は韓国の文化について考えていきます。</p> <p>第5回は、韓国の基礎知識と食文化（韓国料理、食習慣など）について紹介します。</p>					

第6回 韓国の住居文化とその周辺 (担当: 小島大輝) (授業形式: 講義および演習)

第5、6回は韓国の文化について考えていきます。

第6回は、韓国の住居と暮らし、関連する周辺の文化について紹介します。

**第7回 アジア編～まとめ～「小文字の文化」から国際社会を見る (担当: 高橋梓、阿部慎太郎、小島大輝)
(授業形式: 講義および演習)**

第3～6回で学んだアジア文化の特徴を題材に、文化から国際社会を見ることの意義を議論します。

第8回 フランスの基礎知識・フランス語圏 (担当: 高橋梓) (授業形式: 講義および演習)

第8回目からは本講義の第二部「文化と文化のあいだ (ヨーロッパ編)」となります。

第8、9回は中国の文化について考えていきます。

第8回はフランスの基礎知識と、フランス以外でフランス語を使用しているフランス語圏の実態や、フランス国内の少数言語について紹介します。

第9回 フランスの移民問題 (担当: 高橋梓) (授業形式: 講義および演習)

第9回はフランスの移民の歴史、現在の状況、社会問題について説明します。

第10回 ドイツの基礎知識・ドイツ語圏 (担当: 大喜祐太) (授業形式: 講義および演習)

第10、11回はドイツの文化について考えていきます。

第10回はドイツの基礎知識と、ドイツ以外でドイツ語を使用しているドイツ語圏の実態について、特に多言語国家スイスの言語状況を例にして紹介します。

第11回 ドイツの移民問題・ドイツ語圏 (担当: 大喜祐太) (授業形式: 講義および演習)

第10回はドイツやドイツ語が話される地域の移民の歴史、現在の状況、社会問題について説明します。

**第12回 まとめ～ヨーロッパ編～文化と文化のあいだ～ (担当: 高橋梓、大喜祐太)
(授業形式: 講義および演習)**

第8～11回で学んだヨーロッパ文化の特徴を題材に、主に文化触変論に基づき考察します。

第13回 自文化と異文化① ブルーストを読む堀辰雄 (前篇) (担当: 高橋梓) (授業形式: 講義および演習)

第13回目からは本講義の第三部「文化の接触と変容」となります。

第13回、14回は文学作品を題材として、文化を生きる個人の精神に目を向けます。

第13回は堀辰雄とマルセル・ブルーストが宗教芸術を見る視点に文化の差異を超えた共通点が潜むことを明らかにします。

第14回 自文化と異文化② ブルーストを読む堀辰雄 (後編) (担当: 高橋梓) (授業形式: 講義および演習)

第14回は、前半で明らかにした両文化圏の共通点がなぜ起こるのか、作品分析に基づきながら理由を考察し、自文化と異文化のあいだに潜む普遍的な特性に迫ります。

**第15回 まとめ ～国際社会で他者と生きるために (担当: 高橋梓、大喜祐太、阿部慎太郎、小島大輝)
(授業形式: 講義および演習)**

第15回では、これまでの講義内容を踏まえ、担当教員が日本に寝付いた異文化の事例を挙げながら、国際社会の中で他者とともに生きるためのヒントや問題点を議論します。

科目コード	1712	科目名	日本語の技法	オンデマンド 授業	ME
<p>■ 授業概要 本講義は、それぞれの専門家によるオムニバス形式となっており、多様な日本語の魅力に触れるものとなっている。多角的な視点で日本語の基礎力を身につけられるようになっている。 授業形態は、オンデマンド形式であり、各自映像で自主学習を行い、その後課題に取り組む主体的な学びを促進するものである。 この授業はコンテンツ作成者が作成したコンテンツを用い、担当教員が授業を実施します。各回の作成者は授業計画の内容に記載のとおりです。</p> <p>■ 学習・教育目標及び到達目標 「日本語」を使ったコミュニケーションを「話す」「書く」「読む」「聞く」のあらゆる角度から捉え、日本語の特徴や文化的背景も踏まえてその技法を学び、表現力を高めることを目的としている。 またレポート作成をはじめとする大学生活に必要な学びの基礎のみならず、履歴書や自己アピールなどの就職活動、会議やプレゼンテーションなどの社会人生活に必要な実践力をも身につけることを目的としている。</p> <p>■ 成績評価方法および基準 単位修了試験 100%</p> <p>■ 教科書 [ISBN] 9784623078776 『知的技法としてのコミュニケーション：「話す力」は「生きる力』』（児島建次郎、ミネルヴァ書房：2017）</p> <p>■ 関連科目 日本語の技法、日本語の表現</p> <p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間</p> <p>第1回 話すための基礎技術（寺西裕一）授業形式：講義および演習 第2回 話し上手は聞き上手（寺西裕一）授業形式：講義および演習 第3回 パブリックスピーキング（寺西裕一）授業形式：講義および演習 第4回 声は人なり（都築由美）授業形式：講義および演習 第5回 プレゼンテーション（都築由美）授業形式：講義および演習 第6回 日本語の性格1（山王丸有紀）授業形式：講義および演習 第7回 日本語の性格2（山王丸有紀）授業形式：講義および演習 第8回 敬語（都築由美）授業形式：講義および演習 第9回 文法カテゴリーと表現性（森久国雄）授業形式：講義および演習 第10回 ことばのバリエーション（森久国雄）授業形式：講義および演習 第11回 レポートの書き方①（田中教子）授業形式：講義および演習 第12回 レポートの書き方②（田中教子）授業形式：講義および演習 第13回 レポートの書き方③（田中教子）授業形式：講義および演習 第14回 企画書（石橋明子）授業形式：講義および演習 第15回 メール・手紙（石橋明子）授業形式：講義および演習</p> <p>定期試験を行う</p>					

科目コード	1721	科目名	住みよい社会と福祉	オンデマンド 授業	ME
<p>■ 授業概要</p> <p>「住みよい社会」とはどのような社会でしょうか。また、「福祉」とはどのようなイメージをもっているでしょうか。</p> <p>「住みよい社会」を目指すには、現状がどうであるのかを理解し、その課題を把握し、解決していく視点が必要です。</p> <p>さまざまな視点からの困りごとや、その解決について考えていくことができるようになってもらいたいと考えています。</p> <p>なお、話の内容が判別可能な速度で視聴してください。各自、受講計画を立て、自主的に、受講いただきたいです。</p> <p>(この授業はコンテンツ作成者が作成したコンテンツを用い、担当教員が授業を実施します。)</p>					
<p>■ 学習・教育目標及び到達目標</p> <p>この科目の修得は、近畿大学の教養教育の目的1（個人の自由と平等を尊重し、社会において担うべき責任を理解し、公正に判断する能力を養う。）の達成に關与する。</p>					
<p>■ 成績評価方法および基準</p> <p>単位修了試験 100%</p>					
<p>■ 教科書</p> <p>指定しない</p>					
<p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間</p> <p>第1回 オリエンテーション/合理的配慮について オリエンテーション 全15回に行う内容の概略を説明する。 セクション1 福祉とは セクション2 合理的配慮とは セクション3 差別解消への取り組み</p> <p>第2回 視覚障がい者と福祉 セクション1 視覚障がい者とは？ セクション2 視覚障がい者への支援 セクション3 盲導犬の理解</p> <p>第3回 聴覚障がい者と福祉 セクション1 聴覚障がいとは？ セクション2 聴覚障がい者の困りごとと支援 セクション3 電話リレーサービスとは</p> <p>第4回 肢体不自由者と福祉 セクション1 肢体不自由とは？ セクション2 肢体不自由者の困りごとと支援 セクション3 車いすでの旅行</p> <p>第5回 知的障がい者と福祉 セクション1 知的障がい者とは？ セクション2 知的障がい者の困りごとと支援 セクション3 インクルーシブ教育とは</p> <p>第6回 精神障がい者と福祉 セクション1 精神障がいとは？ セクション2 精神障がい者の現状 セクション3 精神障がい者への対応</p> <p>第7回 発達障がい者と福祉その1 セクション1 発達障がいとは？</p>					

- セクション2 小児期のADHD事例
- セクション3 小児期のADHD事例その後

第8回発達障がい者と福祉その2

- セクション1 成人期のADHD事例
- セクション2 ASDの事例
- セクション3 発達障がいへの合理的配慮

第9回虐待について

- セクション1 虐待とは？
- セクション2 不適切なケア
- セクション3 虐待防止への取り組み

第10回認知症高齢者について

- セクション1 認知症の原因疾患について
- セクション2 認知症の症状について
- セクション3 認知症高齢者への接し方

第11回生活困窮者に関する取り組み

- セクション1 生活困窮者とは？
- セクション2 生活困窮者の現状
- セクション3 生活困窮者への支援

第12回ヤングケアラーに関する取り組み

- セクション1 ヤングケアラーとは？
- セクション2 ヤングケアラーの現状
- セクション3 ヤングケアラーへの支援

第13回LGBTに関する取り組み

- セクション1 LGBTとは？
- セクション2 SOGIとは？
- セクション3 LGBTへの具体的な取り組み

第14回バリアフリーとユニバーサルデザイン

- セクション1 物理的バリアフリーとは？
- セクション2 心のバリアフリーとは？
- セクション3 ユニバーサルデザインとは？

第15回まとめ・地域福祉について

- セクション1 地域福祉とは？
- セクション2 地域福祉コーディネーターとは？
- セクション3 地域で支え合うということ

科目コード	1722	科目名	暮らしのなかの憲法	オンデマンド 授業	ME
<p>■ 授業概要</p> <p>「憲法」と聞いて、みなさんはどのような印象をおもちですか。私たちは普段、憲法が存在を意識して生活することは、ほとんどないかと思います。しかし、その実、憲法は、国の最高法規として、一人ひとりのもつ大事な権利や自由を定め、そしてそれらを守る仕組みを定めている、私たちにはなくてはならない大切な法律です。そこで本授業では、憲法の基本的な枠組みや考え方などを理解していただけるよう、主に、日本国憲法を中心に、具体的事例（裁判例を含む）の学習を通じて、基本的知識の理解を目的としています。とはいえ、本授業は、暗記中心の学習ではありません。現実が生じている様々な事象の検討を通じて、それら問題を法的にどのように解決すべきか、みなさんには、その法的解決に向けた考え方を習得していただくこととなります。なお、メディア受講に際しては、事前の教科書熟読が必須となります。そして、各自、必要に応じてノートをとってください。と同時に、必要に応じて、条文を参照してください。条文の参照方法は、第1回の授業で説明をしています。</p> <p>ちなみに、みなさん方の受講に際しては、大学からの受講案内でも示されているように、予め一定の期間を設定して、受講確認がなされる予定です。レポート作成・提出においても、メディア受講は前提（必須）条件となります（成績評価に際しては10回以上：10回を含む、受講をしていることが条件です。）。加えて、話者の話の内容が判別可能な速度で視聴してください。各自、受講計画を立て、自覚的に、受講いただくことを、切に希望しております。</p> <p>（この授業はコンテンツ作成者重村が作成したコンテンツを用い、担当教員が授業を実施します。）</p> <p>■ 学習・教育目標及び到達目標</p> <p>受講生は、この授業を受講することにより、①日本国憲法の基本的人権ならびに統治機構の概要を説明し、②憲法問題に対して自身の見解を示すことができるようになります。</p> <p>■ 成績評価方法および基準</p> <p>単位修了試験 100%</p> <p>■ 教科書</p> <p>[ISBN] 9784842010731 『判例で学ぶ日本国憲法 [第二版]』（西村 裕三 編，有信堂高文社：2016）</p> <p>■ 参考文献</p> <p>[ISBN] 9784000613224 『憲法 第七版』（芦部 信喜，岩波書店：2019） [ISBN] 9784865281132 『立憲主義について 成立過程と現代（放送大学叢書）』（佐藤 幸治，左右社：2015） [ISBN] 9784779509704 『憲法判例クロニクル』（吉田 他 編，ナカニシヤ出版：2016）</p> <p>■ 関連科目</p> <p>「現代社会と法」など</p> <p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間</p> <p>第1回 概要 憲法とはなにか（授業形式：講義および演習） 法律の学習を始めるために必要となる法学・憲法の基礎的事項を学ぶ セクション1 法とは何か セクション概要 法とは何かについて学ぶ セクション2 憲法とは何か セクション概要 憲法とは何かについて学ぶ セクション3 日本国憲法概説 セクション概要 憲法制定過程と基本原則を学ぶ</p> <p>第2回 立法権と行政権（授業形式：講義および演習） 三権分立のうち、立法権と行政権を学ぶ セクション1 三権分立とは？ セクション概要 三権分立の概説を学ぶ セクション2 日本の統治機構・立法権 セクション概要 国会の組織と役割を学ぶ セクション3 日本の統治機構・行政権 セクション概要 内閣の組織と役割を学ぶ</p> <p>第3回 司法権（授業形式：講義および演習） 概要三権分立のうち、司法権について学ぶ セクション1 司法権とは？ セクション概要 司法権の範囲と限界について学ぶ セクション2 裁判所組織について セクション概要 裁判所組織と審級について学ぶ セクション3 裁判官 セクション概要 裁判官の身分保障について学ぶ</p>					

第4回 司法審査権（授業形式：講義および演習）

概要 司法審査権について学ぶ

セクション1 司法審査権の目的と方法 セクション概要 司法審査権の目的と方法について学ぶ

セクション2 違憲審査基準 セクション概要 違憲審査基準について学ぶ

セクション3 司法積極主義・消極主義 セクション概要 司法積極主義・消極主義について学ぶ

第5回 基本的人権総論（授業形式：講義および演習）

概要 基本的人権の総論部分学ぶ

セクション1 人権の歴史 セクション概要 人権が確立していった過程を学ぶ

セクション2 人権の分類 セクション概要 日本国憲法の人権規定を概括的に学ぶ

セクション3 人権の限界 セクション概要 基本的人権の限界について学ぶ

第6回 幸福追求権（授業形式：講義および演習）

概要 幸福追求権を軸に主張される権利や自由について学ぶ

セクション1 幸福追求権とは？ セクション概要幸福追求権の概説を学ぶ

セクション2 プライバシーの権利 セクション概要 プライバシーの権利について学ぶ

セクション3 判例をみる セクション概要 プライバシーの権利の判例から学ぶ

第7回 法の下での平等（授業形式：講義および演習）

概要 憲法が意味する平等とは何かを学ぶ

セクション1 憲法の平等保障規定 セクション概要 日本国憲法が規定する平等規定について学ぶ

セクション2 平等とは？ セクション概要 憲法が示す「平等」の意味について学ぶ

セクション3 判例をみる セクション概要 平等権に関する基本事例から学ぶ

第8回 信教の自由・政教分離（授業形式：講義および演習）

概要 信教の自由が保障する範囲と政教分離について学ぶ

セクション1 信教の自由とは？ セクション概要信教の自由が規定された背景を学ぶ

セクション2 政教分離セクション概要政教分離原則について学ぶ

セクション3 判例をみる セクション概要 政教分離の基本事例から学ぶ

第9回 表現の自由（授業形式：講義および演習）

概要表現の自由がなぜ「優越的地位」にあるといわれるのか学ぶ

セクション1 表現の自由とは？ セクション概要表現の自由の優越的地位の原則について学ぶ

セクション2 マス・メディアの取材・報道の自由セクション概要マス・メディアの取材・報道の自由について学ぶ

セクション3 判例をみるセクション概要取材・報道の自由の基本事例から学ぶ

第10回 学問の自由・教育を受ける権利（授業形式：講義および演習）

概要 大学における「学問」とはどのようなものか学ぶ

セクション1 学問の自由とは？ セクション概要学問の自由の保障の範囲と限界を学ぶ

セクション2 大学の自治 セクション概要 大学の自治について学ぶ

セクション3 判例をみる セクション概要 学問の自由の基本判例から学ぶ

第11回 経済活動の自由（授業形式：講義および演習）

概要 私有財産制度について憲法から学ぶ

セクション1 経済活動の自由とは？ セクション概要 経済活動の自由について内容を学ぶ

セクション2 財産権の保障 セクション概要 財産権の保障について学ぶ

セクション3 判例をみる セクション概要 財産権の保障の基本事例から学ぶ

第12回 人身の自由（授業形式：講義および演習）

概要 刑事疑義者・被告人の権利について学ぶ

セクション1 罪刑法定主義とは？ セクション概要 罪刑法定主義について学ぶ

セクション2 人身の自由 セクション概要 人身の自由の内容について学ぶ

セクション3 判例をみる セクション概要 人身の自由の基本事例から学ぶ

第13回 生存権（授業形式：講義および演習）

概要 憲法が保障する「健康で文化的な最低限度の生活」とは何かを学ぶ

セクション1 生存権とは？ セクション概要 生存権の法的性格について学ぶ

セクション2 日本の社会保障制度 セクション概要 社会保障制度の種類と内容を概括的に学ぶ

セッション3 判例をみる セクション概要 生存権の基本事例から学ぶ

第14回 労働基本権（授業形式：講義および演習）

概要 労働三権について学ぶ。ここでは特に、公務員の労働基本権について学ぶ

セッション1 勤労の権利とは？ セクション概要 労働三権について学ぶ

セッション2 公務員の労働基本権 セクション概要 公務員の労働基本権について学ぶ

セッション3 判例をみる セクション概要 公務員の労働基本権の基本事例から学ぶ

第15回 参政権（授業形式：講義および演習）

概要 選挙の基本原則について学ぶ

セッション1 参政権とは？ セクション概要 参政権の概要について学ぶ

セッション2 選挙制度の基本原則 セクション概要 選挙の5つの基本原則を学ぶ

セッション3 判例をみる セクション概要 基本原則に関する基本事例から学ぶ

科目コード	1724	科目名	キャリアデザイン	オンデマンド 授業	ME
<p>■ 授業概要 今後の職業人は、自律したキャリアを歩む必要があります。そのためには、自分自身の価値観や仕事の経験、社会での就労形態などを客観的に見つけ、分析し、自発的なキャリア形成をする力を養っておかなければなりません。また、組織にもそうした自発的なキャリアを歩む個人を上手にマネジメントすることで、貴重な人材資源を活用することが求められています。 本授業は、そうした考え方を学ぶための理論的な解説や事例の検討などで構成します。 なお、この授業はコンテンツ作成者谷口智彦が作成したコンテンツを用い、担当教員が授業を実施します。</p> <p>■ 学習・教育目標及び到達目標 現代の社会経済環境を認識し、自ら自律的にキャリア形成が行える視点を身につけ、さらに経営的観点からも人材を捉えることで企業等の組織で活躍できる人材として必要な基本的な知識を習得することを目的とします。</p> <p>■ 成績評価方法および基準 単位修了試験 100%</p> <p>■ 教科書 [ISBN] 9798408398553 『近大生のためのキャリアデザイン－KICSキャリアデザイン補助教材－（電子書籍）』（谷口 智彦, Independently published : 2022) http://www.amazon.co.jp/dp/B09RFDDCJD 『近大生のためのキャリアデザイン－KICSキャリアデザイン補助教材－（ペーパーバック）』 https://www.amazon.co.jp/dp/B09S244GSJ オンデマンド動画の内容をテキスト化したものです。各回の確認テスト及び授業のレポート課題、将来の就活時など、授業内容を再度見返したい場合に活用できます。 電子書籍はAmazon Kindleアプリにより、スマホ、タブレット、PC等で読むことが可能です。</p> <p>■ 参考文献 [ISBN] 9784532110017 『人材マネジメント入門 日経文庫B76』（守島 基博, 日本経済新聞出版：2004） [ISBN] 9784569619415 『働くひとのためのキャリア・デザイン（PHP新書）』（金井 壽宏, PHP研究所：2002） [ISBN] 9784833419093 『「見どころのある部下」支援法（ワークス人と組織選書）』（谷口智彦, プレジデント社：2009） [ISBN] 9784833491181 『「いっしょに働きたくなる人」の育て方－マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究（ワークス人と組織選書）』（見館 好隆, プレジデント社：2010）</p> <p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間</p> <p>第1回 キャリアデザインを学ぶ（授業形式：講義および演習） 概要 キャリアデザインの授業の目標、進め方、また学ぶ理由など概要を説明します セクション1 授業の目的と進め方 セクション概要 簡単な自己紹介、および授業の目的と進め方などを説明します セクション2 キャリアデザインという言葉の意味 セクション概要 「キャリアデザイン」という言葉が意味することを簡単に説明します セクション3 キャリアデザインを学ぶ理由 セクション概要 なぜキャリアデザインを学ぶ必要があるのか理解します</p> <p>第2回 キャリアとは何か（授業形式：講義および演習） 概要 キャリアの定義およびキャリアをデザインすることの意味を説明します セクション1 キャリアの語源 セクション概要 キャリアの語源からその意味を解説します セクション2 キャリアの定義 セクション概要 主な論者のキャリアの定義を紹介します セクション3 キャリアをデザインすることの意味 セクション概要 キャリアをデザインするために何をすべきかを説明します</p> <p>第3回 自分に合った職業・仕事とは何か（授業形式：講義および演習） 概要 自分に合った職業・仕事を選ぶ際の考え方を説明します セクション1 自分に合った職業・仕事とは何か セクション概要 自分に合った職業や仕事を見つけるにはどう考えればよいか説明します</p>					

セクション2 仕事選びの基本的な考え方 セクション概要 仕事選びの理論的な考え方の基本を紹介します
セクション3 職業や仕事の特徴 セクション概要 商品などとの選び方における違いから職業や仕事の特徴を説明します

第4回 「自分のこと」を知る（授業形式：講義および演習）

概要 「自分のこと」を探索するための基本的な考え方を説明します

セクション1 「自分」とは何か セクション概要 「自分」の定義や捉え方を説明します

セクション2 仕事を選ぶうえで自分への問い セクション概要 仕事を選ぶうえで、「自分」をどのように考えればよいのか、その問いを提示します

セクション3 「自分」を探るための様々なヒント セクション概要 自分を探るための性格診断などその他の方法を説明します

第5回 社会・雇用環境を知る（授業形式：講義および演習）

概要 今後の日本の社会・雇用環境と就職に関する指標を説明します

セクション1 日本の社会・雇用環境はどうなるのか セクション概要 日本の人口などこれからの雇用環境がどうなるのかを説明します

セクション2 就職と関係する指標を理解する（1） セクション概要 失業率や非正規社員比率など就職に関係する指標を解説します

セクション3 就職と関係する指標を理解する（2） セクション概要 就職内定率や有効求人倍率など就職に関係する指標を理解します

第6回 労働とお金の関係を理解する（授業形式：講義および演習）

概要 働く環境の中でも特にお金に関する知識を説明します

セクション1 働くうえで重要なお金 セクション概要 社会人の働く理由を説明し、特にお金の位置づけについて確認します

セクション2 賃金の差はどこにあるのか セクション概要 賃金の差がどのような条件で変わるのかについて説明します

セクション3 生涯で必要になるお金 セクション概要 働き始めてから結婚や子育てなど生活に必要なお金について説明します

第7回 業界・職業を知る（授業形式：講義および演習）

概要 業種・業界、職業について、また実際の企業の採用選考のスケジュールを説明します

セクション1 業種・業界について セクション概要 業種や業界の知識、またその調べ方を説明します

セクション2 職業について セクション概要 職業の数や視野の広げ方について説明します

セクション3 就職活動について セクション概要 企業の採用選考、就職活動のスケジュールについて説明します

第8回 職種を知る（授業形式：講義および演習）

概要 自分に合った仕事を選ぶときの職種の考え方について説明します

セクション1 職種について セクション概要 職種とは何かについて説明します

セクション2 文系の職種 セクション概要 文系学部の卒業者が一般に就く職種について説明します

セクション3 理系の職種 セクション概要 理系学部の卒業者が一般に就く職種について説明します

第9回 キャリアの基礎理論を学ぶ（1）（授業形式：講義および演習）

概要 キャリアの基礎理論として「ライフスパン理論」を取り上げ説明します

セクション1 職業における発達とは セクション概要 発達の概念について説明し、それが職業における発達（職業的発達）とどう関連するのかについて説明します

セクション2 ライフスパン理論 セクション概要 職業的発達について体系的に整理したライフスパン理論について説明します

セクション3 ライフスパン理論の意味合い セクション概要 ライフスパン理論が大学生にとってどのような意味合いがあるのか説明します

第10回 キャリアの基礎理論を学ぶ（2）（授業形式：講義および演習）

概要 キャリアの基礎理論として「キャリアトランジション理論」を取り上げ説明します

セクション1 人生における変化 セクション概要 人生における変化として「転機」について説明します

セクション2 キャリアトランジション理論 セクション概要 人生（キャリア）の変化に適應するための理論として、キャリアトランジション理論について説明します

セクション3 トランジション理論の意味合い セクション概要 トランジション理論が人生においてどのよ

うな意味合いがあるのか説明します

第11回 企業とは何か（授業形式：講義および演習）

概要 企業の活動について基本的な捉え方を説明します

セクション1 企業の活動 セクション概要 企業とは何か、また企業が行う活動とはどのようなものかについて簡単に説明します

セクション2 企業ごとの違い セクション概要 それぞれの企業の違いはどこにあるのかについて説明します

セクション3 企業における人材 セクション概要 企業において人材がどのような位置づけにあるのか、その意味合いについて説明します

第12回 企業における人材の活用（授業形式：講義および演習）

概要 企業で働く人材を企業はどう活用するのかについて説明します

セクション1 人材マネジメントとは セクション概要 企業における人材の活用（マネジメント）について説明します

セクション2 人材の獲得と効果を高める要素 セクション概要 人材マネジメントを行うための7つの要素のうち、人材の獲得と人材の活用の中の効果を高める3つの要素について説明します

セクション3 効率を高める要素と人材の尊重 セクション概要 人材マネジメントの中の効率を高める2つの要素と人材の尊重について説明します。また、人材マネジメントがキャリアに与える意味についても解説します

第13回 働くまでの企業との接点（インターンシップ等）（授業形式：講義および演習）

概要 働くまでに企業と接する機会とそうした経験から学ぶことについて説明します。またインターンシップについて説明します

セクション1 企業との接点と活用 セクション概要 学生生活の中で企業と接する機会（企業との接点）とその活用について説明します

セクション2 経験と学習 セクション概要 経験と学習について基本的な考え方を説明します

セクション3 インターンシップ経験 セクション概要 インターンシップの概要とインターンシップ経験での学びについて説明します

第14回 働くまでの企業との接点（アルバイト等）（授業形式：講義および演習）

概要 アルバイト経験と学びについて説明します

セクション1 アルバイトの位置づけ セクション概要 大学生にとってアルバイトがどのような位置づけにあるのかを説明します

セクション2 アルバイト経験 セクション概要 アルバイトで成長を促す経験とは何かを説明します

セクション3 アルバイトで学ぶこと セクション概要 アルバイト経験を通じて何を学ぶのか説明します

第15回 総まとめ（授業形式：講義および演習）

概要 これまでの学びを総合的に考えるために体系的なまとめを説明します

セクション1 まとめ（1） セクション概要 キャリアデザインの授業の全体像を確認し、第1回から第4回までの授業のまとめを説明します

セクション2 まとめ（2） セクション概要 第5回から第8回、また第11回と第12回のまとめを説明します

セクション3 まとめ（3） セクション概要 第9回と第10回、また第13回と第14回のまとめを説明します

科目コード	1725	科目名	技術と倫理	オンデマンド 授業	ME
<p>■ 授業概要</p> <p>技術者は、設計や開発を担当し倫理的な観点があまり問われない職業と見られてきた。しかし、近年東電福島原発事故や福知山線脱線事故など技術者の倫理が問われる事件や事故が多く発生している。これからの若い技術者は、環境・エネルギーや情報管理さらには安全などの分野で世の中と関わりを保ちながら、より良い技術を開発していかなければならない。専門分野の学習を深めていく学生に対して、きちんとした倫理観を持った新しい科学技術者のあるべき姿について学習していく。</p> <p>この授業はコンテンツ作成者が作成したコンテンツを用い、担当教員が授業を実施します。各回の作成者は授業計画の内容に記載のとおりです。</p> <p>技術と倫理では、理工学部履修要項に準拠し、1/3以上の欠席すなわち5回以上の未受講があった場合は不合格とします。</p>					
<p>■ 学習・教育目標及び到達目標</p> <p>グローバル化と標準化が進む現代の科学技術世界において、これからの科学技術者の在り方、基本として持つべき科学技術倫理観を養うことができる。下記に具体的な項目を示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 企業の中で必要とされる技術者倫理を身につけることができる 2) 製造物責任法を知ることができる 3) 科学技術者として必要な倫理を知ることができる 4) 品質問題、環境問題、安全問題と情報問題と技術者倫理の関係を知ることができる 5) 知的財産権について知ることができる 6) リスク問題の対処法を知ることができる 					
<p>■ 成績評価方法および基準</p> <p>単位修了試験 100%</p>					
<p>■ 教科書</p> <p>[ISBN] 9784759819779 『技術者による実践的工学倫理 第4版 先人の知恵と戦いから学ぶ』((一社)近畿化学協会 工学倫理研究会, 化学同人:2019)</p>					
<p>■ 関連科目</p> <p>「技術倫理と知的財産」</p>					
<p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間</p> <p>第1回 工学倫理をはじめめるにあたって (東崎) (授業形式: 講義および演習)</p> <p>概要 科学技術者の社会における役割と、これから学習していく工学倫理の内容について説明ができる。</p> <p>セクション1 工学倫理を学習する理由 セクション概要 工学倫理を学習する理由を明確にし、その後工学倫理が関連した事件と大学で工学倫理の学習がスタートして経緯を理解する。</p> <p>セクション2 技術者倫理と技術倫理 セクション概要 工学倫理、技術倫理、技術者倫理の定義を学習し、その違いを明確に理解することができる。</p> <p>セクション3 専門技術者と技術(者)倫理 セクション概要 技術者に求められる素養を理解し、技術者に求められている倫理性も理解することができる。</p> <p>第2回 技術者倫理が問われる場合 (東崎) (授業形式: 講義および演習)</p> <p>概要 技術は危険なものであり、技術者倫理が問われる場合はいろいろあることを認識し、過去の教訓を説明することができる。</p> <p>セクション1 技術評価とは 技術は危険なものであるが、受益者(公衆)はその技術がもたらす利便性と危険性を比較して、技術評価をしていることを理解する。</p> <p>セクション2 技術者倫理が問われる場合 技術者倫理が問われる場合はいろいろあることを認識し、それぞれの事例を教訓として学ぶ必要がある。</p> <p>セクション3 最も単純な倫理違反 「工学倫理」の理解が不足し、品質不正、食品偽装、論文ねつ造などの倫理問題が発生していることを学ぶ。</p> <p>第3回 技術者と倫理 (東崎) (授業形式: 講義および演習)</p> <p>概要 日本の技術の特徴、日米の技術者の違いを理解し、どうして技術に高い倫理性が求められるかを説明できる。</p> <p>セクション1 日本の技術 「大衆人気商品」につぎ込んだ小遣いが、「成熟した商業技術」の開発資金となっ</p>					

た。また、新幹線のように、信頼性と安全性を兼ね備えた技術もあることが説明できる。

セクション2 日米の技術者 米国はPEとPh.D、日本は理学修士・工学修士が中心に技術開発を担ってきた過去の技術者が、築きあげた大衆からの尊敬と信頼を維持することが大切であることを知る。

セクション3 技術者と倫理 「危険なものを安全に使いこなす知恵」を正しくつかわないと、恐ろしい結果がまっているために、技術者に高い倫理性が求められていることを知る。

第4回 専門職と組織人の倫理（東崎）（授業形式：講義および演習）

概要 専門職と組織人とは何かを理解し、それぞれの役割と大切にしなければならないことが説明できる。

セクション1 専門職であるということ 技術者には専門的能力に加え、高い倫理性が要求される。それに反すると大衆の信頼を失い業務ができなくなることを知る。

セクション2 技術と信頼 専門職とは「大衆には理解できない職務」を任されている職で信頼されることが必要であることを理解する。

セクション3 組織人であるということ 技術者は組織に属して活動する。組織ではなんでも報告・連絡・相談する“ほうれんそう”が大切であることを知る。

第5回 倫理問題への対応（東崎）（授業形式：講義および演習）

概要 日本の企業の中で行われている倫理問題の対応の現状とその活動、さらには国際的舞台でのとりくみについて説明ができる。

セクション1 日本企業のとりくみ 「小集団活動」を基本とし、「危険予知」「ヒヤリハット」などの手法を用いて、日常活動を点検しあう日本の方式が、工学倫理に対して有効であることを理解する。

セクション2 工学倫理にも小集団活動を 倫理意識の徹底、不倫理行動の撲滅、危険予知やヒヤリハット活動を小集団で行うことが重要であることを知る。

セクション3 国際的な舞台でのとりくみ 国際的な工学倫理に単純な正解はない。相手国の事情だけで片づく話でもないグローバル・スタンダードで片づけられる話でもない。違いを理解し合うこと、そしてここでも、話し合うことが大切であることを理解する。

第6回 製造物責任と技術者（東崎）（授業形式：講義および演習）

概要 技術者との関連が深いPL法（製造物責任法）の仕組みについて理解し、PL法といかに技術者が対応すべきかを説明できる。

セクション1 製造物責任法（PL法）とは PL法では、欠陥をこうむったことさえ立証できれば、損害賠償を請求できるのが特徴であることを理解する。

セクション2 企業の海外でのPL訴訟事例とPL法成立経緯 米国には懲罰的賠償制度により、巨額の損害賠償となる 日本では、細川内閣の出現で、製造側、消費者側の妥協がはかられ、PL法が成立することになったことを知る。

セクション3 各国との比較とPL法制定後の状況 日米欧でPL法はおおむね内容は共通であるが、「懲罰的賠償」は米国のみに認められている。また、米国では弁護士が、被害者に競ってPL訴訟を提案したりすることを知る。

第7回 実践的技術者倫理のすすめ（東崎）（授業形式：講義および演習）

概要 技術者人生の中で、工学倫理にかかわるような事件に巻き込まれないようにする方法を説明できる。

セクション1 実践的技術者倫理 実験などを安全に効率よく実施するための5S活動や、安全推進キーフクター5Mを知る。

セクション2 事例から学ぶ1 事例研究とグループ討論が工学倫理を学ぶために、効果的な学習方法であることを知る。

セクション3 事例から学ぶ2 事例紹介では、工学倫理の基本は、「危険なものを安全に使いこなす仕事」をしているという明確な自覚を、持つことであると再確認することが重要と理解する。

第8回 安全と工学倫理（東崎）（授業形式：講義および演習）

概要 企業で発生する可能性のある安全問題の事例を取り上げ、公衆の安全に対する科学技術者の責任について説明ができる。

セクション1 技術者と安全 実験などを安全に効率よく実施するための5S活動や、安全推進キーフクター5Mを知る。

セクション2 各種安全活動 1972年に制定された労働安全衛生法が労働災害の死亡者数を減少させるのに、貢献したことを理解する。

セクション3 品質保証と排出物質の安全 PRTR法（化学物質排出把握管理促進法）やRC（レスポンスブル・ケア）活動の内容を理解する。

第9回 リスクの評価と工学倫理（東崎）（授業形式：講義および演習）

概要 環境、安全等、人々をとりまくリスクは多様である これらのリスクに対する科学技術者の責任について記述できる。

セクション1 リスクとは リスクの大きさは、被害規模×発生確率 であることを知る。

セクション2 リスクとはマネジメントとリスク評価 ①本質安全設計 ②安全寿命設計 ③フェイルセーフ設計 ④損傷許容設計 の五つが信頼性設計の代表的な考え方であることを知る。

セクション3 リスクへの対応・評価と工学倫理 ①リスクの保有 ②リスクの削減 ③リスクの分散 ④リスクの移転 ⑤リスクの回避 のいずれかを選択することがリスクへの対応方法であることを理解する。

第10回 環境・資源・エネルギー問題（東崎）（授業形式：講義および演習）

概要 世界で大きな問題となっている環境・資源・エネルギー問題について、現在までの状況と技術者がとるべき姿勢について説明できる。

セクション1 歴史から見る環境問題 環境容量とは、環境の浄化能力の限界値を表す指標で、許容される排出総量を与える場合と、自然の浄化能力の限界値から考える場合の二つがあることを理解する。

セクション2 現在の環境問題 第二次世界大戦後の汚染問題の状況変化を理解する。

セクション3 資源とエネルギー問題 世界の一次エネルギー消費量は、1965年から年平均2.6%で増加を続け、2015年には130億トン（toe）を越えた この50年間で、3.5倍の驚異的な伸びを示していることを知る。

第11回 資源循環型社会と地球規模の環境問題（東崎）（授業形式：講義および演習）

概要 資源循環型社会の概念と地球規模の環境問題に対する技術者の使命について説明できる。

セクション1 資源循環型社会の概念と倫理問題 廃棄物管理と資源循環のポイントは「3Rイニシアティブ」と「3P（汚染者負担原則、Polluter-Pays Principle）」であることを理解する。

セクション2 地球規模の環境問題 地球温暖化ガス係数やオゾン層破壊とフロンとの関係などを理解する。

セクション3 地球温暖化問題 温暖化の基本対策は、「緩和」と「適応」の二つであることを知る。

第12回 技術者と法規（東崎）（授業形式：講義および演習）

概要 法規と倫理の関係を整理し、「倫理」問題における法律の役割を考え、法規の役割を説明できる。

セクション1 法規とは 技術関係の法規は、「危険なものを安全に使いこなす」ことの専門職である技術者が参画してつくってきた貴重な知恵の集積であることを理解する。

セクション2 法規と注意義務 一般の過失と業務上過失に対する刑の違いを知る。

セクション3 技術者をとりまく法規の概観 技術者は、自分に関係の深い法規をよく理解しておいて、そのほかのものは必要に応じて調べるのが現実的だ その法規の専門家などによく相談することも大切だ 以上のことを理解する。

第13回 知的財産と工学倫理（藤田）（授業形式：講義および演習）

概要 知的財産権について学習し、その後知的財産権問題の事例を紹介し、知的財産問題と工学倫理の関係を説明できる。

セクション1 知的財産権制度について 知的財産権の制度の趣旨を理解し、日本における知的財産政策を理解する。

セクション2 知的財産権の国際問題と職務発明 知的財産権の国際的な問題を理解し、組織の中で行う職務発明についての理解を深める。

セクション3 不正競争防止法について 公平な競争を阻害する行為の禁止を定めた不正競争防止法に基づく各事例を通して、知的財産保護に対する理解を深める。

第14回 バイオテクノロジーと工学倫理（谷田）（授業形式：講義および演習）

概要 人類に計りしれない恵をもたらす可能性があるバイオテクノロジーの持つ危険性とその技術の受け入れ方についての工学倫理の観点から説明できる。

セクション1 バイオテクノロジーとは 人類が生物環境や生命を操作する技術を手に入れ始めたことを学ぶ次に法規がどのような観点で整備されているのか理解する。そのうえで、技術者や人類がどのように技術を受け入れるか考える。

セクション2 生命倫理とは 生命倫理を理解し、ヘルシンキ宣言を理解する。そして、個人情報とインフォームドコンセントの重要性を理解する。

セクション3 近畿大学の生命倫理規定とは 具体的な生命倫理規定を理解する。

第15回 情報技術と工学倫理（谷田）（授業形式：講義および演習）

概要 最近重要となってきた情報問題の事例を取り上げ、技術者の立場から、情報技術の在り方について説明ができる。

セクション1 情報通信技術とは 情報通信技術の広さを学ぶ。次に法規がどのような観点で整備されているのか理解する。そのうえで、技術者や人類がどのように技術を受け入れるか考える。

セクション2 ICTに関する条約と法規とは 情報処理技術に関する法規を理解し、何が犯罪となるのか理解する。情報管理方法を理解する。

セクション3 ICTの進歩とこれからの社会へ ICTの将来を考える。事例を知る（温故知新）そして、倫理観取得への心得を学ぶ。

科目コード	1726	科目名	現代社会と法	オンデマンド 授業	ME
<p>■ 授業概要</p> <p>この授業コンテンツ（動画）は村中が作成したものであり、第1回から第15回まで同一の教員による講義を行っている。</p> <p>法律学の中でも基本的な法である、憲法、民法、刑法などを中心にその内容を理解する。</p> <p>社会の中で生きていくうえでの基本的な法的知識の基礎を身につける。</p> <p>※オンデマンド授業であるため、毎週の受講（動画の視聴）が必須とはならないが、規定に基づき出席の確認を行い、出席状況が3分の2以上あることが求められる（全15回のうち10回以上の出席）。</p>					
<p>■ 学習・教育目標及び到達目標</p> <p>受講者は、この授業と通じて、①法（法学）と社会の関りを認識し、②身近な事柄が法と関わること、法によって私たちの生活の様々な場面が規制されていることを理解するとともに、③身近なトラブルの事例の解決策を探る上での基礎的な知識を身につけることができる。</p>					
<p>■ 成績評価方法および基準</p> <p>単位修了試験 100%</p>					
<p>■ 教科書</p> <p>[ISBN] 9784797286304 『嫌にならない法学入門（第2版）』（村中 洋介 他, 信山社：2023）</p>					
<p>■ 参考文献</p> <p>[ISBN] 9784641115453 『憲法判例百選Ⅰ [第7版]』（有斐閣：2019）</p> <p>[ISBN] 9784641115460 『憲法判例百選Ⅱ [第7版]』（有斐閣：2019）</p> <p>[ISBN] 9784641115156 『地方自治判例百選 [第4版]』（有斐閣：2013）</p> <p>[ISBN] 9784641115378 『民法判例百選Ⅰ 総則・物権 [第8版]』（有斐閣：2018）</p> <p>[ISBN] 9784641115385 『民法判例百選Ⅱ 債権 [第8版]』（有斐閣：2018）</p> <p>[ISBN] 9784641115392 『民法判例百選Ⅲ 親族・相続 [第2版]』（有斐閣：2018）</p> <p>[ISBN] 9784641115507 『刑法判例百選Ⅰ 総論 [第8版]』（有斐閣：2020）</p> <p>[ISBN] 9784641115514 『刑法判例百選Ⅱ 各論 [第8版]』（有斐閣：2020）</p> <p>[ISBN] 9784335301254 『最新重要判例250 刑法 [第12版]』（前田・星, 弘文堂：2020）</p> <p>[ISBN] 9784641115323 『刑事訴訟法判例百選 [第10版]』（有斐閣：2017）</p> <p>[ISBN] 9784641115606 『行政判例百選Ⅰ [第8版]』（有斐閣：2022）</p> <p>[ISBN] 9784641115613 『行政判例百選Ⅱ [第8版]』（有斐閣：2022）</p>					
<p>■ 関連科目</p> <p>法学に関連する基本科目</p>					
<p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間</p> <p>第1回 イン트로ダクション・法とは何か（授業形式：講義および演習）</p> <p>セクション1 法学を学ぶということ</p> <p>セクション2 法の性質</p> <p>セクション3 法の存在形式と分類</p> <p>第2回 憲法1（統治）（授業形式：講義および演習）</p> <p>セクション1 憲法の歴史と存在意義</p> <p>セクション2 三権分立</p> <p>セクション3 地方自治とは何か</p> <p>第3回 憲法（人権1）・人権とは何か（授業形式：講義および演習）</p> <p>セクション1 人権とは何か・人権の種類</p> <p>セクション2 人権の制約と保障範囲</p> <p>セクション3 平等権と幸福追求権</p> <p>第4回 憲法（人権2）・精神的自由（授業形式：講義および演習）</p> <p>セクション1 思想良心の自由・信教の自由</p> <p>セクション2 表現の自由</p> <p>セクション3 学問の自由・教育を受ける権利</p>					

第5回 憲法（人権3）（授業形式：講義および演習）

- セクション1 経済的自由
- セクション2 社会権
- セクション3 参政権と人身の自由

第6回 民法1（総則）（授業形式：講義および演習）

- セクション1 民法の体系
- セクション2 権利の主体と客体
- セクション3 権利の変動

第7回 民法2（物権・債権）（授業形式：講義および演習）

- セクション1 物権法・所有権
- セクション2 債権と契約
- セクション3 不法行為

第8回 民法3（家族関係・相続）（授業形式：講義および演習）

- セクション1 離婚
- セクション2 子どもの権利
- セクション3 相続問題

第9回 刑法1（授業形式：講義および演習）

- セクション1 刑法の基本・犯罪と刑罰
- セクション2 犯罪の構成要件
- セクション3 違法性阻却事由・責任阻却自由

第10回 刑法2（授業形式：講義および演習）

- セクション1 生命・身体に関する罪
- セクション2 財産に対する罪
- セクション3 社会法益・国家法益に関する罪

第11回 民事訴訟（授業形式：講義および演習）

- セクション1 民事裁判制度の意義
- セクション2 訴訟の流れ
- セクション3 民事訴訟の原則と様々な問題解決手段

第12回 刑事訴訟（授業形式：講義および演習）

- セクション1 刑事手続きの流れ
- セクション2 捜査に関する諸原則
- セクション3 公判の諸原則

第13回 行政法1（組織法・作用法）（授業形式：講義および演習）

- セクション1 行政法の基礎
- セクション2 行政組織
- セクション3 行政作用

第14回 行政法2（救済法）（授業形式：講義および演習）

- セクション1 行政救済法とは
- セクション2 国家補償
- セクション3 行政争訟

第15回 災害と法（授業形式：講義および演習）

- セクション1 災害とは何か？ 防災とは何か？ 私たちに身近な防災
- セクション2 災害と行政
- セクション3 各種災害に関する法制度と今日の課題

科目コード	1727	科目名	ビジネスモデルとマネジメント	オンデマンド 授業	ME
<p>■ 授業概要 情報化と企業活動に関する分析を行うために必要な基礎的は用語・概念を学びます。さらに実務経験者の講演や資料から、実際にビジネスモデルやマネジメントの分析を行い理解を深めます。この授業はコンテンツ作成者が作成したコンテンツを用い、担当教員が授業を実施します。各回の作成者は授業計画の内容に記載の通りです。</p> <p>■ 学習・教育目標及び到達目標 受講者は、この授業を履修することによって 1) 企業活動に関する分析を行うために必要な基礎的な用語・概念を理解できるようになります。</p> <p>■ 成績評価方法および基準 単位修了試験 100%</p> <p>■ 教科書 講義資料を適宜配布します。</p> <p>■ 参考文献 [ISBN] 9784798122977 『ビジネスモデル・ジェネレーション ビジネスモデル設計書』(アレックス・オスターワルダ、翔泳社：2012) [ISBN] 9784799325551 『新しい経営学』(三谷 宏治、ディスカヴァー・トゥエンティワン：2019) [ISBN] 9784478012727 『ビジネスモデルが見える化する ビクト図解』(板橋悟、ダイヤモンド社：2010)</p> <p>■ 関連科目 経営学、マーケティング論、リーダーシップ論、組織論、流通論</p> <p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間</p> <p>第1回 ビジネスモデルの概要【富田・橋本】(授業形式：講義および演習) ビジネスモデルの概要、ビジネスモデルの4要素、ビクト図解と代表的なビジネスモデルについて説明する。</p> <p>第2回 ビジネスモデルの4要素：ターゲット顧客と価値の提供【富田・橋本】(授業形式：講義および演習) ビジネスモデルの4要素、WHOにあたるターゲット(顧客)とWHATにあたるバリュー(提供価値)について、マネジメント手法を交えて説明する。</p> <p>第3回 ビジネスモデルの4要素：価値の提供体制と競争力【富田・橋本】(授業形式：講義および演習) ビジネスモデルの4要素、HOWにあたるケイパビリティ：価値の提供体制と競争力について、マネジメント手法を交えて説明する。</p> <p>第4回 ビジネスモデルの4要素：収益モデルとマネジメント【富田・橋本】(授業形式：講義および演習) ビジネスモデルの4要素、WHYにあたる収益モデルおよびマネジメントについて説明する。</p> <p>第5回 ビジネスモデルキャンパスの活用【富田・橋本】(授業形式：講義および演習) ビジネスモデルキャンパスを用いて、顧客との関係性、収益性の理解、価値提供手段、外的要因、競争要因について説明する。</p> <p>第6回 ビジネスモデル改善への外的原動力その①【榊原】(授業形式：講義および演習) ビジネスモデル改善への外的原動力としてESG(企業活動に対する世界的な社会規範)について説明する。</p> <p>第7回 ビジネスモデル改善への外的原動力その②【榊原】(授業形式：講義および演習) ビジネスモデル改善への外的原動力として投資家による直接的な働きかけについて説明する。</p> <p>第8回 ビジネスモデル進化その1【榊原】(授業形式：講義および演習) 社会の変化とビジネスモデルの変遷について説明する。</p> <p>第9回 ビジネスモデル進化その2【榊原】(授業形式：講義および演習) ビジネスモデルの現在の立ち位置と今後の展望について説明する。</p> <p>第10回 企業活動・企業の法務【森山】(授業形式：講義および演習) ビジネスモデルとマネジメントの事例紹介に先立って、企業活動や経営管理に関する考え方、企業活動に法律や企業の規範に関する考え方について説明する。</p>					

第11回 リスクマネジメントとマネジメントシステム【富田・橋本】(授業形式：講義および演習)

事業活動で直面するリスクに対応するマネジメント手法、リスクマネジメントやマネジメントシステムについて説明する。

第12回 ビジネスモデルとマネジメントの事例紹介その1(1)【森山】(授業形式：講義および演習)

企業の実務経験者の講演からビジネスモデルとマネジメントの事例を紹介する。

第13回 ビジネスモデルとマネジメントの事例紹介その1(2)【森山】(授業形式：講義および演習)

企業の実務経験者の講演からビジネスモデルとマネジメントの事例を紹介し、解説を加える。

第14回 ビジネスモデルとマネジメントの事例紹介その2(1)【森山】(授業形式：講義および演習)

企業の実務経験者の講演からビジネスモデルとマネジメントの事例を紹介する。

第15回 ビジネスモデルとマネジメントの事例紹介その2(2)【森山】(授業形式：講義および演習)

企業の実務経験者の講演からビジネスモデルとマネジメントの事例を紹介し、解説を加える。最後に、本授業で学んだ情報化と企業活動に関する分析を行うために必要な基礎的な用語・概念などの知識について振り返る。

科目コード	1728	科目名	暮らしのなかの起業入門	オンデマンド 授業	ME
<p>※本科目は、所定の視聴期限までに受講を完了させる（動画の視聴を完了し、確認テストに満点合格する）必要があります。</p> <p>第1回～第5回【前期：5/31まで 後期：11/30まで】 第6回～第10回【前期：6/30まで 後期：12/31まで】 第11回～第15回【前期：7/31まで 後期：1/31まで】</p>					
<p>■ 授業概要</p> <p>インターネットが普及したことにより、私たちの生活は利便性が一層高まり、豊かさを実感できるものとなっています。大学教育のなかにメディア授業が取り入れられたことは、学生の皆さんの自由度を高めているのではないのでしょうか。インターネットは、「時間」と「場所」の制約を取り除いてくれるため、自由な時間を有効に活用することができる時代になっているのです。また、特技や専門的知識を持った多くの方と繋がることもインターネットはいとも容易に実現してくれます。そのため、アイデア、経験や趣味を活かして起業に取り組む方も増えています。</p> <p>本授業は、「起業」を特別なものとして取り扱うのではなく、誰もがチャレンジできるものとして位置付け、その基本的な事項を学修することを目的とします。企業に勤務することになった場合でも、常に新しい製品・サービスを創造することが求められる今、起業の仕組みや留意点について理解しておくことは、新事業創出の任務を担う際に有効となります。その意味で、起業は今後の生活を豊かなものとするための選択の幅を広げてくれるのです。授業では、起業についての知識とともに、事業活動を通して自らの夢を実現している起業家の実践例を通して、受講者が自身のキャリアについても検討することを期待しています。</p>					
<p>■ 学習・教育目標及び到達目標</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>授業には3回の視聴期限があります。具体的には、1回目（第1回～5回配信分）、2回目（第6回～10回配信分）、3回目（第11回～15回配信分）です。それぞれの視聴期限までにそれまでのすべての回の受講を終えなかった場合、次の回へ進むことができません。また単位修了試験は受けられません。</p> </div> <p>受講者は、この授業を履修することによって、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 起業や新事業創出の意味と必要性 2) 起業や新事業創出を実現するために求められる基本的な事項 3) 起業家の実践例とキャリア <p>について学び、起業と社会・経済とのかかわりについて理解できるようになります。</p>					
<p>■ 成績評価方法および基準</p> <p>単位修了試験 100%</p>					
<p>■ 教科書</p> <p>各回の授業教材はWEB配信します。</p>					
<p>■ 参考文献</p> <p>[ISBN] 9784502178412 『アントレプレナーシップ教科書』（松重 和美，中央経済社：2016） [ISBN] 9784822259754 『起業の科学 スタートアップサイエンス』（田所 雅之，日経BP：2017） [ISBN] 9784478109502 『起業大全 スタートアップを科学する9つのフレームワーク』（田所 雅之，ダイヤモンド社：2020） [ISBN] 9784830949708 『はじめて学ぶ人のための経営学入門 [バージョン2]（文眞堂ブックス）』（片岡 信之，文眞堂：2018） [ISBN] 9784502394713 『新しいビジネスをつくる』（加護野 忠男，碩学舎：2021） [ISBN] 9784798167381 『ビジネスモデル・キャンパス徹底攻略ガイド 企業、チーム、個人を成功に導く「ビジネスモデル設計書」』（今津 美樹，翔泳社：2020） 上記のほか必要に応じて紹介します。</p>					
<p>■ 関連科目</p> <p>現代社会と倫理、現代社会と法、ビジネス実務講座、国際化と異文化理解、情報処理基礎、データリテラシー入門、キャリアデザイン</p>					

■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間**第1回 授業総論（授業形式：講義および演習）【前期：5/31まで 後期：11/30まで】**

【講師：経営学部教授 文能 照之】

- ・授業内容と学修方法

【外部講師：株式会社パースペクティブ・メディア 代表取締役 小口 日出彦氏】

- ・起業とは
- ・起業というライフスタイル

第2回 起業家マインドの重要性（授業形式：講義および演習）【前期：5/31まで 後期：11/30まで】

【外部講師：株式会社O1START 代表取締役 芝先 恵介氏】

- ・アントレプレナーシップ（起業家精神）とは
- ・イノベーションとは
- ・起業とイノベーション

第3回 企業の役割と経営指針（授業形式：講義および演習）【前期：5/31まで 後期：11/30まで】

【外部講師：株式会社O1START 代表取締役 芝先 恵介氏】

- ・企業の社会的役割
- ・企業の社会的責任
- ・ミッション、ビジョン、バリューとは

第4回 経営に必要とされる資源（授業形式：講義および演習）【前期：5/31まで 後期：11/30まで】

【外部講師：株式会社O1START 代表取締役 芝先 恵介氏】

- ・経営の基本とは
- ・経営資源とは

第5回 アイデアをビジネスに変える（授業形式：講義および演習）【前期：5/31まで 後期：11/30まで】

【外部講師：株式会社O1START 代表取締役 芝先 恵介氏】

- ・ビジネスを生み出すために
- ・ビジネスアイデアの発想法
- ・オズボーンのチェックリストを活用した事例

第6回 チーム作りと評価（授業形式：講義および演習）【前期：6/30まで 後期：12/31まで】

【外部講師：株式会社O1START 代表取締役 芝先 恵介氏】

- ・サイドプロジェクトではじめる
- ・スタートアップに必要な人材
- ・解決したい課題について

■ 第7回 事業構想（前半）（授業形式：講義および演習）【前期：6/30まで 後期：12/31まで】

【外部講師：株式会社O1START 代表取締役 芝先 恵介氏】

- ・事業アイデアを形にするビジネスモデル・キャンパスとは
- ・ビジネスモデル・キャンパスの要素を理解する【お客様にかかわる収入】

■ 第8回 事業構想（後半）（授業形式：講義および演習）【前期：6/30まで 後期：12/31まで】

【外部講師：株式会社O1START 代表取締役 芝先 恵介氏】

- ・ビジネスモデル・キャンパスの要素を理解する。【活動とコスト】
- ・事例企業を参考にしてビジネスモデル・キャンパスを作成する

■ 第9回 事業の実現①（内製）（授業形式：講義および演習）【前期：6/30まで 後期：12/31まで】

【外部講師：グッドニュース情報発信塾 塾長 大谷 邦郎氏】

- ・賛同を得て、応援してもらうためのコミュニケーション
- ・事業協力者に向けたプレゼンテーション

第10回 事業の実現②（外注）（授業形式：講義および演習）【前期：6/30まで 後期：12/31まで】

【外部講師：株式会社パーシヴァル ファウンダー 川辺 友之氏】

- ・外部資源の有効活用
- ・クラウドファンディングの活用

第11回 近畿大学卒起業家体験談①（授業形式：講義および演習）【前期：7/31まで 後期：1/31まで】

【外部講師：180株式会社 代表取締役 上仲 昌吾氏】

個性（DNA）を磨く

- ・個性を理解する
- ・個性のを見つけ方
- ・個性をデザインする

第12回 近畿大学卒起業家体験談②（授業形式：講義および演習）【前期：7/31まで 後期：1/31まで】

【外部講師：株式会社音動 代表取締役 鳥山 郷氏】

起業というエゴイズムから社会との共創まで

- ・起業する機会と環境
- ・起業する機会と環境
- ・多様性とこれから

第13回 近畿大学卒起業家体験談③（授業形式：講義および演習）【前期：7/31まで 後期：1/31まで】

【外部講師：錦城護謨株式会社 代表取締役社長 太田 泰造氏】

経営現場のリアル（価値創造）

- ・錦城護謨の事業内容ご紹介
- ・老舗企業が取り組む新規事業
- ・企業にとって一番大事なもの

第14回 近畿大学卒起業家体験談④（授業形式：講義および演習）【前期：7/31まで 後期：1/31まで】

【外部講師：リノベる株式会社 代表取締役社長 山下 智弘氏、株式会社 Schoo 代表取締役社長 CEO 森健志郎氏】

- ・リノベる株式会社・・・「リノベる」の起業まで
- ・株式会社 Schoo・・・起業のきっかけ・起業からこれまで
- ・起業家対談

第15回 授業総括（授業形式：講義および演習）【前期：7/31まで 後期：1/31まで】

【講師：経営学部教授 文能 照之】

- ・起業に必要とされるマインドと基礎知識
- ・起業の目的とライフプラン
- ・起業の実現に向けて

科目コード	1741	科目名	データリテラシー入門	オンデマンド 授業	ME
<p>※本科目は、学期中の所定の期間に課題を提出する必要があります。また、所定の期間にディスカッションに参加する必要があります。</p>					
<p>■ 授業概要</p> <p>本科目では、来るデータ駆動型社会に向けて進展が期待されているDS（Data Science，データ科学）とAI（Artificial Intelligence，人工知能）に関する基礎的な知識と技能を修得するための授業を実施する。授業では、まず、DSやAIの現状について紹介する。次に、それらを活用するために理解しておくべき概念や方法について説明する。そして、データを適正に利用するために留意すべき点について説明する。最後に、データの取り扱いについて説明するとともに、実際にツールを使った演習を行う。本科目の授業資料は、担当教員とは別の教員が作成している。各回のタイトル欄に作成者を記載する。</p>					
<p>【履修の前提条件】</p> <p>本科目の履修には、下記のスキルが必要となる。パソコン操作に不慣れな学生は、他の基礎科目で十分なスキルを獲得した上で履修すること。オンデマンド授業のためPC操作のサポートは受けられない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファイル名の変更・アップロード・ダウンロードがスムーズに行える。 ・ファイルの拡張子について熟知している。 ・圧縮ファイルを適切に解凍できる。 ・表計算（Excel・Googleスプレッドシート）で関数を挿入できる。 ・表計算（Excel・Googleスプレッドシート）でシート操作ができる。 					
<p>【諸注意】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各授業の課題提出期限はGoogle Classroomで指示する。 ・第1回、第3回から第9回までの授業で「KBマップ」というアプリを使用する。クラスルーム掲示の資料で利用方法を確認し、開講後1週間以内にログインできることを確認すること。 ・第2回の授業の復習として、Google Classroom上（またはZoom）でのオンラインディスカッションの機会を提供する。第10回の授業の復習として、Zoomによる他学部と合同のオンラインディスカッションの機会を提供する。 					
<p>■ 学習・教育目標及び到達目標</p> <p>本科目の到達目標は次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> [1] DSやAIの現状、概念、方法について必要事項を知っている。 [2] データの取り扱いについて必要事項を知っている。 [3] データの留意点について必要事項を知っている。 					
<p>■ 成績評価方法および基準</p> <p>KBマップ課題（第1回、第3回～第8回） 30% [前期は6月末、後期は12月末までに提出] KBマップ課題+テスト（第9回） 20% [前期は6月末、後期は12月末までに提出] 練習課題+演習課題（第10回～第15回） 40% [前期は7月末、後期は1月末までに提出] グループディスカッション（第2回授業時間外、第10回授業時間外） 10% [前期は第2回：5月中、第10回：7月中、後期は第2回：11月中、第10回：12月中に実施]</p>					
<p>■ 教科書</p> <p>教科書はなし。適宜授業資料を配布する。</p>					
<p>■ 参考文献</p> <p>[ISBN] 9784065238097 『教養としてのデータサイエンス（データサイエンス入門シリーズ）』（北川 源四郎，講談社：2021）</p>					
<p>■ 関連科目</p> <p>各学部のデータサイエンスあるいはAIを取り扱った科目</p>					
<p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間</p>					
<p>各課題の提出期限までに必ず視聴を完了し、確認テストに満点合格してください。</p>					
<p>第1回 データ駆動型社会（担当：山元 翔）（授業形式：講義および演習）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・IoT、ビッグデータ、AI、ロボット、仮想現実（VR）、拡張現実（AR） 					

- ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会
- ・現代社会におけるデータ科学（DS）と人工知能（AI）への期待と課題
- ・人間の知的活動とAIの関係性

第2回 DS・AI活用社会（担当：山元 翔）（授業形式：講義および演習）

- ・データ・AIの活用領域
- ・データ・AI利活用の現場

第3回 DS・AI利活用（担当：山元 翔）（授業形式：講義および演習）

- ・データ・AI利活用の最新動向
- ・人工知能、データ科学のビジネス機会
- ・人工知能、データ科学の社会的課題
- ・データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方

第4回 様々なデータ表現（担当：山元 翔）（授業形式：講義および演習）

- ・2進数、16進数
- ・数値、文字、画像、音声
- ・社会で活用されているデータ
- ・1次データ、2次データ、メタデータ、アノテーション
- ・構造化データ、非構造化データ
- ・オープンデータ

第5回 データの利活用と注意（担当：山元 翔）（授業形式：講義および演習）

- ・データ・AI利活用のための技術
- ・データサイエンスのサイクル
- ・個人の不健全な状況の回避：ネット依存症、ゲーム中毒、テクノストレス等
- ・被害者・加害者にならないための知識、なったときの対応、誹謗中傷・炎上、ネットいじめ
- ・適切な対象が適切に情報を取得できること：情報格差、アクセシビリティ
- ・プライバシー

第6回 社会におけるデータの取り扱い－個々人の注意－（担当：山元 翔）（授業形式：講義および演習）

- ・情報の信頼性の判断、デマ・流言、メディアリテラシー
- ・社会としての危機管理：システムダウンによる影響範囲の把握と対応
- ・ELSI（Ethical, Legal and Social Issues）
- ・データ・AI活用における負の事例紹介
- ・データ倫理：データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護
- ・AI社会原則（公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断）
- ・データバイアス、アルゴリズムバイアス
- ・AIサービスの責任論

第7回 社会におけるデータの取り扱い－社会全体の注意－（担当：山元 翔）（授業形式：講義および演習）

- ・知的財産権：著作権と産業財産権、著作権、創作とライセンス表示、国際化（ベルヌ条約）
- ・肖像権・パブリシティ権
- ・個人情報保護：個人情報（個人識別符号の説明を含む）、匿名加工情報、自己情報コントロール権、OECDプライバシーガイドライン、EU法（保護規則）と忘れられる権利、オプトアウト

第8回 データを守る上での留意事項（担当：山元 翔）（授業形式：講義および演習）

- ・情報セキュリティ：機密性、完全性、可用性
- ・匿名加工情報、暗号化、パスワード、悪意ある情報搾取
- ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介

第9回 AI・データ利活用の基礎知識（テスト課題）（担当：山元 翔）（授業形式：講義および演習）

これまでの内容を踏まえて、今後DSの考えに基づきAIを利活用する上での基礎知識が身についたかを確認するテストを実施する

第10回 データを集める（担当：溝淵 昭二）（授業形式：講義および演習）

- ・データの種類（量的変数、質的変数）
- ・母集団と標本抽出（国勢調査、アンケート調査、全数調査、単純無作為抽出、層別抽出、多段抽出）
- ・観測データに含まれる誤差の扱い

- ・打ち切りや脱落を含むデータ

第11回 データを扱う (担当：溝淵 昭二) (授業形式：講義および演習)

- ・データ解析ツール (スプレッドシート)
- ・表形式のデータ (CSV)

第12回 データを操る (担当：溝淵 昭二) (授業形式：講義および演習)

- ・データの集計 (和)
- ・データの並び替え、ランキング

第13回 データを見る (担当：溝淵 昭二) (授業形式：講義および演習)

- ・データ表現 (棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ)
- ・データの図表表現 (チャート化)
- ・不適切なグラフ表現 (チャートジャンク、不必要な視覚的要素)
- ・統計情報の正しい理解 (誇張表現に惑わされない)
- ・優れた可視化事例の紹介 (可視化することによって新たな気づきがあった事例など)

第14回 データを読む (担当：溝淵 昭二) (授業形式：講義および演習)

- ・データの分布 (ヒストグラム)
- ・層別の必要なデータ
- ・代表値 (平均値、中央値、最頻値)
- ・代表値の性質の違い (実社会では平均値 = 最頻値でないことが多い)
- ・データのばらつき (分散、標準偏差、偏差値)
- ・データの集計 (平均)

第15回 データを読み解く (担当：溝淵 昭二) (授業形式：講義および演習)

- ・相関と因果 (相関係数、擬似相関、交絡)
- ・クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列
- ・データの比較 (条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト)

科目コード	1761	科目名	健康とスポーツの科学	オンデマンド 授業	ME
<p>■ 授業概要</p> <p>本講義では、生涯にわたり健康的でより豊かな生活の実現に必要な知識や技能を生活の中で実現する方法について学ぶ。文明がいちだんと発達する中で、健康障害が指摘され、現代社会に関わりながら学生生活を送る皆さんにとって、本講義は年齢や専門に関わりなく、必須の教養科目であると考えている。本講義の目的は、現代社会において心身の調和を図り、健康・体力を保持増進するとともに、生活における健康と運動の意義、運動とからだや心の健康の関係、健康的な生活を送るための行動を科学的に理解し、生活に応用する能力を身につけることである。</p> <p>この授業はコンテンツ作成者が作成したコンテンツを用い、担当教員が授業を実施します。各回の作成者は授業計画の内容に記載のとおりです。</p>					
<p>■ 学習・教育目標及び到達目標</p> <p>現代社会における様々な健康スポーツ事象をもとに、自己の身体的・精神的・社会的健康の獲得についてどのように関わっているのかを視点にさまざまな角度から学び理解する。さらにスポーツ活動は健康の増進・維持を図ることであり、生きがい感を得ることができ、身体運動を体験することで「身体」の再認識とスポーツを通じたコミュニケーションが健康スポーツ科学に課せられたもう一つの役割であることを学び理解する。</p>					
<p>■ 成績評価方法および基準</p> <p>単位修了試験 100%</p>					
<p>■ 教科書</p> <p>特になし</p>					
<p>■ 参考文献</p> <p>各回の資料に記載する</p>					
<p>■ 関連科目</p> <p>生涯スポーツ1、生涯スポーツ2</p>					
<p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間</p> <p>第1回 現代生活と健康：健康とは何か（担当：西田先生）（授業形式：講義および演習）</p> <p>平均寿命や健康寿命、疾病状況や死亡原因など健康という概念を理解する上で必須となる各種資料を確認し、健康を包括的に捉える。また、心身の健康を育むために望ましい行動を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康をどのように捉えるか ・健康被害をもたらす行動 ・健康とスポーツとの相互関係 <p>第2回 現代生活と疾病：感染症と慢性疾患（担当：佐川先生）（授業形式：講義および演習）</p> <p>わが国において1750年以前は結核などの感染症による死者が多かったが、現在では生活習慣病に代表される慢性疾患によるものが多くを占めている。このような現状に対応すべく国が策定している健康増進策について概観する。また感染症の原因となる病原体と感染経路、予防法について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わが国の疾病構造と健康増進政策 ・現代生活と慢性疾患 ・感染症の種類とその予防 <p>第3回 食と健康：健康的な食生活を営む（担当：佐川先生）（授業形式：講義および演習）</p> <p>健康日本21（二次）と日本人の食事摂取基準をもとに日本人の食生活の特徴について理解し、食事バランスガイドを用いて自身の食事内容をチェックする。またストレスなどによって生じる摂食障害について学ぶ。また食事管理が徹底されるアスリート食を参考に自身の食事内容の改善点を探る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養素とその働き ・日本人の食事から自身の食事を見直す ・現代生活と摂食障害 ・スポーツ栄養の実際 <p>第4回 健康のための運動：メンタルヘルスの改善・向上（担当：西田先生）（授業形式：講義および演習）</p> <p>メンタルヘルスの問題は人々の生活に多面的に悪影響を与えることおよび習慣的な運動実践はポジティブなメンタルヘルスに貢献することを理解し、積極的な健康行動を促進できるようになる。</p>					

- ・現代人のメンタルヘルスの実態について
- ・運動によるメンタルヘルス改善・向上
- ・アクティブなライフスタイルへの行動変容

第5回 現代生活と健康障害 一運動不足による健康被害一 (担当：熊本先生) (授業形式：講義および演習)

現代社会で生活する私たちにどのような健康上の問題が起きているのか。およそ20歳前後の大学生が学んでおくべき、現代日本人におきている健康障害（もはや健康被害というべき状態）について学修する。

- ・生活習慣病とは
- ・メタボリックシンドローム
- ・ロコモ・サルコペニア・骨粗鬆症・フレイル

第6回 健康のための運動 一わが国の健康づくり施策一 (担当：熊本先生) (授業形式：講義および演習)

生活習慣病のリスクを回避し、健康的にこの生を全うしていくための、毎日・毎週の身体活動量について学修する。

- ・「健康づくりのための身体活動基準2013」
- ・毎日の身体活動量
- ・運動の身体活動量

第7回 体力づくりのための運動：筋の構造と機能、筋収縮のエネルギー代謝 (担当：田邊先生)

(授業形式：講義および演習)

骨格筋の構造や筋収縮のメカニズムを学ぶとともに、筋の収縮に必要なエネルギー代謝について学習する。また、加齢にともなう筋力の変化や、高齢者におけるレジスタンストレーニングとサプリメント摂取による筋量の変化について理解する。

- ・筋の構造と機能
- ・筋収縮のエネルギー代謝
- ・加齢と筋力

第8回 体力づくりのための運動：体力とは何か (担当：橋本先生) (授業形式：講義および演習)

「体力」のとらえ方を理解し、「体力トレーニング」を計画し、実際に行う上で必要な知識、方法について理解を深める。

- ・体力とは
- ・体力トレーニングの原理・原則
- ・体力トレーニングのあり方

第9回 スポーツのためのトレーニング：レジスタンストレーニング (担当：岡田先生)

(授業形式：講義および演習)

レジスタンストレーニング（主にフリーウエイト）に安全で効果的な方法を学ぶと共に、より専門的な知識やテクニックの実技を通して習得する。特にピック3（ハングクリーン・スクワット・デットリフト）を中心に、より実践的な筋力・筋肥大・筋パワーの向上を目指し、競技力向上に役立てるトレーニング法について学ぶ。

- ・ハングクリーン
- ・スクワット
- ・デットリフト

第10回 スポーツのためのトレーニング：エンデュランストレーニング (担当：田中ひかる先生)

(授業形式：講義および演習)

エンデュランス（持久性）トレーニングは、持久性運動能力が特に必要とされるスポーツはもちろん、すべてのスポーツに必要な不可欠である。本講義は、全身持久性体力を把握した上で、有酸素運動について理解する。そして、健康・スポーツにおける持久性トレーニングの効果を理解し、個人にあった持久性トレーニングを考え、実践できるようにする。

- ・全身持久性体力とは
- ・有酸素運動について
- ・エンデュランストレーニング

第11回 スポーツのためのトレーニング：メンタルトレーニング (担当：田中ゆふ先生)

(授業形式：講義および演習)

スポーツで良いパフォーマンス発揮をするために重要となる心理面について、その重要性和種々のトレーニング方法や理論について説明をする。特に、「やる気」の高め方、リラクゼーション、ポジティブシンキング、集中力について理解し、競技だけでなく日常生活でも実践できるようになることを目標とした講義を展開する。

- ・スポーツメンタルトレーニングとは？
- ・目標設定と動機付け
- ・様々なメンタルトレーニングの技法

第12回 スポーツ傷害と応急処置 (担当：田中ひかる先生) (授業形式：講義および演習)

スポーツ傷害はスポーツ外傷と、スポーツ障害の総称であり、その予防と対応策を考える。運動時に多い熱中症の予防と対策について理解し、さらには、一次救命（BLS）の重要性とアルゴリズムについて理解し、実践できるようにすることを目的とする。

- ・スポーツ傷害とその対策
- ・熱中症とその対策
- ・一次救命処置（BLS）－CPRとAED－

第13回 スポーツと社会 (担当：光山先生) (授業形式：講義および演習)

国は、スポーツ政策や、大規模なスポーツ大会を通じて、人々が、誰とでも気軽にスポーツに親しみ、スポーツを楽しむことのできる社会や環境の充実を掲げている。

- ・生涯スポーツ
- ・オリンピック・パラリンピック
- ・スポーツ庁・ナショナルトレーニングセンター

第14回 スポーツとビジネス (担当：大島先生) (授業形式：講義および演習)

スポーツによって生まれる価値を商品やサービスにして販売し、収益を生み出す活動＝スポーツビジネスを学習する。スポーツが地域貢献や持続可能な開発目標（SDGs）も踏まえながら社会に貢献していることを理解する。

- ・プロ野球のビジネスモデル
- ・ファンサービスとスポーツコミュニティの改善・向上
- ・スポーツビジネスと経営理念の変容

第15回 スポーツの倫理 (担当：光山先生) (授業形式：講義および演習)

学校の正課授業である「体育」と課外授業としての「部活動」、そして、「スポーツ」のそれぞれの目的や定義の違いを考え、コーチング現場において時代に合った指導者が取るべきリーダーシップを考える。

- ・学校体育（課外活動）とスポーツ
- ・競技スポーツとレクリエーションスポーツ
- ・現場での指導者がとるべき時代に合ったリーダーシップ

基礎専門科目

① 建築設計製図

科目コード	2201	科目名	建築デザイン基礎	テキスト授業	RD
<p>■ 授業概要</p> <p>建築製図に関する基本的事項である「JIS 建築製図通則」に基づき、文字と数字・線・建築記号を学び、設計製図の表現方法と図面の意味を習得する。</p> <p>具体的には2つの課題をこなす。</p> <p>第一課題は住宅である。教科書を使って配置図、平面図、断面図、立面図の製図と模型制作を行う。</p> <p>第二課題は中規模建築物である。第一課題で得たことを踏まえ、各種図面の製図を行う。</p> <p>上記の演習により空間構成の把握と図面表現の方法を学ぶ。さらに、建築構成上の工夫、機能や性能上のポイントを知り、それを表現する力を身に付けることで、設計の基礎力を養う。</p> <p>■ 到達目標およびディプロマポリシーとの関連</p> <p>この科目の修得は、本課程の定めるディプロマ・ポリシー2の達成に関与している。</p> <p>また、建築学部 of 学習・教育目標 (G) (建築図面のリテラシー) 建築の共通言語である図面の読み書きに必要な技術と能力を養うに対応する。</p> <p>到達目標は、①建築の構成を理解する。②文字と数字を適切に書けるようになること。③線を種類別に引けるようになること。④図面記号を理解する。⑤平面図、断面図、立面図などの基本を理解する。⑥模型制作技術を修得する。の6点である。さらに、図面の美的な魅力や、図面を見る人を意識した理解しやすい表現の工夫などに気を配る姿勢を身に付けることも目標とする。</p> <p>■ 成績評価方法および基準</p> <p>提出作品 100%</p> <p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法</p> <p>各課題提出後に各作品についてのフィードバックを行う。</p> <p>■ 教科書</p> <p>[ISBN] 9784761532734 『名建築のデザインに学ぶ製図の基礎』(垣田博之 著, 学芸出版社: 2021)</p> <p>■ 関連科目</p> <p>建築デザイン基礎演習、建築デザイン1・2・3・4、建築デザイン演習1・2・3・4</p> <p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間</p> <p>課題文を自ら読み解き、設計に対する説明をレポートを作成し評価を受ける。</p> <p>レポート内容を反映した設計を行い、図面や模型写真等をプレゼンシートにまとめ作成し評価を受ける</p> <p>建築デザインの基礎となるスキルを文字の描き方、線の引き方などの基礎から学ぶ授業であり、建築デザイン1・2・3・4、建築デザイン演習1・2・3・4の基礎となる内容である。</p> <p>また、単に建築デザインの基礎を学ぶだけでなく、採り上げているそれぞれの建築作品から、優れた建築デザインのエッセンスを手を、動かし各自の作品として仕上げていく中で学べるようにしている。</p>					

科目コード	2202	科目名	建築デザイン基礎演習	スクーリング	SF SO
<p>■ 授業概要 建築製図に関する基本的事項である「JIS建築製図通則」に基づき、文字と数字・線・建築記号を学び、設計製図の表現方法と図面の意味を習得する。 具体的には2つの課題をこなす。 第一課題は住宅である。教科書を使って配置図、平面図、断面図、立面図の製図と模型制作を行う。 第二課題は中規模建築物である。第一課題で得たことを踏まえ、各種図面の製図を行う。 上記の演習により空間構成の把握と図面表現の方法を学ぶ。さらに、建築構成上の工夫、機能や性能上のポイントを知り、それを表現する力を身に付けることで、設計の基礎力を養う。</p> <p>■ 到達目標およびディプロマポリシーとの関連 この科目の修得は、建築学部建築学科（通信教育課程）の定めるディプロマ・ポリシー2の達成に關与している。また、建築学部の学習・教育目標（G）（建築図面のリテラシー）建築の共通言語である図面の読み書きに必要な技術と能力を養うに対応する。 到達目標は、①建築の構成を理解する。②文字と数字を適切に書けるようになること。③線を種類別に引けるようになること。④図面記号を理解する。⑤平面図、断面図、立面図などの基本を理解する。⑥模型制作技術を修得する。の6点である。さらに、図面の美的な魅力や、図面を見る人を意識した理解しやすい表現の工夫などに気を配る姿勢を身に付けることも目標とする。</p> <p>■ 成績評価方法および基準 提出作品 100%</p> <p>■ 教科書 [ISBN] 9784761532734 『名建築のデザインに学ぶ製図の基礎』（垣田博之 著、学芸出版社：2021）</p> <p>■ 関連科目 建築デザイン基礎演習、建築デザイン1・2・3・4、建築デザイン演習1・2・3・4、</p> <p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間 ・1日目スクーリング：2コマの課題説明と3コマの課題制作 ・2日目スクーリング：課題提出のうえ、5コマの課題制作及びエスキス ・3日目スクーリング：5コマの課題制作及び講評 建築デザインの基礎となるスキルを文字の描き方、線の引き方などの基礎から学ぶ授業であり、建築デザイン1・2・3・4、建築デザイン演習1・2・3・4の基礎となる内容である。 また、単に建築デザインの基礎を学ぶだけでなく、採り上げているそれぞれの建築作品から、優れた建築デザインのエッセンスを手を、動かし各自の作品として仕上げていく中で学べるようにしている。</p>					

科目コード	2207	科目名	建築デザイン1	テキスト授業	RD
<p>■ 授業概要</p> <p>私たちが目にする建築（住宅）は、地域の気候風土や、その時代の社会的、文化的な背景などに即して生まれたものである。そしてその中でも多くの支持を受ける計画やデザインは、レファレンスされながら、時代に対応し今日まで進化している。</p> <p>本課題では、まず、いくつかの住宅作品の中から気に入った作品を選択し、その計画やデザインの良いと思う要素を考察する。敷地との関係の豊かさ、気候風土に配慮したデザイン、機能的な諸室の配置、優れた動線計画など、その住宅作品の持つ特徴を踏まえて、新たな要望に応える形で新しい住宅を設計することで、住宅デザインの新しい可能性を考えることを目的とする。木造住宅課題とする。</p> <p>■ 到達目標およびディプロマポリシーとの関連</p> <p>学習教育目標のうち（G）（設計・計画）に対応する。</p> <p>到達目標は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 住宅という身近な建築から設計やそのデザインに興味を持つ。 2) プランの機能の向上や可能性について考察する。 3) 製図のルールに沿った作図を習得する。 4) 自発的に設計を学んでいく姿勢を身に付ける。 5) 要望に対する読解力を身に付ける。 <p>この科目の修得は、本課程の定めるディプロマ・ポリシー2及び3の達成に関与する。</p> <p>■ 成績評価方法および基準</p> <p>課題作品 100%</p> <p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法</p> <p>課題作品については、講評を付して返却します。</p> <p>■ 教科書</p> <p>プリント資料 [ISBN] 9784621307427 『第4版コンパクト建築設計資料集成』（日本建築学会、丸善出版：2024）</p> <p>■ 参考文献</p> <p>[ISBN] 9784621048283 『建築設計資料集成（総合編）』（日本建築学会、丸善出版：2001） その他、『新建築住宅特集』『GA HOUSES』などの建築雑誌を良く読むこと。</p> <p>■ 関連科目</p> <p>建築デザイン演習1、建築デザイン2、建築デザイン演習2、建築デザイン3、建築デザイン演習3、建築デザイン4、建築デザイン演習4</p> <p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間</p> <p>参考とする住宅作品の計画およびデザインについての理解を深めた上で、課題に取り組む。</p> <p>課題文を自ら読み解き、設計に対する説明をレポートを作成し評価を受ける。</p> <p>レポート内容を反映した設計を行い、図面や模型写真等をプレゼンシートにまとめ作成し評価を受ける。</p> <p>時間外では、住宅建築に興味を持ち書籍や雑誌で、より多くの住宅作品の写真や図面を見て多くの知識を得るように心掛ける。</p>					

科目コード	2208	科目名	建築デザイン演習1	スクーリング	SF SO
<p>■ 授業概要 本講義は建築デザイン1を合格後、住宅建築について修得した知識を活かし、その実践を行う演習となる授業とする。 建築設計における計画やデザインを発展させる多様な思考を理解し、敷地やその周囲との関係、計画の要件を考慮した住宅の設計を行い、構造的にも整合した居住空間を構成する。自らの設計するその建築デザインについてや、その可能性についてをプレゼンテーションまで行い、建築デザインを説明するための知識と設計に関する理論的思考を身につけることを目的とする。</p> <p>■ 到達目標およびディプロマポリシーとの関連 学習教育目標のうち（G）（設計・計画）に対応する。 到達目標は、 1）住宅という身近な建築から設計コンセプト組み立てる論理力を習得する。 2）新たなデザインを提案する構想力の習得する。 3）設計に関する理論的思考を身につける。 4）図面と模型等を用いて空間構成の提案を説明できるようになる。 5）自発的に設計を学んでいく姿勢を身に付ける。 この科目の修得は、本課程の定めるディプロマポリシー2及び3の達成に關与する。</p> <p>■ 成績評価方法および基準 事前課題の提出物 40% スクーリング時の課題 60%</p> <p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法 講評時においてフィードバックを行う。</p> <p>■ 教科書 プリント資料 [ISBN] 9784621307427 『第4版コンパクト建築設計資料集成』（日本建築学会、丸善出版：2024）</p> <p>■ 参考文献 [ISBN] 9784621048283 『建築設計資料集成（総合編）』（日本建築学会、丸善出版：2001） [ISBN] 9784621076880 『第2版 コンパクト建築設計資料集成 [住居]』（日本建築学会、丸善出版：2006） その他、『新建築住宅特集』『GA HOUSES』などの建築雑誌を良く読むこと。</p> <p>■ 関連科目 建築デザイン1、建築デザイン2、建築デザイン演習2、建築デザイン3、建築デザイン演習3、建築デザイン4、建築デザイン演習4</p> <p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間 ・1日目スクーリング：2コマの課題説明と3コマの課題制作 ・2日目スクーリング：課題提出のうえ、5コマの課題制作及びエスキス ・3日目スクーリング：5コマの課題制作及び講評 スクーリング講義での課題説明を向けて、課題文を自ら読み解き、事前課題を完成させ2日目に持参する。（遠隔の場合は提出する。） 2日目3日目のスクーリング時にその計画案のエスキスを受け、案をさらに発展させ、製図、模型制作等の成果を完成させる。完成後、プレゼンテーション発表を行い講評を受ける。スクーリング時にはディスカッションも行い、多様な考え方などを共有しながら設計についての視野を広げる。 時間外では、住宅建築に興味を持ち書籍や雑誌で、より多くの住宅作品の写真や図面を見て多くの知識を得るように心掛ける。</p>					

科目コード	2216	科目名	建築デザイン2	テキスト授業	RD
<p>■ 授業概要</p> <p>この講義では建築設計を進める上において、基本的知識はもとより、設計理論、かたちの操作、構造、空間などデザインに係る知識と理論に関して解説する。</p> <p>建築技術の発展と社会的コンテキスト、文化的様相、審美的判断などの観点から建築デザインに関する検証と考察を行う。また、建築デザインを構成する諸概念や理論に触れながら、建築の具体的な計画に関連する平面計画、断面計画の要点について、実例を踏まえながら理解を深める。</p> <p>■ 到達目標およびディプロマポリシーとの関連</p> <p>建築デザインを理解するための知識と設計に関する理論的フレームを身につける。同時に、建築の構成原理や具体的なデザイン言語を学び、現代建築のデザインの変遷を追うことで、さまざまな観点からの批評的視点を獲得する。到達目標は、建築の設計理論の理解と応用できる能力の育成である。この科目の修得は、本課程の定めるディプロマ・ポリシー2の達成に関与している。</p> <p>■ 成績評価方法および基準</p> <p>レポートと科目終末試験の合格 100%</p> <p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法</p> <p>レポートについては、記述内容に講評を行い返却する。</p> <p>■ 教科書</p> <p>[ISBN] 9784761531461 『テキスト建築意匠』（平尾 和洋・末包 伸吾，学芸出版社：2006）</p> <p>■ 関連科目</p> <p>建築デザイン1、建築デザイン演習1、建築デザイン3、建築デザイン演習3、建築デザイン4、建築デザイン演習4</p> <p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間</p> <p>課題文を自ら読み解き、設計に対する説明をレポートを作成し評価を受ける。</p> <p>レポート内容を反映した設計を行い、図面や模型写真等をプレゼンシートにまとめ作成し評価を受ける。</p>					

科目コード	2217	科目名	建築デザイン演習2	スクーリング	SF SO
<p>■ 授業概要</p> <p>具体的な設計課題として地域交流図書施設を扱う。建築計画では、コンセプトの作成、各諸室の配置計画や動線計画等の妥当性を追求する。一定規模の建築計画ができることを目途に、時代背景を意識した現代建築のデザインを追求する。また、パブリックスペースのあり方についての考察を進める。</p> <p>課題：地域交流図書施設</p> <p>敷地の特性や周辺との関係を読み取り、異なる機能と空間スケールを調整するゾーニングの手法を学ぶ。建物のイメージを形態と空間のデザインに落とし込み、具体化する実践的な設計スキルを身に付ける。課題を通して、①敷地の特性分析、②機能的な室配置と動線計画、③ゾーニングと空間構成、④構造形式の理解に基づく建築の形態化、⑤身体と機能に則した空間スケールなど、設計の基本を習得し、製図ではより高度な作図と表現方法を学ぶ。</p> <p>■ 到達目標およびディプロマポリシーとの関連</p> <p>到達目標は以下のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 動線計画やゾーニングなどの機能的計画手段をマスターする。 2. 設計条件を整理し、デザインを具体化する能力を習得する。 3. 三次元の空間をイメージする能力を身につける。 4. コンセプトをまとめながら、それが形態や空間につながることを理解する。 <p>この科目の修得は、本課程の定めるディプロマ・ポリシー3の達成に關与している。</p> <p>■ 成績評価方法および基準</p> <p>課題 100%</p> <p>■ 教科書</p> <p>プリント資料 [ISBN] 9784761531461 『テキスト建築意匠』（平尾 和洋・末包 伸吾、学芸出版社：2006）</p> <p>■ 参考文献</p> <p>逐次、配布する</p> <p>■ 関連科目</p> <p>建築デザイン1、建築デザイン演習1、建築デザイン3、建築デザイン演習3、建築デザイン4、建築デザイン演習4</p> <p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日目スクーリング：2コマの課題説明と3コマの課題制作 ・2日目スクーリング：課題提出のうえ、5コマの課題制作及びエスキス ・3日目スクーリング：5コマの課題制作及び講評 <p>スクーリング講義での課題説明を向けて、課題文を自ら読み解き、事前課題を完成させ2日目に持参する。（遠隔の場合は提出する。）</p> <p>2日目3日目のスクーリング時にその計画案のエスキスを受け、案をさらに発展させ、製図、模型制作等の成果を完成させる。完成後、プレゼンテーション発表を行い講評を受ける。スクーリング時にはディスカッションも行い、多様な考え方などを共有しながら設計についての視野を広げる。</p> <p>第1クール：課題の解題と設計前提条件としてのリサーチ 第2クール：リサーチに基づいたコンセプトの策定と設計案の作成 第3クール：各図面とプレゼンテーション図面の作成、及び模型製作</p>					

科目コード	2225	科目名	建築デザイン3	テキスト授業	RD
<p>■ 授業概要</p> <p>現代の様々な価値観を持ち、生活や文化も異なる多様な人々が暮らす社会において、建築の計画やデザインは、その時代的な変化や社会背景、将来像を意識して計画することが求められる。</p> <p>本解題では、単身者や子育ての世代、高齢者など多様な世代やライフスタイルの人々が住む集合住宅を計画し、敷地やその周囲との関係、計画の要件を考慮した設計を行い、構造的にも整合した居住空間を構成する。集まって住むことの価値を考え、コミュニケーションの距離感をデザインする。建築デザインが社会的な場所から個人的な場所までを意識しながら成立している包括的な視点を理解することを目的とする。</p> <p>■ 到達目標およびディプロマポリシーとの関連</p> <p>学習教育目標のうち（G）（設計・計画）に対応する。</p> <p>到達目標は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 建築を取り巻く社会性や背景を読み解き、設計やそのデザインに興味を持つ。 2) 動線計画やゾーニングなどの機能的計画手段をマスターする。 3) 製図のルールに沿った作図を習得する。 4) 建築計画に係わる知識と社会の要求とそれを解決する手法を習得する。 5) 自発的に設計を学んでいく姿勢を身に付ける。 6) 要望に対する読解力を身に付ける。 <p>この科目の修得は、本課程の定めるディプロマ・ポリシー2及び3の達成に関与する。</p> <p>■ 成績評価方法および基準</p> <p>課題作品 100%</p> <p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法</p> <p>課題作品については、講評を付して返却します。</p> <p>■ 教科書</p> <p>未定</p> <p>■ 参考文献</p> <p>[ISBN] 9784621307427 『第4版コンパクト建築設計資料集成』（日本建築学会、丸善出版：2024） [ISBN] 9784621048283 『建築設計資料集成（総合編）』（日本建築学会、丸善出版：2001） その他、『新建築』『GA JAPAN』などの建築雑誌を良く読むこと。</p> <p>■ 関連科目</p> <p>建築デザイン演習3、建築デザイン1、建築デザイン演習1、建築デザイン2、建築デザイン演習2、建築デザイン4、建築デザイン演習4</p> <p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間</p> <p>課題文を自ら読み解き、設計に対する説明をレポートを作成し評価を受ける。</p> <p>レポート内容を反映した設計を行い、図面や模型写真等をプレゼンシートにまとめ作成し評価を受ける。</p> <p>集合住宅や福祉施設の計画およびデザインについての理解を深めた上で、課題に取り組む。</p> <p>時間外では、集合住宅や福祉施設に興味を持ち書籍や雑誌で、より多くの建築作品の写真や図面を見て多くの知識を得るように心掛ける。集合住宅や福祉施設に限らず気に入ったの建築作品を調べ、実際の建築物を見学するように心掛ける。</p>					

科目コード	2226	科目名	建築デザイン演習3	スクーリング	SF SO
<p>■ 授業概要 本講義は建築デザイン3を合格後、その実践を行う演習となる授業とする。 多様な人々が暮らす社会に人が集まって住む、利用する場所の特徴や意義を理解した上で、超高齢社会の現代において高齢者を意識した、その社会背景や今後の発展性を見据えた福祉施設を設計する。敷地やその周囲との関係、計画の要件を理解し、介護や福祉のあり方についても考える。高齢者に限らず、子どもや地域の人々が訪れ、自発的に介護や福祉に触れられるような地域の醸成に対する影響も視野に入れた設計を行なう。建築デザインが生活や時代性に沿うことを理解し、地域への影響などを考慮する設計の射程を広げることを目的とする。</p>					
<p>■ 到達目標およびディプロマポリシーとの関連 学習教育目標のうち（G）（設計・計画）に対応する。 到達目標は、 1）建築を取り巻く社会性や背景を読み解き、設計やそのデザインに興味を持つ。 2）動線計画やゾーニングなどの機能的計画手段をマスターする。 3）図面と模型等を用いて空間構成の提案を説明できるようになる。 4）建築計画に係わる知識と社会の要求とそれを解決する手法を習得する。 5）自発的に設計を学んでいく姿勢を身に付ける。 この科目の修得は、本課程の定めるディプロマ・ポリシー2及び3の達成に関与する。</p>					
<p>■ 成績評価方法および基準 事前課題の提出物 30% スクーリング時の課題 70%</p>					
<p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法 講評時においてフィードバックを行う。</p>					
<p>■ 教科書 プリント資料 [ISBN] 9784761532925 『ケア空間の設計手法』（日本建築学会 編，松原 茂樹 著，学芸出版社：2023）</p>					
<p>■ 参考文献 [ISBN] 9784621307427 『第4版コンパクト建築設計資料集成』（日本建築学会，丸善出版：2024） [ISBN] 9784621048283 『建築設計資料集成（総合編）』（日本建築学会，丸善出版：2001） その他、『新建築』『GA JAPAN』などの建築雑誌を良く読むこと。</p>					
<p>■ 関連科目 建築デザイン3、建築デザイン1、建築デザイン演習1、建築デザイン2、建築デザイン演習2、建築デザイン4、建築デザイン演習4</p>					
<p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間 ・1日目スクーリング：2コマの課題説明と3コマの課題制作 ・2日目スクーリング：課題提出のうえ、5コマの課題制作及びエスキス ・3日目スクーリング：5コマの課題制作及び講評 スクーリング講義での課題説明を向けて、課題文を自ら読み解き、事前課題を完成させ2日目に持参する。（遠隔の場合は提出する。） 2日目3日目のスクーリング時にその計画案のエスキスを受け、案をさらに発展させ、製図、模型制作等の成果を完成させる。完成後、プレゼンテーション発表を行い講評を受ける。スクーリング時にはディスカッションも行い、多様な考え方などを共有しながら設計についての視野を広げる。 時間外では、集合住宅や福祉施設に興味を持ち書籍や雑誌で、より多くの建築作品の写真や図面を見て多くの知識を得るように心掛ける。集合住宅や福祉施設に限らず気に入ったの建築作品を調べ、実際の建築物を見学するように心掛ける。</p>					

科目コード	2227	科目名	建築デザイン 4	テキスト授業	RD
<p>■ 授業概要</p> <p>この科目は建築物を独立した単体と見るのではなく、環境や社会との関係、また時間の経過によって変化するものとして多角的、総合的に捉え、これまで建てられてきた建築空間や都市を捉えなおすことを目的とします。歴史的建築物や半世紀以上経た近代建築物が、変化する周辺環境とどのように関連付けられてそこに建ち続けているのか、また新たに建てられる建物がどのように配置上の配慮を行い、変化に対応しようとしているかを分析し、近代建築遺産の事例を学生自らが分析することでより高度な建築デザインの理論・手法を学修します。</p> <p>This course provides a far-ranging introduction to the area of urban history covering a wide range of ideas clustered under the label of Modernism. In studying the dispositional diversity characteristic of Modernism, we also consider the competing positions of architects, theorists, and critics. By the end of the semester the students will be familiar with specifics related to geography and specific networks of Japanese modern architecture within the fast-changing environments and demands of society.</p> <p>■ 到達目標およびディプロマポリシーとの関連</p> <p>高度な建築デザインの手法と都市空間の分析の手法を習得し、関係資料や図面などの基本的な情報を検索、分析することができるようになります。この科目はディプロマポリシーの2, 3, 4と関連する。</p> <p>■ 成績評価方法および基準</p> <p>レポート課題 100%</p> <p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法</p> <p>レポートについては簡単な好評を付して返却します。</p> <p>■ 教科書</p> <p>[ISBN] 9784761532017 『サイトー建築の配置図集』(松岡聡+田村裕希, 学芸出版社: 2013)</p> <p>■ 参考文献</p> <p>[ISBN] 9784887062078 『テクトニック・カルチャー—19-20世紀建築の構法の詩学』(ケネス・フランプトン, TOTO出版: 2002)</p> <p>■ 関連科目</p> <p>建築デザイン演習4</p> <p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間</p> <p>課題文を自ら読み解き、設計に対する説明をレポートを作成し評価を受ける。 レポート内容を反映した設計を行い、図面や模型写真等をプレゼンシートにまとめ作成し評価を受ける。 敷地のフィールドワークを実施しながら教科書等を読み、都市の分析を部面に作成すること。 文献調査によって、日本の都市空間のデザインソースやデザインコードを理解し、現在の都市がもつ特性を明らかにする。 配置図と環境断面図を主に複数のエレメントや要素を描き込んだ環境分析図を作成する。</p>					

科目コード	2228	科目名	建築デザイン演習 4	スクーリング	SF SO
<p>■ 授業概要</p> <p>この科目では、現代の都市におけるパブリックや公共の場を観察、分析し、建築空間として計画、設計することを通して、公共施設や複合建築物の高度な設計法を学修するものである。</p> <p>This class will provide the information about the researches, techniques, architecture, urban planning, and these practical issues on emerging publicity. By understanding the need of the society to new public space in cities, and deepening the wide apprehension of an architectonics, the class will help the students to prepare the practice.</p> <p>■ 到達目標およびディプロマポリシーとの関連</p> <p>都市分析の分析手法の概要を説明でき、新たな公共概念を現代社会の複雑な状況の中から思考、理解し、明快で論理的な建築デザインへの展開の方法を学ぶ。この科目はディプロマポリシーの2, 3, 4と関連する。</p> <p>■ 成績評価方法および基準</p> <p>事前提出物 40% 最終制作物 60%</p> <p>■ 教科書</p> <p>[ISBN] 9784863585874 『都市を予約する』（都市アーキビスト会議著, 建築資料研究社:2018)</p> <p>■ 関連科目</p> <p>建築デザイン演習1、建築デザイン演習2、建築デザイン演習3</p> <p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間</p> <p>第1回 ガイダンス（課題説明と既往研究に関するガイダンス） 第2回 フィールドワーク1（調査地域でのフィールドワーク） 第3回 フィールドワーク2（調査地域でのフィールドワーク） 第4回 都市のリサーチの発表、ディスカッション（リサーチの結果をアーカイブ化し発表後、学生間でのディスカッションを行い今後のダイアグラム等へのアイデアを練る。） 第5回 資料収集、分析、ダイアグラム化1（より詳細な資料収集、分析をおこない、マップ・カタログ等のダイアグラムを作成する。） 第6回 資料収集、分析、ダイアグラム化2（より詳細な資料収集、分析をおこない、マップ・カタログ等のダイアグラムを作成する。） 第7回 資料収集、分析、ダイアグラム化3（より詳細な資料収集、分析をおこない、マップ・カタログ等のダイアグラムを作成する。） 第8回 公共の新しい型の提案、ディスカッション（新たなパブリックの概念を整理し、都市に生起しつつある型を提案） 第9回 敷地周辺分析（敷地の周辺調査を行う） 第10回 敷地調査（敷地調査を詳細に行う） 第11回 空間イメージ、建築企画、デザイン手法の研究1（建築・空間のコンセプト作り、デザインの手法について既往研究を行う） 第12回 空間イメージ、建築企画、デザイン手法の研究2（建築・空間のコンセプト作り、デザインの手法について既往研究を行う） 第13回 建築空間の設計1（要件に合う建築物の設計を行う。） 第14回 建築空間の設計2（要件に合う建築物の設計を行う。） 第15回 発表、講評（プレゼンテーションと講評会を行う。） 各回予習内容：各回の課題とエスキスの準備（90分） 各回復習内容：各回の課題とエスキスチェックのフィードバック（90分） 上記15回をスクーリングの中に反映する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日目スクーリング：2コマの課題説明と3コマの課題制作 ・2日目スクーリング：課題提出のうえ、5コマの課題制作及びエスキス ・3日目スクーリング：5コマの課題制作及び講評 					

基礎専門科目

② 建築計画

科目コード	2203	科目名	建築計画総論	テキスト授業	CR
<p>■ 授業概要 建築は単なる構造物や機能の集合体ではなく、生活のための場所・認識やイメージ・社会関係など様々なものを我々に提供してくれる。建築を人間の視点から捉え、「どんな建築を、どう造るべきか」を検討し提案するのが建築計画である。この講義では建築計画の背景や基本的知識を説明するとともに、建築と人間の豊かな関わり方を捉えるための様々な視点、重要な概念、及び設計への応用方法を紹介し、人間的な建築や街を構想・計画・運営する方法を解説する。</p>					
<p>■ 到達目標およびディプロマポリシーとの関連 学習・教育目標（H-1）（設計計画）新しい時代に即した住まい方や使い方に対応できる設計・計画の知識を修得する、及び（K-1）（建築プロジェクトの企画力）に対応する。 到達目標 1）建築計画に関する基本的知識と手法を修得する、2）建築と人間の関わりに関する重要な概念を理解する、3）それらを適用した建築の計画やデザイン方法の基本を修得する、4）社会や時代に対応した人間的な建築を構想・計画・マネジメントする基本を理解する。 この科目の修得は、本課程の定めるディプロマ・ポリシー3の達成に関与しています。</p>					
<p>■ 成績評価方法および基準 レポートと科目終末試験の合格 100%</p>					
<p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法 レポートについては、記述内容に講評を行い返却します。</p>					
<p>■ 教科書 [ISBN] 9784870710054 『建築計画 (改訂版)』(長澤 泰 編著, 市ヶ谷出版社:2011)</p>					
<p>■ 参考文献 [ISBN] 9784621307427 『第4版コンパクト建築設計資料集成』(日本建築学会, 丸善出版:2024) [ISBN] 9784306041714 『パタン・ランゲージ環境設計の手引』(C・アレグザンダー, 鹿島出版会:1984) [ISBN] 9784395110377 『かたちのデータファイル』(高橋研究室, 彰国社:1984) [ISBN] 9784306046757 『まちの居場所 一ささえる/まもる/そだてる/つなぐ』(日本建築学会, 鹿島出版会:2019)</p>					
<p>■ 関連科目 福祉住居論</p>					
<p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間 面接授業は実施しない。 はじめに建築計画の基本的な考え方、手法、設計との関係を説明したのちに、建築計画の重要なトピックを順に講義していく。 レポートは建築を実際に訪問・観察して報告する内容の予定である。 これに限らず、日頃から様々なビルディングタイプの建築を見学することを推奨する。</p>					

科目コード	2204	科目名	近代建築史	テキスト授業	CT
<p>■ 授業概要</p> <p>教科書の第3章近代建築史「1 スチールの時代」から「23 建築と場所の再生」を読解して西洋と日本の近代建築史の全体的な流れを把握してください。建設された建造物の造形を把握するだけでなく、それらの建設を促した社会的・文化的・技術的背景や、その後の設計・建設活動への影響にも留意できると良いでしょう。その際には、適宜参考文献を参照すると理解を深めることができます。そのうえで、レポートを提出し、科目終末試験に合格すれば単位が認定されます。</p> <p>■ 到達目標およびディプロマポリシーとの関連</p> <ol style="list-style-type: none"> 近代建築の工法・構造・理論の変遷と建築様式について、社会的・文化的背景に触れながら説明できる。 近代建築の各様式の代表的建築作品と建築家について説明できる。 幕末から昭和戦前期にかけての建築の近代化過程について説明できる。 <p>この科目の習得は、建築学部建築学科（通信教育課程）の定めるディプロマ・ポリシー1, 2, 3の達成に関与しています。</p> <p>■ 成績評価方法および基準</p> <p>レポートと科目終末試験の合格 100%</p> <p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法</p> <p>レポートについては、簡単な講評を付して返却します。</p> <p>■ 教科書</p> <p>[ISBN] 9784761532079 『カラー版 図説 建築の歴史 西洋・日本・近代』（西田雅嗣・矢ヶ崎善太郎 編、学芸出版社：2013）</p> <p>■ 参考文献</p> <p>[ISBN] 9784627505711 『近代建築史』（藤岡洋保・谷口汎邦、森北出版：2011） [ISBN] 9784864800327 『実況・近代建築史講義』（中谷礼仁、LIXIL出版：2017） [ISBN] 9784395000227 『近代建築史図集』（日本建築学会 編、彰国社：1976） [ISBN] 9784004303084 『日本の近代建築 上：幕末・明治篇』（藤森照信、岩波書店：1993） [ISBN] 9784004303091 『日本の近代建築 下：大正・昭和篇』（藤森照信、岩波書店：1993）</p> <p>■ 関連科目</p> <p>日本建築史、西洋建築史</p> <p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間</p> <p>教科書を読解して、歴史の全体的な流れをノートに整理して知識をまとめてください。その際には、参考文献やインターネット検索を用いて各建物の図面や写真を確認すると理解が深まります。参考文献では、社会的・文化的・技術的背景、歴史的評価に関する理解も深めてください。可能であれば、教科書で紹介された建築物を見学してください。</p> <p>学修時間は、「レポート課題」60時間、「科目終末試験」30時間を基本とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 第1回 産業革命以後の建築、アーツ・アンド・クラフツ運動 第2回 アール・ヌーヴォー、ウィーン・ゼツェッション/ドイツ表現主義 第3回 ロシア構成主義/デ・ステイル 第4回 アール・デコ、フランク・ロイド・ライト 第5回 ドイツ工作連盟/バウハウス 第6回 ル・コルビュジエ、ミース・ファン・デル・ローエ 第7回 洋風建築の出現、西洋建築技術の輸入 第8回 伝統技術の西洋化と擬洋風建築 第9回 西洋建築の理解と習熟、耐震理論と新構法の展開 第10回 日本の表現主義 第11回 震災の前後と帝冠様式 第12回 戦後の建築潮流1・2 第13回 戦後の日本建築1 第14回 戦後の日本建築2 第15回 ポストモダンの建築1・2 					

科目コード	2209	科目名	住宅計画	テキスト授業	CT
<p>■ 授業概要 人類が最も初期に建てた建物である住宅は、身近にある建築ではあるが、様々な文化・風土・時代等の違いによる変化も大きい。その住宅の成り立ちから、基本的な住宅計画、住宅を取り巻く社会状況について学ぶ。</p> <p>■ 到達目標およびディプロマポリシーとの関連 この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシー3の達成に関与しています。 建築学部の学習・教育目標（E）設計・計画に主に対応します。付随的に（A）人文・社会科学の素養、（C）専門家倫理にも対応します。 到達目標は、以下の6つです。 1. 住宅の基本的な知識を理解する。2. ライフスタイル・ライフサイクルと住空間の関係を理解する。 3. 各室の機能構成を理解する。4. 少子高齢化社会における住宅を理解する。5. 住宅の多様性を理解する。 6. 住宅を計画することが出来る。</p> <p>■ 成績評価方法および基準 科目終末試験の合格 100%</p> <p>■ 教科書 [ISBN] 9784761529093 『住居計画入門 住まいをめぐる文化・歴史・空間』（柳沢 究 著，学芸出版社：2024）</p> <p>■ 参考文献 住居計画入門市販（書籍作成中）</p> <p>■ 関連科目 現代ハウジング、建築デザイン1、建築デザイン演習1、建築デザイン3、建築デザイン演習3、インテリアデザイン、建築計画総論、建築計画各論、福祉住居論、都市住宅政策論、住宅環境性能論</p> <p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間 面接授業は実施しない。 テキストを暗記するだけでなく、身近な住宅、集合住宅、まちを体験し、テキストの理解を深める様にしましょう。また、体験が難しい場合は、書籍や雑誌などから、理解を深めましょう。 日常生活の中で住宅について、問題点や課題を見つけ、その解決方法を考えたり、住宅に対する多様な考え方に触れ、柔軟な考え方を身につけましょう。</p> <p>第1回 住まいとは計画とは 第2回 住まいの多様性と地域性① 第3回 住まいの多様性と地域性② 第4回 住まいと生活・文化・社会① 第5回 住まいと生活・文化・社会② 第6回 日本の住まいの 歴史的変遷① 第7回 日本の住まいの 歴史的変遷② 第8回 住まいの 機能と計画① 第9回 住まいの 機能と計画② 第10回 住まいの空間構成① 第11回 住まいの空間構成② 第12回 生活に対応した 住まい① 第13回 生活に対応した 住まい② 第14回 つくり方から 考える住まい① 第15回 つくり方から 考える住まい②</p>					

科目コード	2218	科目名	現代都市計画	テキスト授業	CT
<p>■ 授業概要 都市計画及びまちづくりについて、歴史的変遷を踏まえながら、現代における都市・建築や地域の設計・計画（デザイン）及び事業・企画（マネジメント）に関する特徴やしぐみを総合的に学習します。 昨今の防災・減災をはじめ、安全・安心・子育てや環境への配慮、ユニバーサルデザイン、都市のリノベーションなど、多様化する課題やテーマがうまれている現代社会において、主に、社会背景・制度・事業手法・事例から現代を位置づけ、今後の都市計画やまちづくりにおける建築・都市デザインとマネジメントの展望について学びます。</p> <p>■ 到達目標およびディプロマポリシーとの関連 ディプロマ・ポリシーを統合的に学ぶ科目で、とくに建築学の理解を深めるために主に専門科目科目のG-3, 4, 5, 6の習得を目指しています。</p> <p>■ 成績評価方法および基準 レポートと科目終末試験の合格 100%</p> <p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法 レポートについて、質問への回答として返却します。</p> <p>■ 教科書 現代のハウジングとまちづくり（発行予定）</p> <p>■ 参考文献 [ISBN] 9784395008094 『現代集合住宅のり・デザイン—事例で読む“ひと・時間・空間”の計画』（日本建築学会, 彰国社：2010） [ISBN] 9784254266436 『これからの住まいとまち：住む力をいかす地域生活空間の創造』（堀田 祐三子, 朝倉書店：2014） [ISBN] 9784750334172 『であいがつながる人権のまちづくり 大阪・北芝まんだら物語』（北芝まんだらくらぶ編著, 明石書店：2011） [ISBN] 9784492444344 『経済学者 日本の最貧困地域に挑む』（鈴木 亘, 東洋経済新報社：2016）</p> <p>■ 関連科目 住宅計画、現代ハウジング、アーバンデザイン</p> <p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間 面接授業は実施しません。講義内容をもとに、その事例や実践からみえる課題や効果について、現在の社会の動きや潮流をとらえながら自分の意見を示すように心がけてください。 様々なメディアをはじめ各テーマに関するアンテナをはるとともに、実践に参加する機会を作るようにしてください。</p> <p>第1回 講義概要・ガイダンス 第2回 景観まちづくりにおける建築と地域のデザイン 第3回 密集市街地再生のデザイン 第4回 防災・復興まちづくり①（総論） 第5回 防災・復興まちづくり②（実践編） 第6回 建築・都市計画の基礎知識 第7回 住宅団地の再生とコミュニティデザイン（総論） 第8回 住宅団地の再生とコミュニティデザイン（実践編） 第9回 里山再生と地域ストック活用のデザイン 第10回 建築・都市計画をめぐる思潮の変遷と参加のデザイン 第11回 福祉とまちづくりのデザイン 第12回 コンパクトシティとまちづくりのデザイン 第13回 マイノリティと建築・まちづくり①（アジア・海外） 第14回 マイノリティと建築・まちづくり②（日本） 第15回 コミュニティアーキテクト論：まちの再価値化と担い手</p>					

科目コード	2210	科目名	日本建築史	テキスト授業	CT
<p>■ 授業概要 教科書の第2章日本建築史「1日本建築の曙」から「23人間らしさの展開」を読解して日本建築史の全体的な流れを把握してください。その際、ノートに整理して知識をまとめておくと、科目終末試験の勉強にも役立つはず。続いて、参考文献で日本建築史の各テーマの理解を深めてください。そのうえで、レポートを提出し、科目終末試験に合格すれば単位が認定されます。</p> <p>■ 到達目標およびディプロマポリシーとの関連 1. 日本建築の変遷とその歴史的特質について説明できる。 2. 歴史的建造物の時代的特徴や地域性について説明できる。 3. 歴史的建造物および町並みの役割や特性について説明できる。 この科目の習得は、建築学部建築学科（通信教育課程）の定めるディプロマ・ポリシー2, 3の達成に關与しています。</p> <p>■ 成績評価方法および基準 確認テストと科目終末試験の合格 100%</p> <p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法 確認テストについては、解説をします。</p> <p>■ 教科書 [ISBN] 9784761532079 『カラー版 図説 建築の歴史 西洋・日本・近代』（西田雅嗣・矢ヶ崎善太郎 編、学芸出版社：2013）</p> <p>■ 参考文献 [ISBN] 9784395008889 『日本建築史図集 新訂第3版』（日本建築学会 編、彰国社：2011） [ISBN] 9784761527938 『改訂版 図説 日本住宅の歴史』（平井聖、学芸出版社：2021）</p> <p>■ 関連科目 近代建築史、西洋建築史</p> <p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間 教科書を読解して、建築史全体的な流れをノートに整理して知識をまとめてください。続いて、参考文献で各テーマの理解を深めてください。可能であれば、教科書で紹介された建築物を見学してください。 授業は15回です。 〈古代〉 第1回：先史の建築と集落 第2回：飛鳥・奈良時代の寺院建築 第3回：奈良・平安期成立の神社 第4回：平安時代の寺院と寝殿造 第5回：条坊制都市 〈中世〉 第6回：大仏様と禅宗様 第7回：新和様と折衷様 第8回：中世の神社 第9回：座敷飾と武家文化 第10回：中世の民家 〈近世〉 第11回：近世の都市と城郭建築 第12回：書院造 第13回：茶室と数寄屋 第14回：近世の寺院と神社 第15回：町家と農家</p>					

科目コード	2211	科目名	アーバンデザイン	テキスト授業	CT
<p>■ 授業概要 都市のデザインについて、建築と都市との関係や、エリアごとの計画の特徴について、各地の様々な事例をもとに学びます。また各地の歴史的都市のデザインを読み解くための基礎知識として、都市計画の歴史についても学びます。</p> <p>■ 到達目標およびディプロマポリシーとの関連 建築学部建築学科（通信教育課程）の学習教育目標（E）（建築学の基礎的理解）をもとにしつつ、（G）（設計・計画）全般、なかでも（G-5）（都市とまちなみ）に対応しています。 この科目の修得は、建築学部建築学科（通信教育課程）の定めるディプロマ・ポリシー3の達成に参与しています。</p> <p>■ 成績評価方法および基準 レポート 100%</p> <p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法 記述内容に講評を行い返却します</p> <p>■ 教科書 [ISBN] 9784844607434 『みんなの都市計画』（脇田 祥尚，理工図書：2009）</p> <p>■ 関連科目 現代都市計画、まちづくり論</p> <p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間 身近な都市デザインの事例や、雑誌やメディア等で取り上げられる都市デザインについて関心を持って接してください。テキストに記載されている基礎的知識や技法を十分に理解した上で、それらが実際の都市デザインにどのように適用されているのかを検討してください。</p> <p>第1回 建築と都市のデザイン1 第2回 建築と都市のデザイン2 第3回 地域・地区のデザイン1 第4回 地域・地区のデザイン2 第5回 地域・地区のデザイン3 第6回 風景のデザイン1 第7回 風景のデザイン2 第8回 都市のデザイン 第9回 歴史の都市、都市の歴史1 第10回 歴史の都市、都市の歴史2 第11回 近代都市計画思潮1 第12回 近代都市計画思潮2 第13回 都市計画の歩み1 第14回 都市計画の歩み2 第15回 都市計画の歴史</p>					

科目コード	2219	科目名	建築計画各論	テキスト授業	CT
<p>■ 授業概要 建築計画各論では、建築計画総論、住宅計画で得られた知識を踏まえて習得すべき建築計画上の留意点を建築種別ごとに説明する。 建築計画には①その場所で体験する利用者の心理を追求する側面と、②各諸室の配置計画や動線計画等の効率性・機能性を追求する側面がある。本講義では、学校、福祉施設、幼稚園・保育園、図書館、博物館、オフィスビルなどの計画理論や設計手法について学ぶ。</p>					
<p>■ 到達目標およびディプロマポリシーとの関連 学習・教育目標 (G-3) (使われ方) 新しい時代に即した住まい方や使い方に対応できる設計・計画の知識を習得する。 (G-6) (建築プロジェクトの企画力) 時代の変化を読み取り、社会・経済状況を踏まえながら地域にとって必要とされる建築プロジェクトを企画できる能力を養うとともに、建築ストックを良好に維持管理する能力を身につけ、建築物を守り・育て・活用してゆく能力を養う。 到達目標は、1. 建築の機能性や快適性に関する知識と手法の習得。2. 建築の設計に応用できる能力の育成である。 この科目の修得は、建築学部建築学科(通信教育課程)の定めるディプロマ・ポリシー3の達成に関与している。</p>					
<p>■ 成績評価方法および基準 確認テストと科目終末試験の合格 100%</p>					
<p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法 確認テスト、科目終末試験の結果と解答例を返却します</p>					
<p>■ 教科書 [ISBN] **** 『図説建築計画』(鈴木 毅・山口 健太郎 編, 学芸出版社:2024) 現在作中</p>					
<p>■ 参考文献 [ISBN] 9784260332910 『自宅でない在宅一高齢者の生活空間論』(外山 義, 医学書院:2003) [ISBN] 9784306044968 『学校建築ルネサンス』(上野 淳, 鹿島出版会:2008) [ISBN] 9784621307427 『第4版コンパクト建築設計資料集成』(日本建築学会, 丸善出版:2024) [ISBN] 9784761523916 『美術館の可能性』(並木 誠士, 学芸出版社:2006)</p>					
<p>■ 関連科目 建築計画総論、住宅計画</p>					
<p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間 建築計画各論では、学校、保育園・幼稚園、福祉施設、病院、図書館、博物館、劇場、オフィスビル、商業・宿泊施設、コミュニティ施設という施設種別ごとに、施設計画の歴史、計画理論を読み解き、各施設の事例から実建築における計画理論の応用について学ぶ。各施設ごとに設定されている演習問題に取り組み、授業内容の理解を深める。</p> <p>第1回 学校の計画 学校建築の歴史と授業の運営形態 第2回 学校の計画 海外の学校建築の変遷およびオープンスクール 第3回 保育園・幼稚園の計画 第4回 福祉施設の計画 歴史と個室化 第5回 福祉施設の計画 ユニット化と各部の計画 第6回 病院の計画 ナイチンゲール病棟と日本の病院建築の歴史 第7回 病院の計画 病棟計画、各部の計画 第8回 図書館の計画 歴史と全体計画 第9回 図書館の計画 各部計画 第10回 博物館の計画 歴史と全体計画 第11回 博物館の計画 各部の計画 第12回 劇場の計画 第13回 オフィスビルの計画 第14回 商業・宿泊施設の計画 第15回 コミュニティ施設の計画</p>					

科目コード	2220	科目名	西洋建築史	テキスト授業	CT
<p>■ 授業概要 教科書の第1章西洋建築史「1 記念性の表現」から「22 過去様式の多様化」を読解して西洋建築史の全体的な流れを把握してください。その際、ノートに整理して知識をまとめておくと、科目終末試験の勉強にも役立ちます。続いて、参考文献で西洋建築史の各テーマの理解を深めてください。そのうえで、レポートを提出し、科目終末試験に合格すれば単位が認定されます。</p> <p>■ 到達目標およびディプロマポリシーとの関連 ①西洋建築の古代から近代初期までの各時代の構造、用途、様式の特徴が説明できる。②西洋建築の理論と空間の特質を理解し、説明できる。この科目の修得は、建築学部建築学科（通信教育課程）の定めるディプロマ・ポリシーの1と3の達成に主に関与しています。</p> <p>■ 成績評価方法および基準 確認テストと科目終末試験の合格 100%</p> <p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法 確認テストについては、解説をします。</p> <p>■ 教科書 [ISBN] 9784761532079 『カラー版 図説 建築の歴史 西洋・日本・近代』（西田雅嗣・矢ヶ崎善太郎 編，学芸出版社：2013）</p> <p>■ 参考文献 [ISBN] 9784395000210 『西洋建築史図集 三訂版』（日本建築学会 編，彰国社：1981） [ISBN] 9784395006489 『図説 西洋建築史』（陣内秀信 他，彰国社：2005） [ISBN] 9784627505612 『西洋建築史（建築学入門シリーズ）』（吉田 鋼市（著），谷口 汎邦（監修），森北出版：2007）</p> <p>■ 関連科目 日本建築史、近代建築史</p> <p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間 授業は15回です。教科書を読解して、建築史全体的な流れをノートに整理して知識をまとめてください。続いて、参考文献で各テーマの理解を深めてください。可能であれば、教科書で紹介された建築物を見学してください。 学修時間は、「レポート課題」60時間、「科目終末試験」30時間を基本とします。</p> <p>第1回 古代オリエント・古代エジプト建築 第2回 ギリシア建築1・2 第3回 ローマ建築1 第4回 ローマ建築2 第5回 古代末期・中世初期の建築 第6回 ビザンツ建築 第7回 ロマネスク建築1・2 第8回 ゴシック建築1・2 第9回 ルネサンス建築1 第10回 ルネサンス建築2 第11回 ルネサンス建築3 第12回 バロック建築1 第13回 バロック建築2・3 第14回 新古典主義建築1・2 第15回 歴史主義建築1・2</p>					

科目コード	2229	科目名	現代ハウジング	テキスト授業	CT
<p>■ 授業概要 現代ハウジングは、建築計画の住宅ならびに住宅地の計画から出発し、住宅政策、さらには住宅と福祉や教育施策との連携、そして途上国や欧米諸国との比較にまで及ぶ広い領域を対象としています。昨今では特に、住まいに関わる幅広い縮尺を超えた意識で建築やまちづくりの企画やマネジメントの必要性が高まっています。そのため本授業では、多様なライフスタイルがうまれている現在において、コレクティブ・コーポラティブ・シェアハウスなどの新たなデザイン手法をはじめ、高齢者・障害者・子育ての様なテーマ性を持ったハウジング、そして団地再生や既存ストック建築のリノベーションやコンバージョンの手法、まちづくりや地域における居住地や住まいのマネジメント等、現代における多様なハウジングシステムの潮流を学びます。</p>					
<p>■ 到達目標およびディプロマポリシーとの関連 ディプロマ・ポリシーの3及び4に位置づく科目で、主に『つくり・守り・育てる』建築学の理解を深めるために、専門科目科目のG-3, 4, 6の習得を目指しています。</p>					
<p>■ 成績評価方法および基準 レポートと科目終末試験の合格 100%</p>					
<p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法 レポートについて、質問への回答として返却します。</p>					
<p>■ 教科書 現代のハウジングとまちづくり（発行予定）</p>					
<p>■ 参考文献 [ISBN] 9784395008094 『現代集合住宅のリ・デザイン—事例で読む“ひと・時間・空間”の計画』（日本建築学会, 彰国社: 2010） [ISBN] 9784254266436 『これからの住まいとまち：住む力をいかす地域生活空間の創造』（堀田 祐三子, 朝倉書店: 2014）</p>					
<p>■ 関連科目 住宅計画、現代都市計画、アーバンデザイン</p>					
<p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間 面接授業は実施しません。講義内容をもとに、その事例や実践からみえる課題や効果について、現在の社会の動きや潮流をとらえながら自分の意見を示すように心がけてください。 様々なメディアをはじめ各テーマに関するアンテナをはるとともに、実践に参加する機会を作るようにしてください。</p> <p>第1回 ハウジングを取り巻く世界（住宅双六・サザエ家のビフォーアフター） 第2回 歴史的変遷からみたハウジングと集住空間① 第3回 歴史的変遷からみたハウジングと集住空間② 第4回 シェアとハウジング（シェアハウス） 第5回 居住者の参加とハウジング①（コレクティブ） 第6回 居住者の参加とハウジング②（コーポラティブ） 第7回 居住者の参加とハウジング③（実践事例） 第8回 密集市街地とハウジング 第9回 空き家問題とハウジング 第10回 公共住宅団地とハウジング① 第11回 公共住宅団地とハウジング②（実践事例） 第12回 少子高齢化とハウジング①（高齢者） 第13回 少子高齢化とハウジング②（子ども・障がい者ほか） 第14回 災害復興とハウジング 第15回 現代ハウジングの潮流</p>					

科目コード	2230	科目名	まちづくり論	テキスト授業	CT
<p>■ 授業概要 まちづくりについて、各地の様々な事例をもとに、市民参加の視点や考え方、地域資源の継承や生活環境の維持の方法について学びます。地区のまちづくりを推進するにあたって必要となる、都市計画の基礎的な知識についても計画・規制・事業それぞれについて学習します。</p> <p>■ 到達目標およびディプロマポリシーとの関連 建築学部建築学科（通信教育課程）の学習教育目標（E）（建築学の基礎的理解）をもとにしつつ、（G）（設計・計画）全般、なかでも（G-5）（都市とまちなみ）に対応しています。 この科目の修得は、建築学部建築学科（通信教育課程）の定めるディプロマ・ポリシー3の達成に参与しています。</p> <p>■ 成績評価方法および基準 レポート 100%</p> <p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法 記述内容に講評を行い返却します。</p> <p>■ 教科書 [ISBN] 9784844607434 『みんなの都市計画』（脇田 祥尚，理工図書：2009）</p> <p>■ 関連科目 現代都市計画、まちづくり論</p> <p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間 身近なまちづくりの課題や、雑誌やメディア等で取り上げられるまちづくりの事例について関心を持って接してください。テキストに記載されている基礎的知識や技法を十分に理解した上で、それから実際のまちづくりにどのように適用されているのかを検討してください。</p> <p>第1回 まちづくりと市民参加1 第2回 まちづくりと市民参加2 第3回 景観まちづくり1 第4回 景観まちづくり2 第5回 地域資源を活かしたまちづくり1 第6回 地域資源を活かしたまちづくり2 第7回 防災まちづくり1 第8回 防災まちづくり2 第9回 交通と福祉のまちづくり 第10回 まちづくりと地域生活空間計画 第11回 都市計画法とマスタープラン 第12回 土地利用計画 第13回 都市施設の計画 第14回 市街地開発事業 第15回 都市計画の制度</p>					

科目コード	2231	科目名	環境計画論	テキスト授業	CT
<p>■ 授業概要 生活環境の計画においては、まず利用者である人間の行動特性や心理特性を十分に理解することが重要である。人間と環境との相互作用と基本的な関係性に着目し、環境の計画に必要な知識を修得することを目的とする。本科目では、建築物や建築物の周辺をはじめとする「人間」が関わる環境についての理論を実例を通して学び、それを踏まえて自らの環境を計画する。</p> <p>■ 到達目標およびディプロマポリシーとの関連 1. 人が関わるさまざまな環境とその理論について理解を深める。 2. 環境に関する理論の意味、用語、寸法を正しく理解する。 3. 人が関わる環境を考えて、建築物および建築物周辺の計画を行うことができるようになる。 この科目の修得は、建築学部建築学科（通信教育課程）の定めるディプロマ・ポリシー3、4の達成に關与しています。</p> <p>■ 成績評価方法および基準 レポートと科目終末試験の合格 100%</p> <p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法 レポートについては、記述内容に講評を行い返却します。</p> <p>■ 教科書 [ISBN] 9784901683647 『建築計画の基礎—環境・建築・インテリアのデザイン理論（新・建築学）』（西出 和彦，数理工学社：2009）</p> <p>■ 参考文献 [ISBN] 9784844607762 『はじめての環境デザイン学』（澤木 昌典，理工図書：2011） [ISBN] 9784254266290 『建築デザインと環境計画』（柏原 士郎，朝倉書店：2005） [ISBN] 9784395005604 『人間－環境系のデザイン』（日本建築学会，彰国社：1997） [ISBN] 9784621048283 『建築設計資料集成（総合編）』（日本建築学会，丸善出版：2001）</p> <p>■ 関連科目 建築計画総論、住宅計画、現代都市計画、建築計画各論</p> <p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間 面接授業は実施しない。常に自身の生活環境との関連性を考えながら、教科書を読むよう心掛けてください。はじめに、教科書で環境計画に関わる理論を修得します。そして、レポート課題として、身の回りの環境について問題や課題を見つけ、環境・空間の計画に取り組んでください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間・環境・空間・建築 2. 建築計画のはじまり 3. 建築計画の意義 4. 建築計画のプロセス 5. 生活空間の計画1：居住空間、階段 6. 生活空間の計画2：水周り、扉、取手 7. 生活空間の計画3：廊下 8. 演習課題（1）：住まいの計画 9. 公共建築の計画1：パーソナルスペース 10. 公共建築の計画2：プライバシー 11. 公共建築の計画3：視覚と空間 12. 公共建築の計画4：天井高と空間の広がり 13. 演習課題（2）：公共建築の計画 14. 動線計画、サイン計画 15. 空間のイメージ 					

基礎専門科目

③ 建築環境工学

科目コード	2205	科目名	建築環境工学概論	テキスト授業	CT
<p>■ 授業概要 建物内の人間は、熱・空気・光・音に囲まれて過ごしている。これらは建物外部から入ってくるものもあれば出ていくものや内部で生じるものもある。これらは、その環境内にいる人間の快適性や健康などにも影響を与えるため、建築空間を計画する際にはその影響も考慮してこれらを適切に制御できなければならない。本科目では、熱・空気・光・音の人間への影響や物理的な取り扱いの基礎を学ぶ。</p>					
<p>■ 到達目標およびディプロマポリシーとの関連 建築学部建築学科（通信教育課程）の学習教育目標（E）建築学の基礎的理解に主に対応する。付随的に（C）専門家倫理、（D）自発的・主体的な学習にも対応する。 到達目標は、建築空間内の熱・空気・光・音の人間との関係と物理的な取り扱いについて理解できるようになることである。 この科目の修得は、本課程の定めるディプロマ・ポリシー3の達成に關与しています。</p>					
<p>■ 成績評価方法および基準 レポートと科目終末試験の合格 100%</p>					
<p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法 レポートについては、記述内容に講評を行い返却します。</p>					
<p>■ 教科書 [ISBN] 9784753017621 『基礎教材 建築環境工学』（垂水弘夫監修，鍵 直樹・円井基史・小崎美希・富田隆太著、井上書院：2017）</p>					
<p>■ 関連科目 熱・空気環境、音・光環境、住宅環境性能論</p>					
<p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間 教科書に従って、空気・熱・光・音環境の基礎について学修する。 人は空気・熱・光・音の中で生活しているため、学修した内容と日常生活で感じる内容とを照らし合わせ、活きた知識となるようになるようにすること。</p> <p>第1回：空気環境（概要と汚染物質） 第2回：空気環境（空気流動） 第3回：空気環境（換気） 第4回：熱環境（日照・日射） 第5回：熱環境（建築伝熱） 第6回：熱環境（湿気・結露） 第7回：熱環境（快適性） 第8回：光環境（光の測り方・表し方・感じ方） 第9回：光環境（人工照明） 第10回：光環境（昼光照明） 第11回：光環境（照明設計、色の表し方、感じ方） 第12回：音環境（音の基礎） 第13回：音環境（騒音評価、音の伝搬） 第14回：音環境（室内音場） 第15回：音環境（遮音）</p>					

科目コード	2212	科目名	熱・空気環境	テキスト授業	CT
<p>■ 授業概要</p> <p>建築をとりまく環境は多種多様であるが、特に人間にとって快適な環境をつくりだすことは重要である。建築における環境は大きく分けて「空気環境」、「熱環境」、「光環境」および「音環境」がある。これらの建築環境の計画目的、現象および理論と人間の感覚量との対応を理解し、評価尺度のもとでいかに工学的に安全性・衛生性・健康性・快適性などを持続的に達成し得るかを学ぶことを目標とする。「熱・空気環境」では、この目標をもとに「熱環境」、「空気環境」についての基礎的内容について学ぶ。</p> <p>■ 到達目標およびディプロマポリシーとの関連</p> <p>熱環境については小規模建物の熱損失係数の算出、空気環境についてはダクト換気設計手法の基本の習得を到達目標とする。</p> <p>この科目の修得は、本課程の定めるディプロマ・ポリシー3の達成に関与しています。</p> <p>■ 成績評価方法および基準</p> <p>科目終末試験の合格 100%</p> <p>■ 教科書</p> <p>[ISBN] 9784753017577 『最新 建築環境工学 (改訂4版)』 (田中 俊六 他著, 井上書院:2014)</p> <p>■ 参考文献</p> <p>[ISBN] 9784395005161 『環境工学教科書』 (環境工学教科書研究会 編著, 彰国社:2000) ¥3,500 [ISBN] 9784627551602 『建築環境工学』 (浦野良美・中村洋 著, 森北出版:1996) ¥3,800 [ISBN] 9784395150106 『新建築学大系10、環境物理』 (松本衛・松尾陽 他著, 彰国社:1984) ¥5,500</p> <p>■ 関連科目</p> <p>建築環境工学概論、建築設備概論、音・光環境</p> <p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間</p> <p>面接授業は実施しない。</p> <p>教科書等を読み、用語や計算方法を理解し、試験に臨むこととする。</p> <p>各回の終わりに小テストを行い、理解度を確認する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回：建築物の熱環境 2回：建築環境に影響する外界気象の要因と特徴 3回：温熱生理応答と温熱感 4回：伝導・対流・放射 5回：壁体のU値 6回：建物のQ値 7回：湿気の問題と基礎理論 8回：壁体内水分移動と内部結露 9回：建築物の換気 10回：換気工学の基礎 11回：換気と圧力 12回：摩擦と形状による圧力損失 13回：浮力による換気 14回：風力による換気 15回：換気計画～換気ファンの選定 <p>時間外学習</p> <p>予習内容：参考書等を読み、対応する部分の予習をする。(60分)</p> <p>復習内容：教科書を見直し、自分の理解を確認し、それをまとめたノートを作成する。必要に応じて分からないことを調べ、それもノートに記入する。計算については、もう一度自分で計算を行い、理解を定着させる。(90分)</p>					

科目コード	2213	科目名	音・光環境	テキスト授業	CT
<p>■ 授業概要 建築をとりまく環境は多種多様であるが、特に人間にとって快適な環境をつくりだすことは重要である。建築における環境は大きく分けて「空気環境」、「熱環境」、「光環境」および「音環境」の4分野があり、この授業では、このうち音環境および光環境の基本について学ぶ。 音・光の物理とヒトへの生理的・心理的効果を学び、環境調整の方法を理解する。</p> <p>■ 到達目標およびディプロマポリシーとの関連 建築計画に際して考慮すべき音・光環境の問題とその解決方法の基本を理解する。 この科目の修得は、本課程の定めるディプロマ・ポリシー3の達成に関与する。</p> <p>■ 成績評価方法および基準 科目終末試験の合格 100%</p> <p>■ 教科書 随時資料を配布</p> <p>■ 参考文献 [ISBN] 9784254268799 『光と音の建築環境工学（シリーズ“建築工学”）』（小林 茂雄，朝倉書店：2018）</p> <p>■ 関連科目 建築環境工学概論、熱・空気環境、建築設備概論</p> <p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間 面接授業は実施しない。 教科書等を読み、用語や計算方法を理解し、試験に臨むこととする。 各回の終わりに小テストを行い、理解度を確認する。</p> <p>1回：全体と光環境の概要 2回：日照 3回：日射量の算出 4回：太陽の位置と日射遮蔽 5回：日陰時間の算出 6回：屋内における光の質と量 7回：人工照明 8回：音環境の概要 9回：音の基本 10回：聴覚と騒音 11回：室内音場 12回：振動防止 13回：音響空間設計 14回：騒音防止 15回：総括</p> <p>時間外学習 予習内容：参考書等を読み、対応する部分の予習をする。(60分) 復習内容：教科書を見直し、自分の理解を確認し、それをまとめたノートを作成する。必要に応じて分からないことを調べ、それもノートに記入する。計算については、もう一度自分で計算を行い、理解を定着させる。(90分)</p>					

基礎専門科目

④ 建築設備

科目コード	2221	科目名	建築設備概論	オンデマンド 授業	ME
<p>■ 授業概要 建築設備の取り組みとして設備の省エネルギー化と安全、快適、能率などに関する、熱環境、空気環境及び生きるための生理的活動を支援する設備が必要である。 機器、装置類を包含したシステムとして建築設備について述べる。 本科目では、建築設備に関する基礎的事項の学習を通じて、建築物における設備設計の役割について理解を深める。</p> <p>■ 到達目標およびディプロマポリシーとの関連 各設備の役割を理解し、建築計画に際して環境条件を配慮して、建築設備の側面からも、適切な建築計画ができる知識を身につける。 この科目の修得は、本課程の定めるディプロマ・ポリシー3の達成に關与する。</p> <p>■ 成績評価方法および基準 メディア単位修了試験の合格 100%</p> <p>■ 教科書 適時資料を配布</p> <p>■ 参考文献 [ISBN] 9784870712645 『初学者の建築講座 建築設備 (第5版)』(大塚 雅之, 市ヶ谷出版社: 2022) [ISBN] 9784767827162 『世界で一番やさしい建築設備 最新改訂版』(河嶋麻子, エクスナレッジ: 2020) [ISBN] 9784761526061 『建築設備 基本を学ぶ』(大西正宜, 学芸出版社: 2015) [ISBN] 9784761524982 『図とキーワードで学ぶ建築設備』(飯野秋成, 学芸出版社: 2010) [ISBN] 9784395008537 『建築設備学教科書』(建築設備学教科書研究会, 彰国社: 2009) [ISBN] 9784753017652 『最新建築設備工学 (改訂2版)』(宇田川光弘, 井上書院: 2022)</p> <p>■ 関連科目 建築環境工学概論、音・光環境、熱・空気環境</p> <p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間 第1回 建築設備の概要: 建築設備の重要性、給排水・衛生設備、空気調和設備、電気設備の概要 第2回 空気調和設備(1): 空気長阿設備の概要、室内環境基準、温熱環境の6要素 第3回 空気調和設備(2): 空気調和設備の全体構成 第4回 空気調和設備(3): 空調負荷、空調方式、成績係数 第5回 換気設備: 換気の目的、換気方式の分類、必要換気量 第6回 電気設備: 電気設備の概要、電気設備の種類 第7回 エネルギー管理: PAL*、CASBEE、LCC、LCCO2 第8回 前半の学習内容の確認(空調設備、換気設備、電気設備、エネルギー管理) 第9回 給水設備: 給水方式、クロスコネクション、バキュームブレーカ 第10回 給湯設備・ガス設備: 給湯方式、ガス燃焼器具の分類、省エネに配慮した給湯機器 第11回 衛生器具設備: 衛生器具設備の種類、洗浄方式、所要器具数 第12回 排水・通気設備: 排水方式、排水・通気管の種類、排水トラップ 第13回 消防設備: 消火設備、屋内消火栓、警報設備、避難設備 第14回 搬送設備: エレベータ、エスカレータ 第15回 後半の学習内容の確認(給排水衛生設備、消防設備、搬送設備)</p>					

基礎専門科目

⑤構造力学

科目コード	2214	科目名	構造力学Ⅰ	オンデマンド 授業	ME
<p>■ 授業概要 構造力学は、建築構造物の構造設計をおこなう際に必要となる力学的な基礎知識を体系化したものです。建築物に荷重が作用した際に、どのような力が生じるかを知ることが、建築物の安全性を確認するために必要なことです。本講義では、静定構造物に生じる応力についての基礎知識を習得することを目的としています。</p> <p>■ 到達目標およびディプロマポリシーとの関連 基礎的は力の扱いおよび力のつり合いを理解し、静定構造物の梁、ラーメン構造の反力および応力を算出して応力図を描くことができることを到達目標としています。 この科目の修得は、建築学部建築学科（通信教育課程）の定めるディプロマ・ポリシー3および4の達成に関与しています。</p> <p>■ 成績評価方法および基準 メディア単位修了試験 100%</p> <p>■ 教科書 [ISBN] 9784761532154 『基礎からわかる 静定構造力学』（村上 雅英，学芸出版社：2014）</p> <p>■ 参考文献 [ISBN] 9784798006499 『図解入門 よくわかる構造力学の基本』（松本慎也，秀和システム：2003） [ISBN] 9784627552913 『はじめて学ぶ建築構造力学』（大田和彦，藤井大地，森北出版：2008） [ISBN] 9784761526559 『図説やさしい構造力学 改訂版』（浅野清昭，学芸出版社：2017）</p> <p>■ 関連科目 構造力学Ⅱ</p> <p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間</p> <p>第1回 ガイダンス、各種荷重（長期・短期）や構造モデル 予習内容：教科書、参考図書の該当部分を読む（以下同じ）（60分） 復習内容：教科書、参考図書の該当部分を読み、類似問題を解く（以下同じ）（60分）</p> <p>第2回 力の表記、モーメント、合成・分解</p> <p>第3回 つり合い、反力（モデル化）</p> <p>第4回 反力計算（集中荷重；梁、ラーメン）</p> <p>第5回 反力計算（分布荷重；梁）</p> <p>第6回 応力とは、応力の種類、任意点での応力算出（集中荷重；梁）</p> <p>第7回 任意点での応力算出（集中荷重；ラーメン）</p> <p>第8回 梁の応力図（集中荷重；片持ち梁）</p> <p>第9回 梁の応力図（集中荷重；単純梁）</p> <p>第10回 梁の応力図（分布荷重；片持ち梁）</p> <p>第11回 ラーメンの応力図（集中荷重；片持ち梁型）</p> <p>第12回 ラーメンの応力図（集中荷重；単純梁型）</p> <p>第13回 ラーメンの応力図（分布荷重；片持ち梁型）</p> <p>第14回 ゲルバー梁</p> <p>第15回 3ヒンジラーメン メディア単位修了試験</p>					

科目コード	2222	科目名	構造力学Ⅱ	オンデマンド 授業	ME
<p>■ 授業概要 構造力学は、建築構造物の構造設計をおこなう際に必要となる力学的な基礎知識を体系化したものです。建築物に荷重が作用した際に、どのような力が生じるかを知ることは、建築物の安全性を確認するために必要なことです。本講義では、静定構造物に生じる応力や各種応力度および断面性能およびについての基礎知識を習得することを目的としています。</p> <p>■ 到達目標およびディプロマポリシーとの関連 静定構造物のトラス構造の反力および応力を算出して応力図を描くことができることおよび様々な断面形状の断面性能ならびに各種応力度を算出できることを到達目標としています。 この科目の修得は、建築学部建築学科（通信教育課程）の定めるディプロマ・ポリシー 3 および 4 の達成に關与しています。</p> <p>■ 成績評価方法および基準 メディア単位修了試験 100%</p> <p>■ 教科書 [ISBN] 9784761532154 『基礎からわかる 静定構造力学』（村上 雅英，学芸出版社：2014）</p> <p>■ 参考文献 [ISBN] 9784798006499 『図解入門 よくわかる構造力学の基本』（松本慎也，秀和システム：2003） [ISBN] 9784627552913 『はじめて学ぶ建築構造力学』（大田和彦，藤井大地，森北出版：2008） [ISBN] 9784761526559 『図説やさしい構造力学 改訂版』（浅野清昭，学芸出版社：2017）</p> <p>■ 関連科目 構造力学Ⅰ</p> <p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間</p> <p>第 1 回 トラス構造とは、トラスの種類、三角関数の復習 予習内容：教科書、参考図書の該当部分を読む（以下同じ）（60分） 復習内容：教科書、参考図書の該当部分を読み、類似問題を解く（以下同じ）（60分）</p> <p>第 2 回 トラス構造（クレモナ図式解法）</p> <p>第 3 回 トラス構造（節点法）</p> <p>第 4 回 トラス構造（切断法）</p> <p>第 5 回 応力度、ひずみ度、フックの法則</p> <p>第 6 回 断面1次モーメントと図心</p> <p>第 7 回 断面1次モーメントと図心</p> <p>第 8 回 断面2次モーメント</p> <p>第 9 回 断面2次モーメント</p> <p>第10回 フックの法則の復習、軸方向応力度（圧縮・引張）</p> <p>第11回 曲げ応力度</p> <p>第12回 せん断応力度</p> <p>第13回 軸方向応力度と曲げ応力度の複合応力度</p> <p>第14回 許容応力度の考え方と適用</p> <p>第15回 座屈荷重 メディア単位修了試験</p>					

科目コード	2232	科目名	構造力学Ⅲ	オンデマンド 授業	ME
<p>■ 授業概要 構造力学Ⅰ、Ⅱの知識を基にして、簡単な不静定ラーメン（不静定次数の小さい架構）を解くことを習得することから始め、理論的な解法（たわみ角法、固定法）を用いた解き方を修得することを目指します。さらに不静定ラーメンの崩壊荷重（極限解析）についても解き方を確認します。先の簡単な不静定ラーメン（不静定次数の小さい架構）は一級建築士の学科Ⅳ構造の構造力学計算問題を中心に解けるレベルから理解するレベルへの到達を目標とします。この科目は、建築学部建築学科（通信教育課程）の4年生が受講する必修科目で、2単位が与えられます。</p>					
<p>■ 到達目標およびディプロマポリシーとの関連 受講者はこの授業を履修することによって、以下の目標が達成されます。 1) 学士課程における構造力学の講義を総括することができる 2) 建築構造設計に関わる実務の概要を理解する 3) 一級建築士の学科試験における構造力学計算問題の解法を理解する この科目の修得は、本課程の定めるディプロマ・ポリシー3の達成に関与しています。</p>					
<p>■ 成績評価方法および基準 メディア単位修了試験 100%</p>					
<p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法 試験問題についての解答解説は配布しません。</p>					
<p>■ 教科書 [ISBN] 9784761525231 『図解レクチャー構造力学 静定・不静定構造を学ぶ』（浅野清昭 著、学芸出版社：2011） その他適宜参考プリントを配布します。</p>					
<p>■ 参考文献 [ISBN] 9784320077232 『建築構造ポケットブック 第6版 机上版』（建築構造ポケットブック編集委員会編、共立出版社：2020） [ISBN] 9784761526627 『図説やさしい構造設計 改訂版』（浅野清昭 著、学芸出版社：2017）</p>					
<p>■ 関連科目 構造力学Ⅰ、Ⅱの知識を基にその応用を取り扱うこの科目を履修するには、当該構造力学Ⅰ、Ⅱの単位を取得済（または履修済）でないと、本講義の理解の到達度は低くなります。 崩壊荷重（保有水平耐力計算）はRC構造、鉄骨構造の一般構造の分野にも応用されます。</p>					
<p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間 本講座は1、2年時履修の構造力学Ⅰ、Ⅱの用語や基本理論の理解を前提とし、当該科目に関する問題を解くことができるレベルへ到達している学生を対象としている講座です。 履修前の時間外学習内容としては、先ず構造力学Ⅰ、Ⅱの再確認を各自実施する必要があります。 再確認に要する時間は、当該科目の理解度の程度に依存し、適宜各自で十分な復習を行ってください。 本講座は以下の項目を15回に分けて実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回目・ガイダンス1、構造力学Ⅰ、Ⅱにおける知識の確認（不静定構造入門（応力編）） 2回目・ガイダンス2、不静定架構の具体的な応力の把握（静定架構との違い）と応力類推問題演習 3回目・ガイダンス3、構造力学Ⅰ、Ⅱにおける知識の確認（不静定構造入門（変形編）） 4回目・簡単な不静定ラーメン（不静定次数の小さい架構）の解法1（節点が移動しない場合） 5回目・簡単な不静定ラーメン（不静定次数の小さい架構）の解法2（節点が移動する場合） 6回目・簡単な不静定ラーメンの総括（長期荷重、地震時荷重（地震力と地震層せん断力）とのリンク） 7回目・たわみ角法：原理と基本的な考え方 8回目・たわみ角法1：節点が移動するラーメン 9回目・たわみ角法2：節点が移動しないラーメン 10回目・固定法：原理と基本的な考え方 11回目・固定法：節点が移動しないラーメンについての解法 12回目・崩壊荷重の解法についての原理と基本的な考え方 13回目・不静定架構の崩壊荷重（極限解析）1：構造力学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの知識により解く方法 14回目・不静定架構の崩壊荷重（極限解析）2：仮想仕事法 15回目・本授業の総括とメディア単位修了試験に向けての復習 <p>履修前学習の時間：適宜 事前学修の時間：90分/回 事後学修の時間：180分/回</p>					

基礎専門科目

⑥ 建築一般構造

科目コード	2206	科目名	建築構法	テキスト授業	CT
<p>■ 授業概要</p> <p>一般構造とは文字通り一般的な建築物の構成手法を指し、内外装の納まりを含めて建築構法という専門分野を構成する。建築について専門教育を受けようとする人がまず最初に修得しなければならないのがこの構法についての知識である。この授業では、建築の構成やしくみを総合的視点から建築技術と建築の実体とを結びつけながら学ぶ。具体的な内容は、第一に用語の定義や性能などの建築構法に関わる基礎的概念と知識である。続いて、木造を中心に建築材料別に主体構造（骨組み）の構成を学ぶ。これらを経て、建築の仕上げ側から各部位の納まり（各部構法）について学ぶ。この授業ではその後に展開される建築に関する深い知識を修得する専門科目の前提として、技術全体像（建物の構成方法や建築部材の構成方法、建築材料、施工方法）を理解することを目的としている。</p>					
<p>■ 到達目標およびディプロマポリシーとの関連</p> <p>(E) 建築学の基礎的理解、ならびに (I) 構造・生産に主に対応する。木造、コンクリート造、鉄骨造、組積造など様々な構法の名称、概要を修得すること及び構成部材の名称、使用材料の名称などを専門分野に関わる基礎知識として修得することを目標とする。</p> <p>この科目の修得は、建築学部建築学科（通信教育課程）の定めるディプロマ・ポリシー2、3の達成に関与している。</p>					
<p>■ 成績評価方法および基準</p> <p>レポートと科目終末試験の合格 100%</p>					
<p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法</p> <p>レポートについては、記述内容に講評を行い返却します</p>					
<p>■ 教科書</p> <p>[ISBN] 9784761527389 『改訂版 図説 建築構法』（南 一誠, 学芸出版社：2020）</p>					
<p>■ 参考文献</p> <p>[ISBN] 9784761524777 『図説 やさしい建築一般構造』（今村 仁美、田中 美都, 学芸出版社：2009）</p> <p>[ISBN] 9784870710078 『3D図解による建築構法 [第2版]』（松村 秀一, 市ヶ谷出版社：2017）</p> <p>[ISBN] 9784870710016 『建築構法』（内田 祥哉, 市ヶ谷出版社：2007）</p>					
<p>■ 関連科目</p> <p>建築学部建築学科（通信教育課程）の全科目</p>					
<p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間</p> <p>面接授業は実施しない。</p> <p>テキストの各章・節の内容を少しずつ読解し、自分なりにノートにまとめながら履修すること。</p> <p>本授業では基準や計算方法の暗記は求めない。建築の各部位の構成とその理由の理解を優先すること。</p> <p>適宜、作図しながら各部位の納まりを理解してほしい。各回では以下の内容を扱う。</p> <p>第1回 建築構法概念と用語 / 性能と構法の関係</p> <p>第2回 主体構法の歴史 / 建築を構成する材料の概要</p> <p>第3回 建築に作用する荷重と外力 / 部材と応力の関係</p> <p>第4回 様々な架構方式 / 素材による構造の分類</p> <p>第5回 木造① 木質材料の特性と架構方式の概要 / 在来木造構法の各部位の構成</p> <p>第6回 木造② 枠組壁工法ならびに現代的木造構法の構成 / 木造構法に関する構造の規定</p> <p>第7回 鉄骨造 鋼材の特性と鉄骨造の各部位 / 接合部の構成と耐火被覆</p> <p>第8回 RC造① 鉄筋コンクリートの材料特性、施工法と手順 / 各部位の構成 / PCa 構法</p> <p>第9回 RC造② PC造とSRC造の構成 / 組積造</p> <p>第10回 RC造③ 複合構造の種類と構成 / 大空間・特殊形状・超高層建築の構法</p> <p>第11回 各部構法① 建築部位の納まりの概念 / 地業と基礎 / 階段と手すり</p> <p>第12回 各部構法② 屋根の形状と部位の構成</p> <p>第13回 各部構法③ 壁の構成 / カーテンウォール / 開口部</p> <p>第14回 各部構法④ 床と天井 / 内装システム / 設備と構法</p> <p>第15回 構法とモジュール / 建築再生と構法計画 / 構法計画の現代的例</p>					

科目コード	2223	科目名	RC構造	テキスト授業	CT
<p>■ 授業概要</p> <p>本授業では、鉄筋コンクリート構造の特徴や構成、力学、用語の意味、部材の構造性能の評価手法について学びます。また、基本的な設計法を習得することを目的とし、主に以下に示す内容を履修することを目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 鉄筋コンクリート構造の特徴が説明できる。 2. 鉄筋コンクリート造建物がどのように構成されているか、またその力学性能が理解できる。 3. 鉄筋コンクリート構造に関する主要な用語の意味を的確に説明することができる。 4. 主要な部材（梁、柱、スラブ）などの構造性能を評価する手法を理解し、基本的な設計ができるようになる。 <p>さらに、一級建築士の学科Ⅳ構造の文章系問題についても理解し解答できるレベルへの到達を目標とします。習熟度については、以下に上げる小テストを実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1・2回目：鉄筋コンクリート構造とは？その長所と短所について。鉄筋とコンクリートの材料特性。 3・4回目：鉄筋とコンクリートの許容応力度について。鉄筋とコンクリートのひずみ特性について。 5・6回目：梁の設計（釣り合い鉄筋比）について。梁の許容曲げ応力について。 7・8回目：柱の設計について。柱の必要鉄筋量の算出について。 9・10回目：柱梁のせん断補強について。付着割裂破壊について。 11・12回目：床スラブの設計について。基礎の設計について。 13・14回目：耐震2次設計について。一級建築士の学科Ⅳ構造における重要過去問について。 15回目：本授業の総括と単位修了試験に向けての復習テスト <p>この科目は、建築学部建築学科（通信教育課程）の3年生が受講する専門科目で、2単位が与えられます。</p> <p>■ 到達目標およびディプロマポリシーとの関連</p> <p>受講者はこの授業を履修することによって、以下の目標が達成されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 鉄筋コンクリートの構造について総括することができる 2) 建築構造設計に関わる実務の概要を理解する 3) 一級建築士の学科試験における各種構造の文章系問題（RC造部）を理解し解答できる <p>この科目の修得は、本課程の定めるディプロマ・ポリシー3の達成に関与しています。</p> <p>■ 成績評価方法および基準</p> <p>15回分の小テストと科目終末試験の合格 100%</p> <p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法</p> <p>小テストについては、自動採点にて各自見直せるように行い、適宜質問を受け付けます。</p> <p>■ 教科書</p> <p>[ISBN] 9784761526627 『図説やさしい構造設計 改訂版』（浅野清昭 著、学芸出版社：2017） その他適宜参考プリントを配布します。</p> <p>■ 参考文献</p> <p>[ISBN] 9784320077232 『建築構造ポケットブック 第6版 机上版』（建築構造ポケットブック編集委員会編、共立出版社：2020） [ISBN] 9784818906488 『鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説 2018改定』（日本建築学会 編集、日本建築学会：2018） [ISBN] 9784761540845 『改訂版 実務から見たRC構造設計』（上野 嘉久 著、学芸出版社：2008）</p> <p>■ 関連科目</p> <p>構造力学Ⅰ、Ⅱの知識を必要とします。さらに4年時に履修する構造力学Ⅲの項目にも関連します。</p> <p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間</p> <p>面接授業は実施しない。</p> <p>テキストを丸暗記するだけでなく、問題点を考え、それを解決し、参考文献も参照するとともに、きちんと自己の理解を深めましょう。</p> <p>レポートを作成するにあたっては、テキストおよび参考文献を十分に学習し理解を深めたうえで、自らの文章としてまとめて提出すること。</p> <p>習熟度については、以下に上げる小テストを実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1・2回目：鉄筋コンクリート構造とは？その長所と短所について。鉄筋とコンクリートの材料特性。 3・4回目：鉄筋とコンクリートの許容応力度について。鉄筋とコンクリートのひずみ特性について。 5・6回目：梁の設計（釣り合い鉄筋比）について。梁の許容曲げ応力について。 7・8回目：柱の設計について。柱の必要鉄筋量の算出について。 9・10回目：柱梁のせん断補強について。付着割裂破壊について。 11・12回目：床スラブの設計について。基礎の設計について。 13・14回目：耐震2次設計について。一級建築士の学科Ⅳ構造における重要過去問について。 15回目：本授業の総括と単位修了試験に向けての復習テスト 					

科目コード	2233	科目名	鉄骨構造	テキスト授業	CT
<p>■ 授業概要</p> <p>本授業では、鉄骨構造の特徴や構成、力学、用語の意味、部材の構造性能の評価手法について学びます。また、基本的な設計法を習得することを目的とし、主に以下に示す内容を履修することを目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 鉄骨構造の特徴が説明できる。 鉄骨造建物がどのように構成されているか、またその力学性能が理解できる。 鉄骨構造に関する主要な用語の意味を的確に説明することができる。 主要な部材（梁、柱、接合部）などの構造性能を評価する手法を理解し、基本的な設計ができるようになる。 <p>さらに、一級建築士の学科Ⅳ構造の文章系問題についても理解し解答できるレベルへの到達を目標とします。習熟度については、以下に上げる小テストを実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1・2回目：鉄骨構造とは？その長所と短所について。鋼材の材料特性。 3・4回目：鋼材の種類と断面形状について。鋼材の許容応力度について。弾性座屈荷重について。 5・6回目：梁の設計（横座屈）について。梁に生じる応力と梁断面について。 7・8回目：柱の設計（細長比）について。冷間成形角形鋼管について。 9・10回目：柱梁接合部①高力ボルト摩擦接合について。柱梁接合部②溶接について。 11・12回目：筋交い（ブレース）について。筋交いの接合部について。 13・14回目：耐震2次設計について。一級建築士の学科Ⅳ構造における重要過去問について。 15回目：本授業の総括と単位修了試験に向けての復習テスト <p>この科目は、建築学部建築学科（通信教育課程）の4年生が受講する専門科目で、2単位が与えられます。</p> <p>■ 到達目標およびディプロマポリシーとの関連</p> <p>受講者はこの授業を履修することによって、以下の目標が達成されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 鉄骨構造について総括することができる 建築構造設計に関わる実務の概要を理解する 一級建築士の学科試験における各種構造の文章系問題（鉄骨造部）を理解し解答できる <p>この科目の修得は、本課程の定めるディプロマ・ポリシー3の達成に貢献しています。</p> <p>■ 成績評価方法および基準</p> <p>15回分の小テストと科目終末試験の合格 100%</p> <p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法</p> <p>小テストについては、自動採点にて各自見直せるように行い、適宜質問を受け付けます。</p> <p>■ 教科書</p> <p>[ISBN] 9784761526627 『図説やさしい構造設計 改訂版』（浅野清昭 著，学芸出版社：2017） その他適宜参考プリントを配布します。</p> <p>■ 参考文献</p> <p>[ISBN] 9784320077232 『建築構造ポケットブック 第6版 机上版』（建築構造ポケットブック編集委員会 編，共立出版社：2020） [ISBN] 9784818906518 『鋼構造許容応力度設計規準』（日本建築学会 編集，日本建築学会：2019） [ISBN] 9784761540777 『改訂版 実務から見た鉄骨構造設計』（上野 嘉久 著，学芸出版社：2006）</p> <p>■ 関連科目</p> <p>構造力学Ⅰ、Ⅱの知識を必要とします。さらに4年時に履修する構造力学Ⅲの項目にも関連します。</p> <p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間</p> <p>面接授業は実施しない。 テキストを丸暗記するだけでなく、問題点を考え、それを解決し、参考文献も参照するとともに、きちんと自己の理解を持ちましょう。 レポートを作成するにあたっては、テキストおよび参考文献を十分に学習し理解を深めたうえで、自らの文章としてまとめて提出すること。 習熟度については、以下に上げる小テストを実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1・2回目：鉄骨構造とは？その長所と短所について。鋼材の材料特性。 3・4回目：鋼材の種類と断面形状について。鋼材の許容応力度について。弾性座屈荷重について。 5・6回目：梁の設計（横座屈）について。梁に生じる応力と梁断面について。 7・8回目：柱の設計（細長比）について。冷間成形角形鋼管について。 9・10回目：柱梁接合部①高力ボルト摩擦接合について。柱梁接合部②溶接について。 11・12回目：筋交い（ブレース）について。筋交いの接合部について。 13・14回目：耐震2次設計について。一級建築士の学科Ⅳ構造における重要過去問について。 15回目：本授業の総括と単位修了試験に向けての復習テスト 					

基礎専門科目

⑦ 建築材料

科目コード	2215	科目名	建築材料	テキスト授業	CT																
<p>■ 授業概要 建築物には多くの材料が大量に使用され、その材料の選択を誤れば建物の安全性と耐久性に重大な影響を及ぼします。そのため材料に対する基本的知識を持つことが極めて重要となります。本科目では、テキストを読解し、特に構造材料として主要な建築材料である木材・コンクリート・鋼材について材料学の立場から材料の組成・性質を学び、実践的な立場から防水材料、断熱材料、防耐火材料、音響材料等の機能性材料の知識を習得し、施工・構造との関連について学びます。そのうえで、レポートを提出し、科目最終試験に合格すれば単位が認定されます。</p>																					
<p>■ 到達目標およびディプロマポリシーとの関連 ＜到達目標＞ 受講者は、この授業を履修することによって、以下のことができるようになります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 木材の基本的な特徴と辺材・心材・形成層・年輪等の木材の組織構成がわかる。 2. 木材の性能を支配する要因と各種の欠点（節・割れ）が木材の品質を規定する等級やJAS規格の現状を理解できる。 3. 木材の強度に影響を及ぼす各種要因（含水率・加力方向・比重等）と強度特性の関係を理解できる。 4. セメントの原料と製造方法やセメント化学である水和反応・凝結・硬化作用等を理解できる。 5. コンクリートの強度特性（水セメント比・応力-ひずみ曲線・ヤング係数等）の基礎が理解できる。 6. 鉄鋼の基本的な特徴・変遷と圧延工程・結晶構造等の鉄鋼の組織構成がわかる。 7. 鉄鋼の持つ応力-ひずみ関係を理解し、熱処理・腐食問題と炭素含有量や熱的挙動によって変化する一般的性質を理解できる。 8. 防水材料、断熱材料、防火材料、音響材料、ガラス材料、外装材料等の各種機能性材料の役割を理解できる。 <p>この科目の修得は、本課程の定めるディプロマ・ポリシー2、3の達成に関与しています。</p>																					
<p>■ 成績評価方法および基準 レポートと科目終末試験の合格 100%</p>																					
<p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法 レポートについては、簡単な講評を付して返却します。</p>																					
<p>■ 教科書 [ISBN] 9784627551435 『建築材料 第3版』（嶋津 孝之 他、森北出版：2001）</p>																					
<p>■ 参考文献 [ISBN] 9784818922297 『建築材料用教材』（日本建築学会、日本建築学会：2013）</p>																					
<p>■ 関連科目 建築施工</p>																					
<p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間 教科書を読み、各種、建築材料の特長（長所、短所）を知り、建築材料の知識を深める。特に、テキストの構造材料編（第2章 木材、第3章 セメント・コンクリート、第4章 金属材料）、非構造材料編（第7章 ガラス）、機能材料編（第9章 防水材料、第10章 断熱材料、第11章 防火材料、耐火材料、第12章 音響材料）、仕上げ材料編（第13章 建築の仕上げ、第14章 屋根材料、第15章 外壁仕上げ材料、第16章 天井、内装仕上げ材料）についての理解を深め、ノートを作成すること。</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回 木材（1）特色と組織</td> <td>第8回 鉄鋼（1）製法と組織</td> </tr> <tr> <td>第2回 木材（2）製材工程と木取り</td> <td>第9回 鉄鋼（2）一般的特性</td> </tr> <tr> <td>第3回 木材（3）木材の等級と品質規格</td> <td>第10回 鉄鋼（3）鋼材の種類</td> </tr> <tr> <td>第4回 木材（4）木材の強度</td> <td>第11回 鉄鋼（4）その他金属材料</td> </tr> <tr> <td>第5回 コンクリート（1）特色と製法・性質</td> <td>第12回 防水材料</td> </tr> <tr> <td>第6回 コンクリート（2）骨材に要求される性能、フレッシュコンクリートの性質</td> <td>第13回 断熱材料/防火材料</td> </tr> <tr> <td>第7回 コンクリート（3）硬化コンクリートの強度、調合設計</td> <td>第14回 音響材料</td> </tr> <tr> <td></td> <td>第15回 ガラス材料、外装材料/タイル工事</td> </tr> </table>						第1回 木材（1）特色と組織	第8回 鉄鋼（1）製法と組織	第2回 木材（2）製材工程と木取り	第9回 鉄鋼（2）一般的特性	第3回 木材（3）木材の等級と品質規格	第10回 鉄鋼（3）鋼材の種類	第4回 木材（4）木材の強度	第11回 鉄鋼（4）その他金属材料	第5回 コンクリート（1）特色と製法・性質	第12回 防水材料	第6回 コンクリート（2）骨材に要求される性能、フレッシュコンクリートの性質	第13回 断熱材料/防火材料	第7回 コンクリート（3）硬化コンクリートの強度、調合設計	第14回 音響材料		第15回 ガラス材料、外装材料/タイル工事
第1回 木材（1）特色と組織	第8回 鉄鋼（1）製法と組織																				
第2回 木材（2）製材工程と木取り	第9回 鉄鋼（2）一般的特性																				
第3回 木材（3）木材の等級と品質規格	第10回 鉄鋼（3）鋼材の種類																				
第4回 木材（4）木材の強度	第11回 鉄鋼（4）その他金属材料																				
第5回 コンクリート（1）特色と製法・性質	第12回 防水材料																				
第6回 コンクリート（2）骨材に要求される性能、フレッシュコンクリートの性質	第13回 断熱材料/防火材料																				
第7回 コンクリート（3）硬化コンクリートの強度、調合設計	第14回 音響材料																				
	第15回 ガラス材料、外装材料/タイル工事																				

基礎専門科目

⑧ 建築生産

科目コード	2234	科目名	建築施工	テキスト授業	CT
<p>■ 授業概要 建築施工は、多くの施工技術とこれらを統合して一つの建築物にまとめる施工管理によって成り立っています。本講義では個々の施工技術として各種工事の具体的な施工法や仕様について学び、工事管理上の問題点を理論と実際の関係から学習します。</p> <p>■ 到達目標およびディプロマポリシーとの関連 受講者は、この授業を履修することによって、以下のことができるようになる。 1. 将来専門技術者となる場合に必要となる建築施工の概略について理解できる。 2. 建築が抱える今日の課題を建物づくりの立場から理解できる。 3. 工事の準備から、土工事、地業工事、躯体工事、仕上げ工事までの建築施工の概要が理解できる。 この科目の修得は建築学部建築学科（通信教育課程）の定めるディプロマ・ポリシー3、4の達成に関与しています。</p> <p>■ 成績評価方法および基準 レポートと科目終末試験の合格 100%</p> <p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法 レポートについては、記述内容に講評を行い返却します。</p> <p>■ 教科書 [ISBN] 9784395321001 『施工がわかるイラスト建築生産入門』（一般社団法人 日本建設業連合会，彰国社：2017）</p> <p>■ 参考文献 [ISBN] 9784395321223 『穴埋め式 施工がわかる建築生産入門ワークブック』（一般社団法人 日本建設業連合会，彰国社：2018）</p> <p>■ 関連科目 建築構法、RC 構造、鉄骨構造、建築材料、建築法規</p> <p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間 建築施工は、建築現場における「ものづくり」です。教科書の絵や字を見ただけではあまり実感が湧きません。一番なのは直接工事に携わることですが、建設現場に足を踏み入れるのは安全上難しいものがあります。そこで、Youtube や Web サイトなどネット上にはデジタルコンテンツが溢れており、これらの視聴をお勧めします。動画を見ることで、建物のつくられ方から構造の考え方、現場管理のポイントがよく分かります。教科書で学習した後に動画視聴することで理解が深まり、知識の定着が図れます。</p> <p>第 1 回 建築生産のしくみ 第 2 回 準備工事 調査/仮設工事 第 3 回 地面から下の工事 1 山留め工事/杭工事 第 4 回 地面から下の工事 2 土工事、地下躯体工事の流れ 第 5 回 躯体工事 1 型枠工事 第 6 回 躯体工事 2 鉄筋工事 第 7 回 躯体工事 3 コンクリート工事 1 第 8 回 躯体工事 4 コンクリート工事 2 第 9 回 躯体工事 5 鉄骨工事 1 第 10 回 躯体工事 5 鉄骨工事 2 第 11 回 外装仕上げ工事 防水/カーテンウォール/石/左官/タイル 第 12 回 内装仕上げ工事 建具/ガラス/塗装/その他 第 13 回 設備工事 電気/空調/給排水/その他 第 14 回 外構・その他工事、解体工事 第 15 回 維持管理、改修工事</p>					

基礎専門科目

⑨ 建築法規

科目コード	2224	科目名	建築法規	テキスト授業	CT
<p>■ 授業概要 建築物には多くの法律が適用される。建築士試験の試験科目でもある。 建築士は建築基準法及びその関連法令等を理解し計画を進める必要がある。 本課題では、建築の計画に必要な法規をその目的を含めて学び、基本的な建築法規の知識として用語や規定を理解する。</p> <p>■ 到達目標およびディプロマポリシーとの関連 学習教育目標のうち（E）（建築学の基礎的理解）に対応する。 到達目標は、1）建築関連法規の基礎と考え方を理解する、2）建築士試験への準備知識を身につける、3）建築の設計・施工に必要な法規のポイントを理解する。 この科目の修得は、本課程の定めるディプロマ・ポリシー3の達成に関与する。</p> <p>■ 成績評価方法および基準 レポートと科目終末試験の合格 100%</p> <p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法 レポートについては、講評を付して返却する。</p> <p>■ 教科書 [ISBN] 9784761532543 『改訂版 図説 やさしい建築法規』（今村 仁美, 学芸出版社：2024）</p> <p>■ 参考文献 [ISBN] 9784753021888 『基本建築関係法令集 法令編 令和6年版』（国土交通省住宅局建築指導課, 井上書院：2024） もしくは、建築士試験会場に持ち込み可能な法令集 (参考HP https://www.mlit.go.jp/about/content/001741356.pdf)</p> <p>■ 関連科目 建築学部建築学科（通信教育課程）の全科目</p> <p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間 面接授業は実施しない。 最新の建築基準法を参照しながら教科書等を読み、用語や規定を理解する。 高さや面積の制限などについては図も含めて理解し、実務に活かせるように努める。 建築基準法について理解を深めた上で、レポートや試験に臨むこととする。 15回の単元ごとに小テストを行い学習の進捗を確認する。 1回：用語の定義（1） 2回：用語の定義（2） 3回：一般構造・建築設備規定（1） 4回：一般構造・建築設備規定（2） 5回：集団規定（1） 6回：集団規定（2） 7回：集団規定（3） 8回：集団規定（4） 9回：防火・避難規定（1） 10回：防火・避難規定（2） 11回：防火・避難規定（3） 12回：構造強度規定（1） 13回：構造強度規定（2） 14回：建築士法 15回：その他の規定・関係法令 その後単位取得試験を通して法規の現状とその問題点を把握し、実務につながるスキルを獲得する。 時間外では、目にする建物の高さや形状などに興味を持ち、法令集や教科書で確認してみる。 建築士試験の問題なども解いてみる。</p>					

複合専門科目

科目コード	2301	科目名	建築造形	テキスト授業	R D
<p>■ 授業概要 建築デザイン基礎、及び、建築デザイン基礎演習で修得した2次元の知識を3次元の表現にする際の仕組みや空間との関連について学習する。 具体的には、透視図と模型の制作方法について学び、建築デザイン基礎での製図方法の復習も合わせて行う。透視図と模型を合わせて制作することで、建築における立体表現の習得を目指す。</p> <p>■ 到達目標およびディプロマポリシーとの関連 建築学部建築学科（通信教育課程）の学習教育目標（F）（建築図面のリテラシー）建築の共通言語である図面の読み書きに必要な技術と能力を養う、に対応する。 到達目標は、建築物に対する3次元的理解、3次元の作図方法の修得、建築に関する製図法の修得、の3点である。 この科目の修得は、本課程の定めるディプロマ・ポリシー2の達成に関与している。</p> <p>■ 成績評価方法および基準 提出作品 100%</p> <p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法 課題提出物にコメントと加えて返却する。</p> <p>■ 教科書 [ISBN] 9784909439673 『建築リテラシー 模型』（バンバタカユキ、京都芸術大学 東北芸術工科大学 出版局 芸術学舎：2022）</p> <p>■ 参考文献 [ISBN] 9784761526092 『建築・設計・製図－住吉の長屋・屋久島の家・東大阪の家に学ぶ』（松本 明、学芸出版社：2015）</p> <p>■ 関連科目 建築デザイン基礎、建築デザイン基礎演習</p> <p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間 建築デザイン基礎、建築デザイン基礎演習、建築造形演習で学んだ内容を踏まえて教科書を読み、立体図を描き、模型を制作する。 立体図は、透視図（内観パース・外観パース）・アクソメ図・アイソメ図を描き、添景や陰影・着彩により空間表現を行う。 模型は、透視図と同じアングルで模型写真を撮影し、空間の確認を行う。</p>					

科目コード	2302	科目名	建築造形演習	スクーリング	SF SO
<p>■ 授業概要 建築デザイン基礎、及び、建築デザイン基礎演習で修得した2次元の知識を3次元の表現にする際の仕組みや空間との関連について学習する。 具体的には、透視図と模型の制作方法について学び、建築デザイン基礎での製図方法の復習も合わせて行う。</p> <p>■ 到達目標およびディプロマポリシーとの関連 建築学部建築学科（通信教育課程）の学習教育目標（F）（建築図面のリテラシー）建築の共通言語である図面の読み書きに必要な技術と能力を養う、に対応する。 到達目標は、建築物に対する3次元的理解、3次元の作図方法の修得、建築に関する製図法の修得、の3点である。 この科目の修得は、本課程の定めるディプロマポリシー2の達成に関与している。</p> <p>■ 成績評価方法および基準 提出作品 100%</p> <p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法 課題提出物にコメントを加えて返却する。</p> <p>■ 教科書 [ISBN] 9784909439673 『建築リテラシー 模型』（バンバタカユキ、京都芸術大学 東北芸術工科大学 出版局 芸術学舎：2022）</p> <p>■ 参考文献 [ISBN] 9784761526092 『建築・設計・製図－住吉の長屋・屋久島の家・東大阪の家に学ぶ』（松本 明、学芸出版社：2015）</p> <p>■ 関連科目 建築デザイン基礎、建築デザイン基礎演習</p> <p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間 <ガイダンス> 1) アクソノメトリック図、アイソノメトリック図 2) 1点透視図、2点透視図 3) 添景、影、着彩表現 4) 模型道具 5) 模型用図面 <作図> 6) アクソノメトリック図、アイソノメトリック図 7) 1点透視図、2点透視図 8) 模型図面 <模型制作> 9) 模型道具 10) 平面（床、屋根） 11) 立面（壁、開口部） 12) 敷地（道路、コンタ等） 13) 添景（人、家具、植栽等） 14) 模型写真（照明、背景、カメラ等） 15) 模型箱</p>					

科目コード	2303	科目名	福祉住居論	オンデマンド 授業	ME
<p>■ 授業概要 福祉住居論では、高齢や障がいをもっても自分らしく快適な生活を送ることができる住まいのあり方について学ぶ。そのためには、高齢者や障がい者の身体、精神についての理解や、関連する制度についての知識が必要である。本講義ではこれらの知識について学び、その上で必要な住環境整備や福祉用具のあり方について学習する。</p>					
<p>■ 到達目標およびディプロマポリシーとの関連 建築学部建築学科（通信教育課程）の教育・学習目標（G-4）（社会と建築） 社会学や心理学など住宅に関わる幅広い知見に基づき、これからの住宅を構成できる能力を養う。 到達目標 （1）福祉と住まいの関係性についての理解を深める （2）ひと・モノ・空間の関係性についての理解を深める （3）福祉住環境について理解を深める この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシー3の達成に関与している。</p>					
<p>■ 成績評価方法および基準 メディア単位修了試験 100%</p>					
<p>■ 教科書 [ISBN] 9784924547643 『福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト改訂6版』（東京商工会議所：2022）</p>					
<p>■ 参考文献 [ISBN] 9784260332910 『自宅でない在宅－高齢者の生活空間論』（外山 義，医学書院：2003） [ISBN] 9784761532925 『ケア空間の設計手法：地域にひらく 子ども・高齢者・障がい者福祉施設』（日本建築学会 編，学芸出版社：2023） [ISBN] 9784863587137 『[新] 建築設計資料02 高齢者居住施設』（建築思潮研究所 編，建築資料研究社：2020）</p>					
<p>■ 関連科目 建築計画総論、建築計画各論</p>					
<p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間 第1回 高齢者や障がい者を取り巻く社会環境について 第2回 介護保険制度について 第3回 高齢者の居住に関する施策について 第4回 障害者の生活と住環境 第5回 障害の捉え方 第6回 認知症について 第7回 相談援助の考え方 第8回 福祉住環境整備の技術－段差の解消－ 第9回 福祉住環境整備の技術－屋内移動－ 第10回 福祉住環境整備の技術－移動関連の福祉用具－ 第11回 福祉住環境整備の技術－手すりと階段－ 第12回 行為別にみた住環境整備－入浴－ 第13回 行為別にみた住環境整備－排泄－ 第14回 行為別にみた住環境整備－調理、就寝－ 第15回 福祉用具について 各回予習内容：教科書の中から講義に該当する部分を熟読しておくこと（30分） 各回復習内容：動画を視聴し自分でノートにまとめなおすこと（30分）</p>					

科目コード	2304	科目名	CAD 演習 I - 1	オンデマンド 授業	MD
<p>■ 授業概要</p> <p>建築形態の図面化に建築CADが広く用いられている。特に2次元CADは小規模な事務所でさえ建築図面を描くのに一般的に用いている。建築分野で使われているCADソフトには代表的なものがいくつかあげられるが、基本は同じである。</p> <p>本演習ではAUTOCADを利用して2次元CADに特有な図法を理解するとともに、実際に操作して修得する。建築CAD検定試験の問題も取り入れ、社会に出ても通用する技能として習熟する。</p>					
<p>■ 到達目標およびディプロマポリシーとの関連</p> <p>建築学部建築学科（通信教育課程）の学習・教育目標（E）数学・物理・情報処理の能力に主に対応する。</p> <p>到達目標 ①記述能力、描画能力を通して、アイデアを具体化する能力を養う。②コンピュータを使ったビジュアルデザインによって設計意図を明確化し、設計・計画の質を向上させる能力を養う。③基本的な2次元CADの技法を習熟し、3級CAD検定試験に合格できる実力を付ける。</p> <p>この科目の修得は、建築学部建築学科（通信教育課程）の定めるディプロマ・ポリシー3の達成に關与しています。</p>					
<p>■ 成績評価方法および基準</p> <p>メディア単位終了試験 100%</p>					
<p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法</p> <p>模範解答を配布します</p>					
<p>■ 教科書</p> <p>適宜プリントを配布します</p>					
<p>■ 参考文献</p> <p>必要に応じてプリントを配布します</p>					
<p>■ 関連科目</p> <p>建築造形、建築造形演習、CAD演習I-2、デザイン演習I-1、デザイン演習I-2</p>					
<p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間</p> <p>第1回 2次元CAD（AUTOCAD）の概説 AUTOCADの立ち上げ方、ファイルの開閉、図面設定、座標の入力方法、基本ツールバーの使い方を練習する。 予習内容：テキストの該当ページを予習しておく（30分） 復習内容：学んだ設定やコマンドをやり直してみ、忘れていないかを確認する。（15分）</p> <p>第2回 図形作成の基本コマンド1と座標系の説明 基本作成コマンド（線分、四角形）の練習とスナップや座標系（ワールド座標とユーザー座標）を理解する。 予習内容：関係科目、前回学んだ内容を思い出し、小テスト課題に備える。（15分） 復習内容：学んだ設定やコマンドをやり直してみ、忘れていないかを確認する。（15分）</p> <p>第3回 図形作成の基本コマンド2とズームの説明 基本作成コマンド（円、円弧）の練習と中心、接点・中心、四半円点スナップやズーム機能を理解する。 予習内容：関係科目、前回学んだ内容を思い出し、小テスト課題に備える。（15分） 復習内容：学んだ設定やコマンドをやり直してみ、忘れていないかを確認する。（15分）</p> <p>第4回 図形編集の基本コマンド1 削除、移動、複写、変形を理解し、練習する。 予習内容：関係科目、前回学んだ内容を思い出し、小テスト課題に備える。（15分） 復習内容：学んだ設定やコマンドをやり直してみ、忘れていないかを確認する。（15分）</p> <p>第5回 図形編集の基本コマンド2 変形、トリム、延長、面取り、フィレットを理解し、練習する。 予習内容：関係科目、前回学んだ内容を思い出し、小テストに備える。（15分） 復習内容：学んだ設定やコマンドをやり直してみ、忘れていないかを確認する。（15分）</p> <p>第6回 図形編集の基本コマンド3 配列複写、鏡像、構築線、部分削除、ポリゴン、回転を理解し、練習する。</p>					

- 予習内容：関係科目、前回学んだ内容を思い出し、小テストに備える。(15分)
復習内容：学んだ設定やコマンドをやり直して見て、忘れていないかを確認する。(15分)
- 第7回 図形編集の基本コマンド4
配列複写、鏡像、構築線、部分削除、ポリゴン、回転 を理解し、練習する。
予習内容：関係科目、前回学んだ内容を思い出し、小テストに備える。(15分)
復習内容：学んだ設定やコマンドをやり直して見て、忘れていないかを確認する。(15分)
- 第8回 図形編集の基本コマンド5
配列複写、鏡像、構築線、部分削除、ポリゴン、回転 を理解し、練習する。
予習内容：関係科目、前回学んだ内容を思い出し、小テストに備える。(15分)
復習内容：学んだ設定やコマンドをやり直して見て、忘れていないかを確認する。(15分)
- 第9回 図形作成の基本コマンド3
基本コマンド3 (円弧、マルチライン、ハッチング、尺度変更、ストレッチ) を理解し、練習する。
予習内容：関係科目、前回学んだ内容を思い出し、小テストに備える。(15分)
復習内容：学んだ設定やコマンドをやり直して見て、忘れていないかを確認する。(15分)
- 第10回 文字作成と編集1
ダイナミック文字、マルチテキスト、文字編集、を理解し練習する。
予習内容：関係科目、前回学んだ内容を思い出し、小テストに備える。(15分)
復習内容：学んだ設定やコマンドをやり直して見て、忘れていないかを確認する。(15分)
- 第11回 情報ツールコマンドの確認
距離計算、図形情報、位置表示、面積情報を理解し、練習する。
予習内容：関係科目、前回学んだ内容を思い出し、小テストに備える。(15分)
復習内容：学んだ設定やコマンドをやり直して見て、忘れていないかを確認する。(15分)
- 第12回 画層管理
画層の考え方を理解する。建築CADで使われる画層 (基準線、柱と壁、開口部、一般図形、補助線、寸法線など) の管理を理解し、簡単な建築平面図をCADを用いて作図する。
予習内容：関係科目、前回学んだ内容を思い出し、小テストに備える。(15分)
復習内容：学んだ設定やコマンドをやり直して見て、忘れていないかを確認する。(15分)
- 第13回 寸法記入1
寸法設定、寸法スタイル管理や寸法の記入方法を理解し練習し、先週に引き続いて建築平面図を完成させ、プリンターでの図面出力の方法を学ぶ。
予習内容：関係科目、前回学んだ内容を思い出し、小テストに備える。(15分)
復習内容：学んだ設定やコマンドをやり直して見て、忘れていないかを確認する。(15分)
- 第14回 寸法記入2
寸法設定、寸法スタイルの編集や変更方法を理解し練習し、先週に引き続いて建築平面図を完成させ、プリンターでの図面出力の方法を学ぶ。
予習内容：関係科目、前回学んだ内容を思い出し、小テストに備える。(15分)
復習内容：学んだ設定やコマンドをやり直して見て、忘れていないかを確認する。(15分)
- 第15回 確認テスト
授業内にて確認テストを行う。CADデータ及びPDF図面を提出する。
予習内容：これまでの操作を復習しておく (30分)
復習内容：作図したデータから印刷方法について確認しておく (15分)
復習内容：作図したデータから操作方法について確認しておく (15分)

科目コード	2305	科目名	CAD 演習 I - 2	オンデマンド 授業	MD
<p>■ 授業概要</p> <p>建築形態の図面化に建築CADが広く用いられている。特に2次元CADは小規模な事務所でさえ建築図面を描くのに一般的に用いている。建築分野で使われているCADソフトには代表的なものはいくつかあげられるが、基本は同じである。</p> <p>本演習ではCAD演習I-1に引き続きAUTOCADを利用して2次元CADに特有な図法を理解するとともに、実際に操作して修得する。建築CAD検定試験の問題や実際の建物の図面も取り入れ、社会に出ても通用する技能として習熟する。</p>					
<p>■ 到達目標およびディプロマポリシーとの関連</p> <p>建築学部建築学科（通信教育課程）の学習・教育目標（E）数学・物理・情報処理の能力に主に対応する。</p> <p>到達目標 ①記述能力、描画能力を通して、アイデアを具体化する能力を養う。②コンピュータを使ったビジュアルデザインによって設計意図を明確化し、設計・計画の質を向上させる能力を養う。③基本的な2次元CADの技法を習熟し、3級CAD検定試験に合格できる実力を付ける。</p> <p>この科目の修得は、建築学部建築学科（通信教育課程）の定めるディプロマ・ポリシー3の達成に関与しています。</p>					
<p>■ 成績評価方法および基準</p> <p>メディア単位終了試験 100%</p>					
<p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法</p> <p>模範解答を配布します</p>					
<p>■ 教科書</p> <p>適宜プリントを配布します</p>					
<p>■ 参考文献</p> <p>必要に応じてプリントを配布します</p>					
<p>■ 関連科目</p> <p>建築造形、建築造形演習、CAD演習I-1、デザイン演習I-1、デザイン演習I-2</p>					
<p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間</p> <p>第1回 ブロックと属性定義1 ブロック作成、定義、ブロック挿入を理解し、練習する。 予習内容：CAD演習I-1で学んだ内容を思い出し、一通り復習しておく。(40分) 復習内容：学んだ設定やコマンドをやり直してみ、忘れていないかを確認する。(15分)</p> <p>第2回 ブロックと属性定義2 属性定義、属性編集を理解し、練習する。 予習内容：関係科目、前回学んだ内容を思い出し、小テストに備える。(15分) 復習内容：学んだ設定やコマンドをやり直してみ、忘れていないかを確認する。(15分)</p> <p>第3回 シンボルの作成とその応用1 テーブル、チェア、ソファ、トイレ、浴槽、流しなどの建築部品を作成してブロックとして利用する方法を練習する。 予習内容：関係科目、前回学んだ内容を思い出し、小テストに備える。(15分) 復習内容：学んだ設定やコマンドをやり直してみ、忘れていないかを確認する。(15分)</p> <p>第4回 シンボルの作成とその応用2 CADデータのブロックとして取り込み、取り出し方法を学ぶ 予習内容：関係科目、前回学んだ内容を思い出し、小テストに備える。(15分) 復習内容：学んだ設定やコマンドをやり直してみ、忘れていないかを確認する。(15分)</p> <p>第5回 練習問題①-1 習得したコマンドを使って建築図面（RC造・集会所）を作図する。 予習内容：課題の完成が間に合わない場合はあらかじめ進めておく。(15分) 復習内容：課題の完成が間に合わない場合はあらかじめ進めておく。(30分)</p> <p>第6回 練習問題①-2 先週に引き続き習得したコマンドを使って建築図面（RC造・集合住宅）を作図する。</p>					

- 予習内容：課題の完成が間に合わない場合はあらかじめ進めておく。(15分)
復習内容：課題の完成が間に合わない場合はあらかじめ進めておく。(15分)
- 第7回 練習問題①-3
先週に引き続きコマンドを使って建築図面（RC造・集合住宅）を作図する。
予習内容：課題の完成が間に合わない場合はあらかじめ進めておく。(30分)
復習内容：課題の完成が間に合わない場合はあらかじめ進めておく。(30分)
- 第8回 練習問題②-1
習得したコマンドを使って建築図面（RC造・オフィスビル）を作図する。
予習内容：課題の完成が間に合わない場合はあらかじめ進めておく。(30分)
復習内容：課題の完成が間に合わない場合はあらかじめ進めておく。(30分)
- 第9回 練習問題②-2
先週に引き続き習得したコマンドを使って建築図面（RC造・オフィスビル）を作図する。
予習内容：課題の完成が間に合わない場合はあらかじめ進めておく。(30分)
復習内容：課題の完成が間に合わない場合はあらかじめ進めておく。(30分)
- 第10回 練習問題②-3
先週に引き続き習得したコマンドを使って建築図面（RC造・オフィスビル）を作図する。
予習内容：課題の完成が間に合わない場合はあらかじめ進めておく。(30分)
復習内容：課題の完成が間に合わない場合はあらかじめ進めておく。(30分)
- 第11回 練習問題③-1
習得したコマンドを使って建築図面（木造・住宅平面図）を作図する。
予習内容：課題の完成が間に合わない場合はあらかじめ進めておく。(30分)
復習内容：課題の完成が間に合わない場合はあらかじめ進めておく。(30分)
- 第12回 練習問題③-2
先週に引き続き習得したコマンドを使って建築図面（木造・住宅平面図）を作図する。
予習内容：課題の完成が間に合わない場合はあらかじめ進めておく。(30分)
復習内容：課題の完成が間に合わない場合はあらかじめ進めておく。(30分)
- 第13回 練習問題④-1
習得したコマンドを使って建築図面（木造・住宅断面図）を作図する。
予習内容：課題の完成が間に合わない場合はあらかじめ進めておく。(30分)
復習内容：課題の完成が間に合わない場合はあらかじめ進めておく。(30分)
- 第14回 練習問題④-2
先週に引き続き習得したコマンドを使って建築図面（木造・住宅断面図）を作図する。
予習内容：課題の完成が間に合わない場合はあらかじめ進めておく。(30分)
復習内容：課題の完成が間に合わない場合はあらかじめ進めておく。(30分)
- 第15回 確認テスト
授業内にて確認テストを行う。CADデータ及びpdf図面を提出する。
予習内容：これまでの捜査を復習しておく(30分)
復習内容：作図したデータから操作方法について確認しておく(15分)

科目コード	2306	科目名	建築デザイン論 1	オンデマンド 授業	ME																																								
<p>■ 授業概要</p> <p>建築デザインとは、意匠デザインだけに留まらない幅広い概念である。意匠デザインに加えて構造デザイン、環境デザイン、または、まちづくりのデザインや人々の関係性をつくるデザインもある。建築デザイン論1では、最新の事例を踏まえながら建築デザインに関わる概念や理論について学ぶ。この講義は設計、計画、構造、環境など様々な分野の視点から講義を行う。最新のデザイン、研究事例を踏まえながら、これからの建築デザインのあり方について学ぶ。</p>																																													
<p>■ 到達目標およびディプロマポリシーとの関連</p> <p>建築学部建築学科（通信教育課程）の教育・学習目標</p> <p>(C) (専門家倫理) 建築が自然および人間社会に対して担うべき役割を学ぶことを通して専門家倫理を身に付ける。</p> <p>(D) (自発的・主体的な学習) 自発的・主体的に学び、自ら考える習慣・力を身につける。</p> <p>(E) (建築学の基礎的理解) 建築の基礎となる設計・計画・構造・環境・生産・法規の基礎知識を身につける。</p> <p>到達目標</p> <p>(1) 建築デザインを理解するための概念と理念について理解する (2) 多面的な視点から建築デザインを考える力を養う (3) 建築デザインに関する言語を学び批評的視点を獲得する</p> <p>この科目の修得は、本課程の定めるディプロマポリシー3の達成に関与している。</p>																																													
<p>■ 成績評価方法および基準</p> <p>レポート課題 100%</p>																																													
<p>■ 教科書</p> <p>指定なし</p>																																													
<p>■ 参考文献</p> <p>(選定中)</p>																																													
<p>■ 関連科目</p> <p>建築デザイン論2</p>																																													
<p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>建築デザインに関する講義</td> <td>建築計画分野</td> <td>研究者の視点から これからの建築計画のあり方とは</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>建築デザインに関する講義</td> <td>建築計画分野</td> <td>実践者の視点から1 実践事例からみるこれからの建築デザイン</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>建築デザインに関する講義</td> <td>建築計画分野</td> <td>実践者の視点から2 実践事例からみるこれからの建築デザイン</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>建築デザインに関する講義</td> <td>建築計画分野</td> <td>実践者の視点から3 実践事例からみるこれからの建築デザイン</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>建築デザインに関する講義</td> <td>建築設計分野</td> <td>プロフェッサー-アキテの視点から1 これからの建築設計のあり方</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>建築デザインに関する講義</td> <td>建築設計分野</td> <td>実践者の視点から1 実践事例からみるこれからの建築デザイン</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>建築デザインに関する講義</td> <td>建築設計分野</td> <td>実践者の視点から2 実践事例からみるこれからの建築デザイン</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>建築デザインに関する講義</td> <td>建築設計分野</td> <td>実践者の視点から3 実践事例からみるこれからの建築デザイン</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>建築デザインに関する講義</td> <td>環境工学分野</td> <td>研究者の視点から 環境デザインのあり方</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>建築デザインに関する講義</td> <td>建築環境分野</td> <td>実践者の視点から1 実践事例からみるこれからの建築デザイン</td> </tr> </table>						第1回	建築デザインに関する講義	建築計画分野	研究者の視点から これからの建築計画のあり方とは	第2回	建築デザインに関する講義	建築計画分野	実践者の視点から1 実践事例からみるこれからの建築デザイン	第3回	建築デザインに関する講義	建築計画分野	実践者の視点から2 実践事例からみるこれからの建築デザイン	第4回	建築デザインに関する講義	建築計画分野	実践者の視点から3 実践事例からみるこれからの建築デザイン	第5回	建築デザインに関する講義	建築設計分野	プロフェッサー-アキテの視点から1 これからの建築設計のあり方	第6回	建築デザインに関する講義	建築設計分野	実践者の視点から1 実践事例からみるこれからの建築デザイン	第7回	建築デザインに関する講義	建築設計分野	実践者の視点から2 実践事例からみるこれからの建築デザイン	第8回	建築デザインに関する講義	建築設計分野	実践者の視点から3 実践事例からみるこれからの建築デザイン	第9回	建築デザインに関する講義	環境工学分野	研究者の視点から 環境デザインのあり方	第10回	建築デザインに関する講義	建築環境分野	実践者の視点から1 実践事例からみるこれからの建築デザイン
第1回	建築デザインに関する講義	建築計画分野	研究者の視点から これからの建築計画のあり方とは																																										
第2回	建築デザインに関する講義	建築計画分野	実践者の視点から1 実践事例からみるこれからの建築デザイン																																										
第3回	建築デザインに関する講義	建築計画分野	実践者の視点から2 実践事例からみるこれからの建築デザイン																																										
第4回	建築デザインに関する講義	建築計画分野	実践者の視点から3 実践事例からみるこれからの建築デザイン																																										
第5回	建築デザインに関する講義	建築設計分野	プロフェッサー-アキテの視点から1 これからの建築設計のあり方																																										
第6回	建築デザインに関する講義	建築設計分野	実践者の視点から1 実践事例からみるこれからの建築デザイン																																										
第7回	建築デザインに関する講義	建築設計分野	実践者の視点から2 実践事例からみるこれからの建築デザイン																																										
第8回	建築デザインに関する講義	建築設計分野	実践者の視点から3 実践事例からみるこれからの建築デザイン																																										
第9回	建築デザインに関する講義	環境工学分野	研究者の視点から 環境デザインのあり方																																										
第10回	建築デザインに関する講義	建築環境分野	実践者の視点から1 実践事例からみるこれからの建築デザイン																																										

- 第11回 建築デザインに関する講義 建築環境分野 実践者の視点から2
実践事例からみるこれからの建築デザイン
- 第12回 建築デザインに関する講義 建築環境分野 実践者の視点から3
実践事例からみるこれからの建築デザイン
- 第13回 建築デザインに関する講義 建築構造学分野 研究者の視点から
環境デザインのあり方
- 第14回 建築デザインに関する講義 建築構造学 実践者の視点から1
実践事例からみるこれからの建築デザイン
- 第15回 建築デザインに関する講義 建築構造学 実践者の視点から2
実践事例からみるこれからの建築デザイン

※各回予習内容：researchmapやHPを参照し講演者の概要について調べる（30分）

※各回復習内容：講義の内容をノートにまとめレポートの草稿を作成する（30分）

科目コード	2307	科目名	インテリアデザイン	テキスト授業	CR
<p>■ 授業概要</p> <p>これまで日本では、建築とインテリアは分野として分けられる傾向がありましたが、本来一体となって構想、創造されるべきものです。講義では、建築とインテリア双方の視点からインテリアデザインを学習することで、基本的な知識と構想力を身につけます。また、実践的な事例をもとにインテリアデザインと社会との関わり方について考察します。</p> <p>■ 到達目標およびディプロマポリシーとの関連</p> <p>建築学部（通信教育課程）の学習教育目標である建築工学の基礎的理解、建築図面のリテラシーに対応します。インテリアデザインに必要な基本知識の学習と実務の基本的なプロセスを習得することができます。インテリアコーディネーターの資格取得にも役立ちます。</p> <p>この科目の修得は、本課程の定めるディプロマポリシー3の達成に関与しています。</p> <p>■ 成績評価方法および基準</p> <p>レポート 100%</p> <p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法</p> <p>レポートについては、記述内容に講評を行い返却します。</p> <p>■ 教科書</p> <p>[ISBN] 9784761526757 『実践につながる インテリアデザインの基本』（橋口 新一郎，学芸出版社：2018）</p> <p>■ 関連科目</p> <p>設計演習Ⅰ、Ⅱ</p> <p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間</p> <p>予習内容：テキストの他、建築関連の書籍、雑誌を読みインテリアに対する理解を深める（30分） 復習内容：講義の内容を見直し、自分でノートにまとめる（30分）</p>					

科目コード	2308	科目名	デザイン演習Ⅰ-1	オンデマンド 授業	MD
<p>■ 授業概要 Rhinocerosの基本ツールを学びながら、高度な3Dモデリングとレンダリングのテクニックを習得することを目的とする。CAD演習との連携を図りながら、作品制作を通して実際に操作を行い、高度な空間表現に習熟することを目指す。</p> <p>■ 到達目標およびディプロマポリシーとの関連 建築学部建築学科（通信教育課程）の学習・教育目標（E）数学・物理・情報処理の能力に主に対応する。 到達目標 ①記述能力、描画能力を通して、アイデアを具体化する能力を養う。②コンピュータを使ったビジュアルデザインによって設計意図を明確化し、設計・計画の質を向上させる能力を養う。③基本的な2次元CADの技法を習熟し、3級CAD検定試験に合格できる実力を付ける。 この科目の修得は、建築学部建築学科（通信教育課程）の定めるディプロマポリシー3の達成に関与しています。</p> <p>■ 成績評価方法および基準 メディア単位終了試験 100%</p> <p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法 模範解答を配布します</p> <p>■ 教科書 適宜プリントを配布します</p> <p>■ 参考文献 必要に応じてプリントを配布します</p> <p>■ 関連科目 建築造形、建築造形演習、CAD演習Ⅰ-1、CAD演習Ⅰ-2、デザイン演習Ⅰ-2</p> <p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間</p> <p>第1回 Rhinocerosの概説 Rhinocerosの立ち上げ方、ファイルの開閉、インターフェースの使い方を練習する。 予習内容：テキストの該当ページを予習しておく（30分） 復習内容：学んだ設定やコマンドをやり直してみ、忘れていないかを確認する。（15分）</p> <p>第2回 コマンドの選択方法とツールバーの説明 コマンドの選択方法とツールバー各種の設定、ガムボールの使い方を理解する。 予習内容：関係科目、前回学んだ内容を思い出し、小テスト課題に備える。（15分） 復習内容：学んだ設定やコマンドをやり直してみ、忘れていないかを確認する。（15分）</p> <p>第3回 図形作成の基本コマンド1と座標系の説明 基本作成コマンド（線分、四角形）の練習とスナップや座標系（絶対座標と相対座標）を理解する。 予習内容：関係科目、前回学んだ内容を思い出し、小テスト課題に備える。（15分） 復習内容：学んだ設定やコマンドをやり直してみ、忘れていないかを確認する。（15分）</p> <p>第4回 図形作成の基本コマンド2 基本作成コマンド（線分、押し出し）と線分の編集と分解コマンドを理解する。 予習内容：関係科目、前回学んだ内容を思い出し、小テスト課題に備える。（15分） 復習内容：学んだ設定やコマンドをやり直してみ、忘れていないかを確認する。（15分）</p> <p>第5回 図形の編集コマンド1 基本図形の編集コマンド（トリム、結合）を理解する。 予習内容：関係科目、前回学んだ内容を思い出し、小テスト課題に備える。（15分） 復習内容：学んだ設定やコマンドをやり直してみ、忘れていないかを確認する。（15分）</p> <p>第6回 図形作成の基本コマンド2と図形の編集コマンド2 基本作成コマンド（サーフェス、ソリッド）と基本編集コマンド（面の分解と結合）を理解する。 予習内容：関係科目、前回学んだ内容を思い出し、小テスト課題に備える。（15分） 復習内容：学んだ設定やコマンドをやり直してみ、忘れていないかを確認する。（15分）</p> <p>第7回 図形の編集コマンド3 基本編集コマンド（面のトリムと分割）を理解する。 予習内容：関係科目、前回学んだ内容を思い出し、小テスト課題に備える。（15分）</p>					

- 第 8 回 復習内容：学んだ設定やコマンドをやり直してみ、忘れていないかを確認する。(15分)
図形の編集コマンド 4
基本編集コマンド（トリム応用とビューポート視点）を理解する。
予習内容：関係科目、前回学んだ内容を思い出し、小テスト課題に備える。(15分)
復習内容：学んだ設定やコマンドをやり直してみ、忘れていないかを確認する。(15分)
- 第 9 回 屋根の作成
第 1 回から第 8 回までに学習したコマンドを使用して屋根を自由設計する
- 第 10 回 情報系コマンドと図形作成の編集コマンド 5
情報コマンド（寸法、距離、長さ）と図形の編集コマンド（整列、配列）を理解する。
予習内容：関係科目、前回学んだ内容を思い出し、小テスト課題に備える。(15分)
復習内容：学んだ設定やコマンドをやり直してみ、忘れていないかを確認する。(15分)
- 第 11 回 図形の編集コマンド 6
面やソリッドの編集コマンドとオフセットコマンドを理解する。
予習内容：関係科目、前回学んだ内容を思い出し、小テスト課題に備える。(15分)
復習内容：学んだ設定やコマンドをやり直してみ、忘れていないかを確認する。(15分)
- 第 12 回 応用コマンド 1
応用コマンド（ロフト、パイプ）を理解する。
予習内容：関係科目、前回学んだ内容を思い出し、小テスト課題に備える。(15分)
復習内容：学んだ設定やコマンドをやり直してみ、忘れていないかを確認する。(15分)
- 第 13 回 応用コマンド 2
応用コマンド（1 レールスイープ、2 レールスイープ）を理解する。
予習内容：関係科目、前回学んだ内容を思い出し、小テスト課題に備える。(15分)
復習内容：学んだ設定やコマンドをやり直してみ、忘れていないかを確認する。(15分)
- 第 14 回 応用コマンド 3
応用コマンド（回転体ブール演算、ケージ編集）を理解する。
予習内容：関係科目、前回学んだ内容を思い出し、小テスト課題に備える。(15分)
復習内容：学んだ設定やコマンドをやり直してみ、忘れていないかを確認する。(15分)
- 第 15 回 確認テスト
授業内にて確認テストを行う。Rinoceros データ及び模型の画像データを提出する。
予習内容：これまでの操作を復習しておく（30分）
復習内容：作図したデータから印刷方法について確認しておく（15分）

科目コード	2309	科目名	デザイン演習Ⅰ-2	オンデマンド 授業	MD
<p>■ 授業概要 Rhinocerosの基本ツールを学びながら、高度な3Dモデリングとレンダリングのテクニックを習得することを目的とする。Rhinocerosの代表的なプラグインであるGrasshopperを学習した後に作品制作を通して高度な空間表現に習熟することを目指す。</p> <p>■ 到達目標およびディプロマポリシーとの関連 建築学部建築学科（通信教育課程）の学習・教育目標（E）数学・物理・情報処理の能力に主に対応する。 到達目標 ①記述能力、描画能力を通して、アイデアを具体化する能力を養う。②コンピュータを使ったビジュアルデザインによって設計意図を明確化し、設計・計画の質を向上させる能力を養う。③基本的な2次元CADの技法を習熟し、3級CAD検定試験に合格できる実力を付ける。 この科目の修得は、建築学部建築学科（通信教育課程）の定めるディプロマ・ポリシー3の達成に関与しています。</p> <p>■ 成績評価方法および基準 メディア単位終了試験 100%</p> <p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法 模範解答を配布します</p> <p>■ 教科書 適宜プリントを配布します</p> <p>■ 参考文献 必要に応じてプリントを配布します</p> <p>■ 関連科目 建築造形、建築造形演習、CAD演習Ⅰ-1、CAD演習Ⅰ-2、デザイン演習Ⅰ-2</p> <p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間</p> <p>第1回 Grasshopperの概説 Grasshopperのインストール方法、立ち上げ方、ファイルの開閉、インターフェースの使い方を練習する。 予習内容：テキストの該当ページを予習しておく（30分） 復習内容：デザイン演習Ⅰ-1で学んだ設定やコマンドをやり直して、忘れていた点がないかを確認する。（15分）</p> <p>第2回 コマンドの選択方法とコンポーネントの理解 コマンドの選択方法と表示設定、コンポーネントの概念を理解する。 予習内容：関係科目、前回学んだ内容を思い出し、小テスト課題に備える。（15分） 復習内容：学んだ設定やコマンドをやり直して、忘れていた点がないかを確認する。（15分）</p> <p>第3回 Grasshopperを使用した3次元図形の作成1 基本作成コマンド（円）と編集コマンド（オフセット、移動、分割、ロフト）を理解する。 予習内容：関係科目、前回学んだ内容を思い出し、小テスト課題に備える。（15分） 復習内容：学んだ設定やコマンドをやり直して、忘れていた点がないかを確認する。（15分）</p> <p>第4回 Grasshopperを使用した3次元図形の作成2 前回で学習したコマンドを使用してパラメータを理解する。 予習内容：関係科目、前回学んだ内容を思い出し、小テスト課題に備える。（15分） 復習内容：学んだ設定やコマンドをやり直して、忘れていた点がないかを確認する。（15分）</p> <p>第5回 Grasshopperを使用した3次元図形の作成3 前回で学習したパラメータを使用して新しい3次元図形の作成を理解する。 予習内容：関係科目、前回学んだ内容を思い出し、小テスト課題に備える。（15分） 復習内容：学んだ設定やコマンドをやり直して、忘れていた点がないかを確認する。（15分）</p> <p>第6回 Grasshopperを使用した3次元図形の作成3 演算コマンドを使用して新しい3次元図形の作成を理解する。 予習内容：関係科目、前回学んだ内容を思い出し、小テスト課題に備える。（15分） 復習内容：学んだ設定やコマンドをやり直して、忘れていた点がないかを確認する。（15分）</p>					

- 第7回 GrasshopperとRhinocerosの連携1
GrasshopperデータとRhinocerosデータを互いに取り込む、または書き出す方法を理解する。
予習内容：関係科目、前回学んだ内容を思い出し、小テスト課題に備える。(15分)
復習内容：学んだ設定やコマンドをやり直してみ、忘れていないかを確認する。(15分)
- 第8回 GrasshopperとRhinocerosの連携2
GrasshopperデータとRhinocerosデータを組み合わせることにより効率のよいモデリング方法を理解する。
予習内容：関係科目、前回学んだ内容を思い出し、小テスト課題に備える。(15分)
復習内容：学んだ設定やコマンドをやり直してみ、忘れていないかを確認する。(15分)
- 第9回 GrasshopperとRhinocerosの連携3
らせん階段課題を通してGrasshopperデータとRhinocerosデータを組み合わせを理解する。
予習内容：関係科目、前回学んだ内容を思い出し、小テスト課題に備える。(15分)
復習内容：学んだ設定やコマンドをやり直してみ、忘れていないかを確認する。(15分)
- 第10回 らせん階段と空間の演出
先週作成したらせん階段を利用してRhinoceros内で空間演出を理解する。
予習内容：関係科目、前回学んだ内容を思い出し、小テスト課題に備える。(15分)
復習内容：学んだ設定やコマンドをやり直してみ、忘れていないかを確認する。(15分)
- 第11回 作品制作1
モダニズム建築の傑作の一つとして知られるミースの代表作をRhinocerosで作成する。
予習内容：関係科目、前回学んだ内容を思い出し、小テスト課題に備える。(15分)
復習内容：学んだ設定やコマンドをやり直してみ、忘れていないかを確認する。(15分)
- 第12回 作品制作2
先週に引き続きモダニズム建築の傑作の一つとして知られるミースの代表作をRhinocerosで作成する。
予習内容：関係科目、前回学んだ内容を思い出し、小テスト課題に備える。(15分)
復習内容：学んだ設定やコマンドをやり直してみ、忘れていないかを確認する。(15分)
- 第13回 作品制作3
先週に引き続きモダニズム建築の傑作の一つとして知られるミースの代表作をRhinocerosで作成する。
予習内容：関係科目、前回学んだ内容を思い出し、小テスト課題に備える。(15分)
復習内容：学んだ設定やコマンドをやり直してみ、忘れていないかを確認する。(15分)
- 第14回 作品制作4
先週に引き続きモダニズム建築の傑作の一つとして知られるミースの代表作をRhinocerosで作成する。
予習内容：関係科目、前回学んだ内容を思い出し、小テスト課題に備える。(15分)
復習内容：学んだ設定やコマンドをやり直してみ、忘れていないかを確認する。(15分)
- 第15回 作品プレゼンテーション・講評
作品制作課題のプレゼンテーションと発表
予習内容：プレゼンテーションのための準備とデータの整理を行う。(30分)
復習内容：作成したファイルを複数の形式で保存し、提出する。(15分)

科目コード	2310	科目名	建築デザイン論 2	オンデマンド 授業	ME
<p>■ 授業概要 建築デザインを取り巻く環境はこれから大きく変化していくことが予想される。気候変動といった地球規模の問題や、人口減少といった国内外の問題により建築のあり方は変わってくるだろう。また、BIMや3Dプリンターなど新しい技術の進歩も建築のデザインを変えていく、建築デザイン論2では、建築に関連する分野のゲストスピーカーを招き、最新事例を基にこれからの建築のあり方について学ぶ。</p>					
<p>■ 到達目標およびディプロマポリシーとの関連 建築学部建築学科（通信教育課程）の教育・学習目標 (C)（専門家倫理） 建築が自然および人間社会に対して担うべき役割を学ぶことを通して専門家倫理を身に付ける。 (D)（自発的・主体的な学習） 自発的・主体的に学び、自ら考える習慣・力を身につける (E)（建築学の基礎的理解） 建築の基礎となる設計・計画・構造・環境・生産・法規の基礎知識を身につける。 到達目標 (1) 建築デザインを理解するための概念と理念について理解する (2) 多面的な視点から建築デザインを考える力を養う (3) 建築デザインに関する言語を学び批評的視点を獲得する この科目の修得は、本課程の定めるディプロマポリシー3の達成に参与している。</p>					
<p>■ 成績評価方法および基準 レポート課題 100%</p>					
<p>■ 教科書 指定なし</p>					
<p>■ 参考文献 (選定中)</p>					
<p>■ 関連科目 建築デザイン論1</p>					
<p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間 毎回は環境デザインに関係する研究者を招いて、講演およびディスカッション、質疑を行う。</p> <p>第1回 建築デザインに関する講義 建築計画分野 研究者の視点から これからの建築計画のあり方とは</p> <p>第2回 建築デザインに関する講義 建築設計分野 実践者の視点から1 実践事例からみるこれからの建築デザイン</p> <p>第3回 建築デザインに関する講義 建築設計分野 実践者の視点から2 実践事例からみるこれからの建築デザイン</p> <p>第4回 建築デザインに関する講義 建築設計分野 実践者の視点から3 実践事例からみるこれからの建築デザイン</p> <p>第5回 建築デザインに関する講義 建築設計分野 プロフェッサーアーキテクトの視点から1 これからの研究者による実践</p> <p>第6回 建築デザインに関する講義 建築設計分野 実践者の視点から1 実践事例からみるこれからの住宅デザイン</p> <p>第7回 建築デザインに関する講義 建築設計分野 実践者の視点から2 実践事例からみるコンピューテーショナルデザイン</p> <p>第8回 建築デザインに関する講義 建築設計分野 実践者の視点から3 実践事例からみるこれからの公共デザイン</p> <p>第9回 建築デザインに関する講義 建築設計分野 研究者の視点から 地域デザイン・コミュニティデザインのあり方</p> <p>第10回 建築デザインに関する講義 建築設計分野 実践者の視点から1 実践事例からみるこれからのランドスケープデザイン</p>					

第11回 建築デザインに関する講義 建築設計分野 実践者の視点から2
実践事例からみるこれからのアーバンデザイン

第12回 建築デザインに関する講義 建築設計分野 実践者の視点から3
実践事例からみるこれからの環境デザイン

第13回 建築デザインに関する講義 建築設計分野 研究者の視点から
最新の設備デザインのあり方

第14回 建築デザインに関する講義 建築設計分野 実践者の視点から1
実践事例からみるこれからの構造デザイン

第15回 建築デザインに関する講義 建築設計分野 実践者の視点から2
実践事例からみるこれからの構造デザイン

※各回予習内容：researchmapやHPを参照し講演者の概要について調べる（30分）

※各回復習内容：講義の内容をノートにまとめレポートの草稿を作成する（30分）

科目コード	2311	科目名	建築再生論	テキスト授業	CT
<p>■ 授業概要 教科書を読解し、建築再生の事例とその考え方を習得する。 縮小の時代を迎えて建築や都市空間において既存ストックの再生活用の必要性は日々高まり、経済的あるいは文化的、社会的な問題の具体的な解決策としてリノベーションやコンバージョンによる創造的な事例が次々と登場している。そうした再生活用には建築や都市計画だけでなく不動産的な視点からの考察とそれに基づいた企画とデザインが欠かせない。この講義では建築及び都市の再生における企画、設計デザイン及びそれに必要な企画的な考え方を具体的な事例を通して学ぶ。</p> <p>■ 到達目標およびディプロマポリシーとの関連 建築の再生の企画及び設計に必要な基礎的な知見をテキスト学習で身につける。 この科目の修得は、建築学部建築学科（通信教育課程）の定めるディプロマ・ポリシー3の達成に関与しています。</p> <p>■ 成績評価方法および基準 レポートと科目終末試験の合格 100%</p> <p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法 レポートについては簡単な講評を付して返却します</p> <p>■ 教科書 [ISBN] 9784761526733 『リノベーションの教科書：企画・デザイン・プロジェクト』（小池 志保子，宮部 浩幸，他，学芸出版社：2018）</p> <p>■ 関連科目 建築学部建築学科（通信教育課程）の全科目</p> <p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間 教科書の第一部、第二部の内容を習得することを目指す。 第一部では建築再生の考え方を学習する。 第二部ではビルディングタイプごとの建築再生について学習する。 教科書で学習した後に関連する事例を調べてみることを、訪れてみることをすると学習内容が深まる。</p>					

科目コード	2312	科目名	都市住宅政策論	テキスト授業	CT
<p>■ 授業概要</p> <p>我々が生活していくための社会基盤である都市および住宅は、様々な政策により誘導され、カタチつくりされている。よりよい都市や住宅を実現するためには、良い政策が必要となる。本講義では、政策という側面から都市・住宅についての理解を深める。特にこれからの大きな社会課題である人口減少に着目し、住宅政策という観点から学ぶ。日本では、第二次世界大戦後の住宅不足を受け、政策的に住宅を整備してきた。公営住宅、公社住宅、公団住宅が数多く供給され、大規模な団地がつくりだされていった。nLDK型というライフスタイルや、団地という集住のあり方も戦後の住宅政策によりつくりだされてきた。また、住宅供給の普及と共に住宅政策も変容しており、現代では量から質への転換や、空き家等のストック活用が重要な課題となっている。本講義では、日本における住宅政策を歴史という観点から紐解き、今後の住宅政策のあり方について考える力を養う。</p> <p>■ 到達目標およびディプロマポリシーとの関連</p> <p>建築学部の学習・教育目標の（G-5）（都市とまちなみ）、（G-6）（建築プロジェクトの企画力）に対応します。到達目標は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 住宅政策の変遷についての理解 2. 日本における団地のあり方についての理解 3. 人口減少自体の住宅政策についての理解 <p>この科目の修得は、本学科の定めるディプロマ・ポリシー3の達成に關与しています。</p> <p>■ 成績評価方法および基準</p> <p>レポートと科目終末試験の合格 100%</p> <p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法</p> <p>レポート、科目終末試験の結果と解答例を返却します</p> <p>■ 教科書</p> <p>[ISBN] 9784306046306 『人口減少時代の住宅政策 - 戦後70年の論点から展望する』（山口幹幸・川崎直宏 編、鹿島出版会：2015）</p> <p>■ 参考文献</p> <p>[ISBN] 9784765524803 『マネジメント時代の建築企画』（日本建築学会 編、技報堂出版：2004） [ISBN] 9784870711280 『建築再生学 - 考え方・進め方・実践例』（松村秀一、市ヶ谷出版社：2016） [ISBN] 9784621087565 『コンパクト建築設計資料集成 都市再生』（日本建築学会、丸善出版：2014）</p> <p>■ 関連科目</p> <p>建築マネジメント論</p> <p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間</p> <p>第二次世界大戦後の住宅政策は現代住宅のあり方に大きな影響を与えている。これからの住宅や都市のあり方について考えるためには、その歴史について理解を深めることが重要である。教科書の第一部 戦後70年の住宅政策では、萌芽期、高度経済成長期、政策模索期、バブル期、政策転換期、現代における住宅施策が歴史の変遷とともに記載されている。これらを熟読し、住宅政策の歴史についての理解を深める。次に、第二部では人口減少時代の住宅施策についての論点が記載されている。これらの論点から次の時代の住宅および都市に関する政策について構想する力を養う。</p>					

科目コード	2313	科目名	建築マネジメント論	テキスト授業	CT
<p>■ 授業概要 日本の社会は成長期から成熟期へと移行しており、建物をつくるだけでなく、つくり・守り・育てる能力が必要とされている。特に既存ストックの維持管理、運営、再生の重要性が高まっている。本講義では、市場の動向や将来予測を踏まえて建築をマネジメントする能力を養う。具体的には、建築需要を見据えた企画力を修得するために、建築を企画するプロセス、建築のプログラムについての知識について学習する。</p>					
<p>■ 到達目標およびディプロマポリシーとの関連 建築学部の学習・教育目標の（G-5）（都市とまちなみ）、（G-6）（建築プロジェクトの企画力）に対応します。到達目標は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 建築マネジメントに関する基本的な理解 2. 建築企画のプロセスについての理解 3. 建築企画の現代的課題についての理解 <p>この科目の修得は、本学科の定めるディプロマ・ポリシー3の達成に関与しています。</p>					
<p>■ 成績評価方法および基準 レポートと科目終末試験の合格 100%</p>					
<p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法 レポート、科目終末試験の結果と解答例を返却します</p>					
<p>■ 教科書 [ISBN] 9784765524803 『マネジメント時代の建築企画』（日本建築学会 編，技報堂出版：2004）</p>					
<p>■ 参考文献 [ISBN] 9784870711280 『建築再生学－考え方・進め方・実践例』（松村秀一，市ヶ谷出版社：2016） [ISBN] 9784621087565 『コンパクト建築設計資料集 都市再生』（日本建築学会，丸善出版：2014）</p>					
<p>■ 関連科目 都市住宅政策論</p>					
<p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間 教科書（マネジメント時代の建築企画）の第一部「建築企画の基本問題」、第二部「建築企画のプロセス」、第三部「建築企画の現代的課題」、第四部「建築企画の実践」について熟読し、その内容をまとめる。これらの内容から、建築企画の概念、市場と建築の関係、建築の職能と産業形態、建築企画のプロセス、建築のプログラム技術と手法について学ぶ。さらに、サステナブル社会、共生社会、地域文化など社会全体の課題と建築の関わりについて理解を深め、建築学に関する職能を持った技術者、設計者として社会課題に対して、どのように向かい合っていくべきかについて理解する。</p>					

科目コード	2314	科目名	住宅環境性能論	オンデマンド 授業	ME
<p>■ 授業概要</p> <p>住宅に望まれる環境性能は多岐にわたるが、屋内環境と環境負荷の観点で、必要とされる諸性能について概観したうえで、それぞれを詳細に学ぶ。屋内環境については、音・熱・光・空気の基本4要素について、これまでの学習内容を再整理し、居住者と住宅建物にとって望ましい姿を示す。環境負荷については、CASBEE環境性能評価システムにのっとり、総合的な評価の観点で、その手法を学ぶ。</p> <p>■ 到達目標およびディプロマポリシーとの関連</p> <p>到達目標は、持続可能な社会における住宅の位置付けと、この中で環境工学的な視点から、屋内環境と環境負荷の役割を重要性とともに理解すること。 この科目の修得は、本課程の定めるディプロマ・ポリシー3の達成に関与する。</p> <p>■ 成績評価方法および基準</p> <p>メディア単位修了試験の合格 100%</p> <p>■ 教科書</p> <p>適時資料を配布</p> <p>■ 参考文献</p> <p>[ISBN] 9784395321469 『環境工学教科書 第三版』(環境工学教科書研究会, 彰国社:2020) [ISBN] 9784621023136 『建築設計資料集成(1)環境』(日本建築学会, 丸善出版:1978)</p> <p>■ 関連科目</p> <p>建築環境工学概論、音・光環境、熱・空気環境</p> <p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間</p> <p>第1回 住宅の環境性能の概要：住宅の環境性能として、屋内環境と環境負荷の意味と日常生活と社会における位置づけについて学ぶ</p> <p>第2回 屋内環境4要素：住宅屋内に必要とされる、熱・空気・光・音の4要素について学ぶ。</p> <p>第3回 住宅とエネルギー：地球環境問題の克服の一つとして重要なエネルギー性能について、住宅とエネルギーの関連、日常生活における用途と節約手法などを学ぶ。</p> <p>第4回 住宅と木材：地産地消の観点で重要な、住宅建築に使用される木材を巡る問題と、木の重要な性質について学ぶ。</p> <p>第5回 住宅建材としての鉄・コンクリート・ガラス：住宅建築に不可欠な鉄、コンクリート、ガラスの製造方法と性質・諸特性について学ぶ。</p> <p>第6回 住宅と断熱材：住宅の省エネルギーに関連の深い断熱材について、種類と使用法を学ぶ。</p> <p>第7回 壁体断熱特性：住宅のエネルギー消費に関連の深い、壁体の断熱性能について、熱・空気環境で習得した内容を再整理し、その評価方法を学ぶ。</p> <p>第8回 壁体断熱性能U値の算出：前回の講義内容を踏まえて、具体例の断熱性能算出を行い、この過程を通じて評価の具体を学ぶ。</p> <p>第9回 住宅建物熱性能評価：住宅建物としてのエネルギー性能のインデックスとして利用される熱損失係数Q値について、その算出方法を学び、具体例について算出する。</p> <p>第10回 暖房負荷：前回学習したQ値に基づき、暖房に必要とされるエネルギー量の予測評価方法を学ぶ。</p> <p>第11回 断熱基準：国によって定められる住宅建物に必要とされる断熱性能の基準を、過去からの変遷とともに学習する。</p> <p>第12回 住宅の省エネルギー基準：国によって定められる住宅建物のエネルギー性能の評価方法と、その基準の現状を学ぶ。</p> <p>第13回 住宅建築物の環境負荷評価手法：建築物総合環境性能評価システムCASBEEの内容を学習する。</p> <p>第14回 環境共生住宅の今：国内外の環境共生住宅の実例を紹介し、その具体的技法を学ぶ。</p> <p>第15回 住宅における性能のあるべき姿：これまでの学習内容に基づき、住宅における性能のあるべき姿を整理する。</p>					

科目コード	2315	科目名	環境都市計画論	テキスト授業	CT
<p>■ 授業概要 明治に始まる建築学は、わが国特有の耐震構造とともに、大きな課題であった生活環境における衛生問題の克服を対象としていた。建築衛生学から建築環境工学の推移には、対象とする環境の、屋内スケールから建築、都市スケールへの拡大がある。本授業では、これらの経緯から、現在の都市と建築が向き合う様々な環境問題を通じて、持続維持可能な都市と建築のありようを学ぶ。 授業は講義形式にのっとる。前回の復習、質問への答えの後で、配布するプリントならびにスライドを教材として学習する。</p>					
<p>■ 到達目標およびディプロマポリシーとの関連 建築学部の学習・教育目標（F）建築工学の基礎的理解に主に対応する。付随的に（C）専門家倫理、（D）自発的・主体的な学習にも対応する。 到達目標は、持続可能な社会における建築の都市の抱える問題点と、これらの対策の現状を理解すること。この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシー3の達成に関与する。</p>					
<p>■ 成績評価方法および基準 科目終末試験の合格 100%</p>					
<p>■ 教科書 適時資料を配布</p>					
<p>■ 参考文献 [ISBN] 9784395321469 『環境工学教科書 第三版』（環境工学教科書研究会，彰国社：2020） [ISBN] 9784621023136 『建築設計資料集成（1）環境』（日本建築学会，丸善出版：1978）</p>					
<p>■ 関連科目 環境工学概論、熱・空気環境、音・光環境、住宅環境性能論</p>					
<p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間</p> <p>第1回 都市・建築における環境の概要集落から村、村から都市への拡大の過程とその理由を国内外の実例と共に学ぶ。</p> <p>第2回 人口からみた都市の成長世界全体・日本での人口の変遷と、この意味を学ぶ。</p> <p>第3回 産業と都市の興亡石炭産業による都市の成長と衰退の経緯を学び、産業の意味を考察する。</p> <p>第4回 都心再生メガシティにおける人口の集中と分散の過程、ならびに周辺都市への影響を学ぶ。</p> <p>第5回 ゴミ問題都市の成長限界の決定要因のひとつであるゴミ処理問題について、実情と対策、ならびに対策の困難さを学ぶ。</p> <p>第6回 大気汚染都市における大気汚染問題の経緯と実情、対策を学ぶ。</p> <p>第7回 都市の騒音問題都市特有の騒音問題を過去からの推移と共に学ぶ。</p> <p>第8回 日照・眺望建物が作り出す日影と眺望阻害の実態と対策方針を学ぶ。</p> <p>第9回 ビル風の基本建物が作り出す独特のビル風の原因と基本性状を学ぶ。</p> <p>第10回 ビル風の対策前回学んだビル風の対策として、建築計画における留意点を学ぶ。</p> <p>第11回 ヒートアイランドヒートアイランドの発生理由と対策を、地球温暖化との差異と共に学ぶ。</p> <p>第12回 スマートシティこれからの都市のありようの一つとして、スマートシティについて構成要素ならびに実情を学ぶ。</p> <p>第13回 環境共生都市世界初の環境共生都市であるドイツ・チュービンゲンを対象に、その経緯と実際を学ぶ。</p> <p>第14回 都市の環境配慮評価都市レベルでの環境配慮程度を評価するCASBE都市について学ぶ。</p> <p>第15回 環境都市・建築のありようこれまでの学習内容に基づき、これからの都市に必要とされる環境性能について整理する。</p> <p>予習内容：これまでの各回の学習内容の要点を整理しておく。（30分） 復習内容：演習でわかった学習の不十分な点を振り返り、内容を把握しておく。（30分）</p>					

科目コード	2316	科目名	卒業ゼミナール	スクーリング	SF SO
<p>■ 授業概要</p> <p>卒業ゼミナールでは、本課程で学修してきたことを統合し課題に取り組む。設計・計画（環境含む）のいずれかの分野を選択し、指定されるテーマについて調べ、各人の解決策を提案する。具体的には、テーマならびに解決策のまとめ方はオンデマンド動画で学び、これまでの学習成果に基づき知見を交えて解決策を作成し、提出する。提出されたものを教員が添削、指導したのち、最終的にスクーリングまたはオンライン授業にてプレゼンを行い、教員、ならびに参加学生による評価に基づき改善を行う。最終成果物はルーブリックに基づき成績を判定する。</p> <p>■ 到達目標およびディプロマポリシーとの関連</p> <p>学習・教育目標 建築学部の学習教育目標である（J）（卒業研究）「建築学の専門知識に基づき、社会で要求される水準にある課題や問題について創造的に解決する能力を養う。」ことを目標として設定する。 到達目標は、社会から要請される専門分野としての力量を身につけることをめざす。 この科目の修得は、建築学部建築学科（通信教育課程）の定めるディプロマ・ポリシー4の達成に参与している。</p> <p>■ 成績評価方法および基準</p> <p>最終制作物 100%</p> <p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法</p> <p>課題制作時、ならびに発表時に適宜、必要なフィードバックを行う</p> <p>■ 教科書</p> <p>特になし（制作要領等は配信動画で説明する）</p> <p>■ 関連科目</p> <p>他の全ての科目</p> <p>■ 授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間</p> <p>テーマの選択</p> <p>1～2回目 オンデマンド動画により、設計、計画（環境含む）から、いずれかのテーマを選択する。</p> <p>3～9回目 課題の作成ならびに中間制作物の提出 選択したテーマについて、社会的背景や技術的課題などを調査し、問題点を整理、これに基づき、解決方針を検討する。 成果を中間制作物（レジメ）にまとめ、提出する。</p> <p>10～11回目 中間制作物に対する教員の指導に基づき修正を加える。</p> <p>12～14回目 対面もしくはオンラインでプレゼンを行う。またプレゼン内容を対象にグループディスカッションを行う。</p> <p>15回目 グループディスカッションならびに教員による指導をもとに修正を加え、最終成果物を作製する。</p> <p>予習内容：これまでの学修成果に基づきテーマの位置づけ、解決方針を検討する。（400分） 復習内容：教員からのコメントを踏まえて成果物の完成度を高める。（400分）</p>					